建設工事施工管理基準

この建設工事施工管理基準は、長崎県建設工事共通仕様書〔H22.4〕第1編1-1-29「施工管理」に規定する建設工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。なお、建築工事(電気・管及び機械器具設置工事等を含む。)については、国土交通大臣官房官庁営繕部監修の建築工事施工管理指針、電気設備工事施工管理指針及び建設設備工事設計管理指針等によることができる。

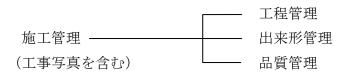
1.目的

この基準は、建設工事の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

2. 適 用

この基準は、長崎県土木部が発注する建設工事について適用する。ただし、設計図書に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この基準によりがたい場合は、監督職員と協議して他の方法によることができる。

3. 構成



4. 管理の実施

- (1)受注者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 受注者は、測定(試験)等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 受注者は、測定(試験)等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、品質管理資料・出来形管理 資料・写真管理資料を工事完成時までに提出しなければならない。

5. 管理項目及び方法

(1) 工程管理

受注者は、工事内容に応じて適切な工程管理(ネットワーク、バーチャート方式など)を行うものとする。但し、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

(2) 出来形管理

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理図等を作成し管理するものとする。

(3) 品質管理

1. 受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理し、その管理内容に応じて品質管理図表を作成するものとする。

この品質管理基準の試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定するもの を実施するものとする。

なお、「試験成績表等による確認」に該当する試験項目は、試験成績表やミルシートによって規程の品質(規格値)を満足しているか確認することができるが、必要に応じて現場検収を実施しなければならない。

2. 受注者は、セメントコンクリートの適用に当たり、無筋コンクリートのうち重力式 橋台、橋脚及び重力式擁壁(高さ2.5mを越えるもの)については、鉄筋コンクリート に準じるものとする。

6. 規格値

受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測(試験・検査・計測)値は、すべて規格値を満足しなければならない。

7. その他

(1) 工事写真

受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準 (案)により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し直ちに提示するとともに、完成時までに提出しなければならない。

附 則

この建設工事施工管理基準は、平成24年 4月 1日から適用する。

試験成績表等 による確認											
極			JIS A 500g コンクリート用砕砂及び砕石、 - 31部: 高炉スラグ骨材) - 11部: 高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材- 31S A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材- 第2部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材- 第3部: 銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材- ・ 第3部: 電気炉酸化スラグ細骨材) JIS A 5021 (コンクリート用スラグ骨材- ・ 第4部: 電気炉酸化スラグ細骨材)			濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。			, スラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用しない。	/ 6ヶ月以上および(寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用 する。 	
試験基準	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中 1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。	工事開始前、工事中 1 回 / 月以上および産地が変わった場合。	mIR	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)	工事開始前、工事中1回/年以上および産地 が変わった場合。 	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	工事開始前、工事中1回 / 月以上および産地が変わった場合	工事中1回語合。	工事開始前、工事中1回ノ6ヶ月以上および 産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回7月以上
規格値	司左	設計図書による。	密 度:2.5以上 吸水率:3.5%以下 吸水率:3.0%以下 砂石、高炉スラグ骨材、フェロニッ が細骨材、銅スラグ網骨材の規格値 は摘要を参照)	コンクリートは35%以下 3地の舗装コンクリートの場合	500 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度「が90%以上の場合は使用できる。	以上		リートの外観が重要な場合 bの場合1.0%以下 リートの外観が重要な場合 bの場合1.0%以下	以下 以下	JIS R 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5212(シリカセメント) JIS R 5213(フライアッシュセメント) JIS R 5214(エコセメント)
試験方法	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平 制対策について」(平成14年7月31日付け国 官技第112号、国港環第 35号、国空建第78号)」	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	\forall	JIS A 1103 JIS A 5005	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137	JIS A 1141	JIS A 1122 JIS A 5005	JIS R 5201
試験項目	アルカリ骨材反応対策	骨材のふるい分け試験	岩	憲		砂の有機不純物試験	モルタルの圧縮強度によ、 る砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験、	骨材中の比重1.95の液体 に浮く粒子の試験	硫酸ナトリウムによる骨、 材の安定性試験	セメントの物理試験
工種 種別 試験 区分	本本	40句	- ト(転圧コンクリー ト・コン				-				

試験成績表等 による確認						
摘		上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならない。	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。	小規模工種で1工種当1.00%と日量が5.0 mi未満の場合は1工種1回以上の試験。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満0場合は1工種1回以上の記載。
	工事開始前、工事中1回7月以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および,上水道を使用している場合は試験に換え、 水質が変わった場合。 よる確認を行う。	工事開始前及び工事中1回/年以上および その原水は、水質が変わった場合。 水の規定に近水質が変わった場合。	設計図書による。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	工事開始前及び工事中1回/年以上。
規格值	ンドセメント) ント) メント) ッシュセメント) ント)	E II	塩 化 物 イ オ ン 量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	水 : ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨 材: ±3%以内 混 和 材: ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混 和 剤: ±3%以内		
試驗方法	JIS R 5202	上水道水及び上水道水以外の水の場で、 道水以外の水の場合: JISA 5308附属書3	回収水の場合: JIS A 5308附属書3		バッチニキサの場 D: A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-1 502
試験頂目	ЬØ	練混ぜ水の水質試験		計量設備の計量精度	三キサの練混ぜ性能試験	
i 試験 区分	46句			40色		
種別	材料			製造(プラント))	

試験成績表等 に よる 確 認					材令28日強度 については、 公的機関での 試験とする。		材令28日強度 については、 公的機関での 試験とする。	
海	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の調象 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化 物イオン含有率調験方法」(JSGE-C502,503) または鋭計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省 略できる。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 材令28日強度 未満の場合は1工種1回以上の試験。 については、 公的機関での 試験とする。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の試験。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 材令28日強度 未満の場合は1工種1回以上の結構。 については、 コンクリート舗装の場合には、曲げ強度試験を公的機関での適用する。 試験とする。	
試 縣 基 準	2回/日以上	1回/日以上	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	 ・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート 所版にレディーミクスコンクリート を用いる場合は原則として全車測定を行う。 ・道路橋 床板の場合、全車	•	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の 規模に応じて20~150㎡ごとに1回、 および荷卸し時に品質変化が認められた 時	コンクリート舗装の場合に適用し、打設日1日につき 2回(午前1回、午後1回)の割りで行う。なおテストピースは打設場所で採取し、1回につき原則として3個とする。	品質に異常が認められた場合に行う。 品質に異常が認められた場合に行う。
規格値	設計図書による	設計図書による		スランプ5cm以上8cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下: 許容差±2.5cm (コンクリート舗装の場合) スランプ2.5cm : 許容値±1.0cm (道路橋床版の場合) スランプ8cmを標準とする。	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	±1.5%(許容差)	1回の試験結果は指定した呼び強度の86%以上であること。3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。	設計図書による。設計図書による。
試 縣 方 法	JIS A 1111	JIS A 1125	「コンクリートの耐久性向上」	JIS A 1101	JIS A 1108	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 1106	JIS A 1107 JIS A 1112
	細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験	塩化物総量規制	スランプ試験	コンクリートの圧縮強度試験	空気量測定	コンクリートの曲げ強度 JIS 試験	コアによる強度試験コンクリートの洗い分析
試 区分	40色	<u> </u>	沙 烴				その他	
種別	製造(

試験成績表等 による 確認					
摘要	高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25m以上の鉄筋コンクリートカルパート類 橋梁上・下部工(ただしいずかの工種こいてもプレキャスト製品およびプレストレストコンクリートは対象としない。)及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象とし構造物体の対盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。フーチング・底板等で竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。	に高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルロが一下無 橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・横門を対象。(ただしいずれの工種ここいてもプレキャスト製品およびプレストロストコンクリートは対象としない。)また、日調査の平均強度が、所定の強度が設計強度の81場合、もしくは1カ所の強度が設計強度の81%合、もしくは1カ所の強度が設計強度の81%合、もしくは1カ所の強度が設計強度の81%合、もしくは1カ所の強度が設計強度の81%合、もしくは1カ所の強度が設計域度の81%合、もしくは1カ所の強度が設計域度の81%を下回った場合は、コアによる強度試験を行う。 工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督職員と協議するものとする	コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の 決定に際しては、設置された鉄筋を損傷さ せないよう十分な検討を行う。 圧縮強度試験の平均強度が所定の強度が 得られない場合、もしくは1カ所の強度が 設計強度の85%を下回った場合は、監督 職員と協議するものとする	同左	同左
試 験 基 準	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類で 高さが、5 m以上の鉄筋コンクリート擁壁 内行う。 その他の構造物については強度が同じプロ パート類、橋梁上・下部工及び高さが3 m以上ックを1 構造物の単位とし、各単位につき3 の堰・水門・樋門を対象。(ただし)ずかの工力所の調査を実施。また、調査の結果、平均 種についてもプレキャスト製品およびプレスト値が設計基準強度を下回った場合と、1 回の レストコンクリートは対象としない。また場談に乗が設計基準強度の85%以下とな 再調査の平均強度が、所定の強度が得られないった場合は、その箇所の周辺において、再調 場合、もしくは1カ所の強度が得られないった場合は、その箇所の周辺において、再調 場合、もしくは1カ所の強度が発計強度の8 査を5カ所実施。 「1期等により、基準期間内に調査を行えない場合は数28日~91日の間に試験を行う。」 「1期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督職員と協議するものとする	所定の強度を得られない箇所付近において、原位置のコアを採取。	同左	同左
規格値	O.2mm	設計基準強度	設計基準強度	同左	同左
試験方法	スケールによる瀏0定	504	JIS A 1107	「非破壊試験による るコンクリート構造物中の配筋状態 及びかぶり測定要領(案)」による	「微破壊・非破壊試験 によるコンクリート構造物の強度測定要領(案)」による
試験項目	ひび割れ調査	テストハンマーによる強 JSCE-G 度推定調査	コアによる強度試験	配筋状態及びかぶり	強度測定
試験 区分	必照		40色		
種別	施工後試験				
工種	セメント・コンクリート (転圧コンクリート・コンクリー トダ	/ 厶・覆工コンクリート	・吹付けコンクリ	下个係へ)

に対象による。	
 試験 方法 田税面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ 折れ曲がり等 ノギス等による計測 (詳細外観検査) 事心の偏心 ふくらみ ふくらみ ふくらみの長さ 日後面の研磨状況 なれ下がり 焼き割れ 折れ曲がり等 ノギス等による計測 (詳細外観検査) が、ちみの長さ 日後面の研磨状況 が、ちみの長さ 下れ下がり ができまが ができまが が、ちみの長さ 日後間のずれ等 ノギス等による計測 (詳細外観検査) 事心の偏心 ふくらみの長さ がくらみ。 	
外題 全 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
種 たて圧接 種 格工能試験	

試験成績表等 による確認					
摘要がに	熱間押抜法の場合・現格値を外れた場合は下記による。いずれ格値を外れた場合は下記による。いずれの場合も監督職員の承諾を得る。 ・は、再加熱、再加圧、押抜きを行って修正し、修正後外観検査を行う・は、再加熱して修正し、修正後外観検査を行う・は、再場条件により溶接機械の設置が出来ない場合には、添筋で補強する(コンクリートの充填性が低下しない場合に限る)。	規格値を外れた場合は、下記による。 ・不合格ロットの全数について超音波探傷検査を実施し、その結果不合格となった 箇所は、監督職員の承認を得て、補強筋(ラップ長の2倍以上)を添えるか、圧接部を切り取って再圧接する。 ・圧接部を切り取って再圧接によって修正する場合には、修正後外観検査および超音波探傷検査を行う。		・外径700mm未満:上ぐいと下ぐいの外 周長の差で表し、その差を2mm×以下 とする。 ・外径700mm以上1016mm以下:上ぐ いと下ぐいの外周長の差で表し、その差 を3mm×以下とする。 ・外径1016mmを超え2000mm以下: 上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差 の差を4mm×以下とする。	
試験基準	・目視は全数実施する。 ・特に必要と認められたものに対してのみ 詳細外観検査を行う。	各検査ロットごとに30箇所のランダムサン 超音波探傷検査は抜取検査を原則とする。 プリングを行い、超音波探傷検査を行った 抜取検査の場合は、各ロットの30箇所と 結果、不合格箇所数が1箇所以下の時はロ し、1ロットの大きさは200箇所程度を標ットを合格とし、2箇所以上のときはロッ準とする。ただし、1作業班が1日に施工しトを不合格とする。 たなら格とする。 ただし、合否判定レベルは基準レベルより トとする。 ただし、合否判定レベルとする。	設計図書による。		原則として全溶接箇所で行う。 但し、施工方法や施工順序等から全数量の実施が困難な場合は監督職員との協議により、 地が困難な場合は監督職員との協議により、 現場状況に応じた数量とすることができる。 なお、全溶接箇所の10%以上は、JIS Z 2343-1,2,3,4により定められた認定技術者 が行うものとする。 試験箇所は杭の全周とする。
規格値	熱間押抜法の場合ふくらみを押抜いた後の圧接面に対応するくらみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない。ふくらみの長さが1.10以上。ただし、SD490の場合は1.20以上鉄筋表面にオーバーヒートによる表面不整があってはならない。その他有害と認められる欠陥があってはならない。	・各検査ロットごとに30箇所のランダムサン 超音波探傷プリングを行い、超音波探傷検査を行った 抜取検査の結果、不合格箇所数が1箇所以下の時はロ し、1ロッットを合格とし、2箇所以上のときはロッ 準とする。トを不合格とする。ただし、合否判定レベルは基準レベルより トとする。-24db感度を高めたレベルとする。	目視により使用上有害な欠陥 (鋼管杭は変形 設計図書による。 など、コンクリート杭はひび割れや損傷な ど)がないこと。	【円周溶接部の目違い】 外径700mm未満 外径700mm以上1016mm以下 : 許容値3mm以下 外径1016mmを超え2000mm以下: 許容値4mm以下	JIS Z 2343-1,2,3,4 われ及び有害な欠陥がないこと。
試 験 方 法	・目視 田海面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ 折れ曲がり等 ・ノギス等による計測 (詳細外観検査) 軸心の偏心 ふくらみ ふくらみ	JIS Z 3062	目視	JIS A 5525	JIS Z 2343-1,2,3,4
試験項目	外観検査	超音波探傷検査	外観検査(鋼管杭・コン クリート杭・H鋼杭)	外観検査(鋼管杭)	鯔管杭・コンクリート 杭・H鋼杭の現場溶接浸 透探傷試験(溶剤除去性 染色浸透探傷試験)
l 試験 区分			沙 熈		
重種別	福川後淵驟		本業	福 日	
田	ガス圧接		既製は	₹H	

試験成績表等 による 確認									
摘 要 就		中堀工法等で、放射線透過試験が不可能な場合は、放射線透過試験に替えて超音波探場合は、放射線透過試験に替えて超音波探傷試験とすることができる。		参考値:19.6Mpa		・鉄鍋スラグには適用しない。	・CS:クラッシャラン鉄鋼スラグに適用 する。		・再生クラッシャランに適用する。
試験基準	原則として溶接20箇所毎に1箇所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から透過し、その撮影長は30cm/1方向とする。(20箇所毎に1箇所とは、溶接を20箇所施工した毎にその20箇所から任意の1箇所を記験することである。)	原則として溶接20箇所毎に1箇所とする 中堀工法等で、放射線透過試験が不可能なが、施工方法や施工順序等から実施が困難な 場合は、放射線透過試験に替えて超音波探場合は現場状況に応じた数量とする。 なお、 傷試験とすることができる。対象箇所では鋼管抗を4方向から探傷し、その探傷長は30㎝/1方向とする。 (20箇所毎に1箇所とは、溶接を20箇所箱には、溶液を20箇所種に1箇所とは、溶接を20箇所	試料の採取回数は一般に単杭では30本に 1回、継杭では20本に1回とし、採取本数 は1回につき3本とする。	供試体の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とすることが多い。尚、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成した 5×10cmの円柱供体によって求めるものとする。	施工前、材料変更時	施工前、材料变更時施工前、材料变更時施工前、材料变更時		施上 即、材料 炎 更時	施工前、材料变更時
規格値	JIS Z 3104の3類以上	JIS Z 3060の3類以上	設計図書による。 又、設計図書に記載されていない場合は60% ~70%とする。	設計図書による。	粒状路盤:修正CBR20%以上(クラッシャラン 鉄鋼スラグは修正CBR30%以上) アスファルトコンクリート再生骨材を含む 再生クラッシャランを用いる場合で、上層路 盤、基層、表層の合計厚が40cmより小さい場合は30%以上とする。	JIS A 5001 表2参照 塑性指数PI:6以下	1.5%以下	重色なし	再生クラッシャランに用いるセメントコン 施工前、材料変更時クリート再生骨材は、すり減り量が50%以下 とする。
試験方法	JIS Z 3104	71S Z 3060	比重の測定		舗装調査・試験法便 覧[4]-5	JIS A 1102 JIS A 1205	舗装調査・試験法便覧[4]-16		JIS A 1121
試験項目	鋼管杭・H鋤杭の現場溶接放射線透過試験	綱管杭の現場溶接超音波 探傷試験	鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) 水セメント比試験	/クリート杭レクの圧縮強		骨材のふるい分け試験 、 土の液性限界・塑性限界、 試験	鉄鋼スラグの水浸膨張性 舗装調査・試験法便 1.5%以下 試験 覧[4]-16 ※PORTコービットログ ※PORT 10.5.501	Æ	粗骨材のすりへり試験、
i 試験 区分	冷 熈	46句			冷 概				その他
種別	超日				—————————————————————————————————————				
工種	既製杭工				下層路鐵				

試験成績表等 による確認														
難	・締固め度は、10個の測定値の平均値 χ_0 が規格値を満足しなければならない。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値 χ_0 が規格値を満足していなければならないが、 χ_0 が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値 χ_0 が規格値を満足していればよい。		・確認試験である。・セメントコンクリートの路盤に適用する。					・NS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性 粒度調整鉄鋼スラグに適用する。		・但し、鉄鋼スラグには適用しない。	・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。	・NS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性 粒度調整鉄鋼スラグに適用する。	・HMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用 する。	・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性 粒度調整鉄鋼スラグに適用する。
試験基準	1 , 0 0 0㎡につき1個、最低3個以上	下層路盤仕上げ後全幅、全区間について実施	1 , 0 0 0 miにつき 2 回の割合で行う。	異常が認められたとき。	異常が認められたとき。	異常が認められたとき。		施工前、材料变更時	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時	施工前、材料变更時	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時
規格値	試験法便最大乾燥密度の93%以上 X ₁₀ 95%以上 X ₆ 96%以上 X ₃ 97%以上 ただし、歩道の基準密度については設計図書 による。			<u>um</u>	塑性指数DI:6以下	設計図書による。	/クリート再生骨材含む場 80%以上		JIS A 5001 表2参照	71:4以下	星色なし 加藤 は は は は は は は は は は は は は は は は は は	試験法便1.5%以下	4日)	
試験方法	舗装調査・試験法便 覧 [4] - 191	舗装調査・試験法便 覧[4]-210	JIS A 1215	JIS A 1102	JIS A 1205	JIS A 1203	舗装調査・試験法便 覧 [4] - 5	舗装調査・試験法便 覧[4]-5	JIS A 1102	JIS A 1205	JIS A 5015 舗装調査・試験法便 覧[4]-10	舗装調査・ 覧[4]-16	舗装調査・試験法便 覧[4]-12	舗装調査・試験法便 覧[2]-106
試験項目	現場密度の測定	ブルーフローリング	平板載荷試験	骨材のふるい分け試験	土の液性限界・塑性限界 JIS 試験	含水比試験	修正CBR試験	鉄鋼スラグの修正CBR試 舗装調査 験 覧[4]-5	骨材のふるい分け試験	土の液性限界・塑性限界 NIS A 1205 試験	鉄鋼スラグの呈色判定試JIS A 5015 験 舗装調査・ 覧[4]-10	鉄鋼スラグの水浸膨張性 試験	鉄鋼スラグの一軸圧縮試 舗装調査 験 <u>覧[4]-12</u>	鉄綱スラグの単位容積質 舗装調査・試験法便1.50kg/L以上 量試験 覧[2]-106
」 試験 区分	必 熈		40色				沙熈							
種別	福日						本業							
工種	下層路觀						上層路額	1						

試験成績表等 による確認																													
類 要																													
計 縣 基 準	施工前、材料变更時	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時		施工前、材料変更時		施工前、材料変更時		施工前、材料变更時		施工前、材料变更時			佐丁	原工即、			施工前、材料変更時	加工			施工前 材料亦 軍時		施工前、材料変更時		施工前、材料変更時		抽出・ふるい分け試験の場合:1回/日 印字記録の場合:全数	抽出・ふるい分け試験の場合:1回/日 印字記録の場合:全数
規格値	損失量:12%以下	軟石量:5%以下	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト : 表3.3.1	アスファルト: アスファルト:	工便覧参照	・舗装用石油アスファルト:表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3	١,	・舗袋用台油アスファルト:表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト:表3.3.3		・舗装用石油アスファルト :表3.3.1 ・セミブローンアスファルト:表3.3.4	舗装施工便覧参照	7711F	- ポリマー改質アスファルト:表3.3.3	ノローノゲイノアルト F価勢体的	開教院工使見参照・舗装田石油マフラボト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	スファルト	・セミブローンアスファルト:表3.3.4	舗装施工便覧参照 ・舗装田石油でスファルト・素3 3 1			ポリマー改質アスファルト	・ビニノローノア人ノアルト 舗装施丁価覧参昭	- 昨公派工に戻る派・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	舗装施工便覧参照	・セミブローンアスファルト:表3.3.4	舗装施工便覧参照 ### ###	・ホリベー以買ア人ノ	2.36mm/3vるl1::	試験法便 75μmふるい:±5%以内基準粒度
試験方法	JIS A 1122	JIS A 1126	JIS K 2207		JIS K 2207		JIS K 2207		JIS K 2207		JIS K 2265-1,2,3,4			7000 N 311	013 N 2201			JIS K 2207	2000 X SII	7077 1010		舗奘調杏・計略法 価	開代調査 昭禄/4년 覧[2]-180	舗装調査・試験法便	覧[2]-192	舗装調査・試験法便	寬[2]-244		舗装調査・試験法便 覧[2]-14
試験項目	Œ	粗骨材中の軟石量試験 、	針入度試験		軟化点試験		伸度試験		トルエン可溶分試験		引火点試験			连 1 日 1 日 3 日 1 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5 日 5				蒸発後の針入度比試験	设 中計縣			高 温 制 北 座 計 略		60 粘度試験		タフネス・テナシティ試		(2.36mmフルイ)	粒度(75μmフルイ)
試験区分	₩ <i>e</i> :		1 4141		, wr						1.4.			114	.,			11.03	į la			11-1		, w				必須	-12
種別	本菜																											プラ	ント
工種	F	スファ	⇒⊤#	##																									

試験成績表等 による 確認			公的機関での試験とする。			公的機関での 試験とする。										
益			・橋面舗装はコア採取しないでAs合材量 公的機関での(プラント出荷数量)と舗設面積及び厚 試験とする。さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)								含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験がやむをえずおこなえなれ場合に適用する。なお測定方法は試験の迅速性から付録7に示した直火法によるのが望ましい。				
黄	抽出・ふるい分け試験の場合:1回/日 印字記録の場合:全数	随時		随時	随時	1,000㎡につき1個、最低3個以上		舗設車線毎200m毎に1回	当初	当初	当初	当初	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回。	御骨材300㎡、粗骨材500㎡ごとに1回、あるいは1回/日。	細骨材300㎡、粗骨材500㎡ごとに1回、あるいは1回/日。	工事開始前、材料の変更時
規格	アスファルト量 ±0.9%以内	配合設計で決定した混合温度	・試験法便 基準密度の94%以上。 X ₁₀ 96%以上 X ₆ 96%以上 X ₃ 96.5%以上 ただし、歩道の基準密度については、設計図 書による。	110 以上		アスファルト量:±0.9% 粒度	2.36mmぶるU1:±12%以内 75μmぶるU1:±5%以内	・試験法便 設計図書による	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値:修正VC値:50秒	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値:締固め率:96%	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値:締固め率:97%	設計図書による。	設計図書による。	舗装施工便覧 細骨材 表-3.3.20 粗骨材 表-3.3.20	設計図書による。	設計図書による。
試 縣 方 法	舗装調査・試験法便 覧[4]-238		第法(目視	舗装調査・試験法便 アスファルト量 覧[4]-238 粒度		舗装調査・試験法便 覧[1]-84		転圧コンクリート 舗装技術指針(案)		JIS A 1203		JIS A 1102	1104	1109 1110
試 験 頂 目	アスファルト量抽出粒度 分析試験	温度測定(アスファル 温度計による。 ト・骨材・混合物)	現場密度の測定	め前):	外観検査(混合物)	アスファルト量抽出粒度 分析試験		すべり抵抗試験	システンシーVC試験	盤	フンベー突き回の乱瞬	含水比試験	コンクリートの曲げ強度 JIS A 1106 試験	骨材のふるい分け試験、	骨材の単位容積質量試験、	骨材の密度及び吸水率試 JIS A 験 JIS A
別 区分	必須		沙 原					40色								
工種 種別									R T 本 本							

試験成績表等	による確認																	
舞	Χ	ホワイトベースに使用する場合: 4 0 %以 下	観察で問題なければ省略できる。	濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含 む細骨材のモルタル圧縮強度による試験 方法」による。		観察で問題なければ省略できる。		寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用 する。						上水道を使用している場合は試験に換え、ト水道を使用している場合は試験に換え、	十分値も 文丘 りいこうしつ らかっぱたによる確認を行う。		その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならない。	・レディーミクストコンクリートの場合、 印字記録により確認を行う。
試験基準	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			工事開始前、材料の変更時	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	工事開始前、材料の変更時	工事開始前、材料の変更時	工事開始前、材料の変更時	工事開始前、工事中1回1月以上		工事開始前、工事中1回1月以上			工事開始前及び工事中1回/年以上および <mark>上水道を使用している場合は試験に換え、</mark> 必 <mark>を</mark> が売れったほ今	ションス・シート・8日		工事開始前及び工事中1回/年以上および その原水は、上水道水及び上水道水以外の水質が変わった場合。 水の規定に適合しなければならない。 	設計図書による。
規格値	<u> </u>	6以下		標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度_ が90%以上の場合は使用できる。	圧縮強度の90%以上 高	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下		細骨材:10%未満 粗骨材:12%以下	R 5210 (ポルトランドセメント)	JIS R 5211 (画やセメント) JIS R 5212 (ツリカセメント) JIS R 5213 (フライアッツュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	ポルトランドセメント)	R 5211 (高炉セメント) R 5212 (シリカセメント)	JIS K 5ZI3(ノグイ アダンコセメノア) JIS R 5Z14(Hコセメン ア)		:200ppm以下	セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、終結は60分以内 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	塩化物イオン量 : 200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	が : ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材 : ±3%以内 混和材 : ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤 : ±3%以内
試験方法	C	JIS A 1121	JIS A 1126	JIS A 1105	JIS A 5308の附属 書3	JIS A 1137	JIS A 5308の附属 書2	JIS A 1122 JIS A 5005	JIS R 5201		JIS R 5202			上水道水及び上水道水口を含まります。		JIS A 5308附属書3	回収水の場合: JIS A 5308附属書3	
試験項目			験	砂の有機不純物試験	モルタルの圧縮強度によ、 る砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験、	骨材中の比重1.95の液体、 に浮く粒子の試験	硫酸ナトリウムによる骨、 材の安定性試験	セメントの物理試験、		ポルトランドセメントの JIS R 5202	化学分析		練混ぜ水の水質試験				計量設備の計量精度
記事	_	₩6:	包															40色
工種 種別	_	本本		コンケン-														製造 (プランナ)

試験成績表等による確認								材令28日強度 については、 公的機関での 試験とする
	・小胡淳上権で1上権当りの総関相量か50m未満の場合は1工権1回以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の記簿。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。				
試験基準工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	上事開始削及ひ上事中1回/年以上。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	2回7日以上	1回7日以上	1日2回(午前・午後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。 ただし運搬車ごとに目視翻察を行う。	1日2回(午前・千後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。 ただ 心運搬車ごとに目視観察を行う。	1日2回(午前・千後)以上、その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。 ただし運搬車ごとに目視観察を行う。	1回は3個以上の供試体 2 回 / 日(午前・午後)で、3 本 1 組 / 回 (材全部の試験値の平均値 齢 2 8 日) 度を上まわらなければ なる場合は、 合基準強度の85%以上 均値は配合基準強度以
各值		コンクリート中のモルタル単位容積質差::0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3cm以下	設計図書による。	設計図書による。	修正VC値の±10秒	目標値の±1.5%		・試験回数が7回以上(1回は3個以上の供試体の平均値)の場合は、全部の試験値の平均値が所定の合格判断強度を上まわらなければならない。 試験回数が7回未満となる場合は、1回の試験結果は配合基準強度の85%以上3回の試験結果は配合基準強度の85%以上3回の試験結果の平均値は配合基準強度し
試験方法	バッチミキサの場合: 合: JIS A 1119 JIS A 8603-1,2	連続三キサ場合: 土木学会基準 JSCE-1 502	JIS A 1111	JIS A 1125	舗装調査・試験法便	覧[3]-290 いずれか1方法		JIS A 1106
就够頂目	三 キ サの 練 混 せ 性 能 記 嫌		細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験	コンシステンシーVC試験 マーシャル突き固め試験 舗装調査・試験法便	ランマー突き固め試験		コンクリートの曲げ強度 JIS A 1106 試験
引 区分 区分	小 6 割				必熈			
工種種別	転圧コンクリート製造 (プラント)				旭二			

表 解 認																	
試験成績表等 による確認																	
摘要説に													・規格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。	・規格値は、石油アスファルト(針入度 2 0 ~ 4 0 ルトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。	・規格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。	・規格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。	・規格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。
試 験 基 準	2回ノ日(午前・午後)以上	4 0 mに1回(横断方向に3箇所)	1,000㎡に1個の割合でコアを採取して 測定	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時		施工前、材料变更時	施工前、材料变更時	施工前、材料变更時	施工前、材料变更時	施工前、材料変更時		施工前、材料変更時	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時
規格値		基準密度の95.5%以上。		JIS A 5001 表2参照	表層・基層 表乾密度:2.45g/㎝似上 吸水率 :3.0%以下	粘土、粘土塊量:0.25%以下	細長、あるいは偏平な石片:10%以下	便覧3-3-17による。	1%以下	30%以下	損失量:12%以下	軟石量:5%以下	15 ~ 30(1/10mm)	58 ~ 68	10cm以上(25)	86 ~ 91%	240 以上
試 験 方 法	温度計による。		舗装調査・試験法便 覧[3]-300	JIS A 1102	JIS A 1109 JIS A 1110	2	舗装調査・試験法便 細長、 覧[2]-45) 8008 A SIC	JIS A 5008	JIS A 1121	JIS A 1122	JIS A 1126	2207	JIS K 2207	JIS K 2207	JIS K 2207	JIS K 2265
議項目	7 J – L 7	現場密度の測定	コアによる密度測定		骨材の密度及び吸水率試、 験	骨材中の粘土塊量の試験、	粗骨材の形状試験	フィラーの粒度試験	フィラーの水分試験	粗骨材のすりへり試験	硫酸ナトリウムによる骨、 材の安定性試験			軟化点試験	伸度試験	トルエン可溶分試験	引火点試験
試験 区分	必原			必怎						₩6							
種別	銀工			本菜	-												
工種	口型	コンク=	<u>></u> - ∠	Ĭ	グー スアスファルト舗装												

試験成績表等 による 確認														
難	・規格値は、石油アスファルト(針入度 2 0 ~ 4 0)にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。	・規格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。									測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)			左記の規格値を満たしていても、規格値を著していても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。
試器基準	施工前、材料変更時	施工前、材料変更時	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材1 00t未満の場合も実施する。	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材1 00t未満の場合も実施する。	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材1 00t未満の場合も実施する。	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材1 00t未満の場合も実施する。	抽出・ふるい分け試験の場合:1回/日 印字記録の場合:全数	抽出・ふるい分け試験の場合:1回/日 印字記録の場合:全数	抽出・ふるい分け試験の場合:1回/日 印字記録の場合:全数	随時	阿	当初及び土質の変化したとき	当初及び土質の変化したとき	500㎡につき1回の割合で行う。
規格 値	0.5%以下	1.07 ∼ 1.13g/cm³	賞入量(40)目標値 表層:1~4mm 基層:1~6mm	3~20秒(目標値)	300%上	破断ひずみ(-10 、50mm/min) 8.0×10 ⁻³ 以上	2.36mmぶるU1:±12%以内基準粒度	・試験法便 75 μ m.3v るし):±5%以内基準粒度	アスファルト量:±0.9%以内	アスファルト:220 以下 石 粉 : 常温~150		設計図書による。	設計図書による。	最大乾燥密度の90%以上。
試験方法	JIS K 2207	JIS K 2207		舗装調査・試験法便 覧[3]-320	ールトラッキング試 舗装調査・試験法便 300以上 覧[3]-39	舗装調査・試験法便 破断ひずみ 覧[3]-69 8.0×10 ⁻³ 以、	舗装調査・試験法便 2.36mmぶるU1 覧[2]-14	舗装調査・試験法便 7 覧[2]-14	舗装調査・試験法便 覧[4]-238	アル 温度計による。	温度計による。	JIS A 1210	舗装調査・試験法便 覧[4]-155、[4]-158	最大粒径 53mm: juls A 1214 Juls A 1214 Juls A 1210 A・B法 最大粒径 > 53mm: 舗装調査・試験法便 覧 [4]-185
試験項目	蒸発質量变化率試験	密度試験	貫入試験40	リュエル流動性試験 240	ホイールトラッキング試 験	曲げ試験	粒度(2.36mmフルイ)	粒度(75μmフルイ)	アスファルト量抽出粒度 分析試験	温度測定(アスファル ト・骨材・混合物)	温度測定(初期締固め前)温度計による	土の締固め試験	CBR記馬	現場密度の測定 右記試験方法(3種類) のいずれかを実施する。
就縣区分	その色		沙原								必須	沙原		沙 熈
種別	本本		プ ルン-	L							場設設	本本		選刊
工種	グー	スアスフ	アルト舗	摐								路床安定処理工		

試験成績表等 による 確認							
摘要	・最大粒径~1 0 0 mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格 値を著しく下回っている点が存在した 場合は、監督職員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。		・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。			
試験基準	密度の平均値が最大乾 1日の1層あたりの施工面積を基準とする。 又は、設計図書による。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、 1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、 その施工面積を2管理単位以上に分割する ものとする。1管理単位あたりの測定点数の 目安を下表に示す。 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 10	1.盛土を管理する単位(以下「管理単位」) に分割して管理単位毎に管理を行う。 2.管理単位は築堤、路体路床とも1日の1 層当たりの施工面積は1,500㎡を標準 とする。2,000㎡以上の場合、その施 工面積を2管理単位以上に分割するもの とする。 3.1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管 理単位を複数層にまたがらせることはし ないものとする。 4.土取り場の状況や土質状況が変わる場合 には、新規の管理単位として取り扱うもの とする。	路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	延長 4 0 m につき 1 箇所の割合で行う。	各車線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。	降雨後または含水比の変化が認められたと き。	プルーフローリングでの不良個所について 実施
規格値	RI 計器を用いた盛1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾土の締固め管理要 燥度密度の90%以上。又は、設計図書による。領(案) 領(案)	「TS・GNSSを 施工範囲を小分割した管理ブロックの全で 用いた盛土の締固 が規定回数だけ締め固められたことを確認 め情報化施工管理 する。ただし、路肩から1m以内と締固め機 2 要領(案)」【TS 械が近寄れない構造物周辺は除く。 編・GNSS編】に よる			設計図書による。	設計図書による。	
試 験 方 法	RI 計器を用いた盛士の締固め管理要が (案) 領(案)	「TS・GNSSを 用いた脳上の第四か め情報化施工管理す 数値(案)」【TS 第・GNSS編】に よる	舗装調査・試験法便覧[4]-210	JIS A 1215	JIS A1222	JIS A 1203	舗装調査・試験法便 設計図書による。 覧[1]-227 (√ゲ/K7ビ-4)
試験項目	現場密度の測定 右記試験方法(3種類) のいずれかを実施する		ブルーフローリング	平板載荷試験	現場CBR試験	含水比試験	たわみ量
記錄 区分	必照			その色			
種別	超日						
工種	路床安定処理工						

最大和1在 55mm: 最大乾燥密度の90%以上。 JUS A 1210 JUS A 1210 A・B法 最大粒径>53mm: 輔夫調査・試験法便 覧 [4]-185 RI計器を用いた盛 管理単位の現場乾燥密度 土の締固め管理要 燥度密度の90%以上。又は 領(案)	I nov	の平均値が最大乾、設計図書による。	の変 DOC C C C C C C C C C C C C C C C C C C	配 在 糖 餌 ひ しゅ デ
	RI 計器を用いた盛 1管理単位の現場乾偽 土の締固め管理要 燥度密度の90%以上。 領(案) 「TS・GNSSを施工範囲を小分割し 用いた盛土の締固 が規定回数だけ締め め情報化施工管理 する。 毎領(案)」【TS 編・GNSS編】に	密度の平均値が最大的 又は、設計図書による。		・最大粒径 < 1 0 0mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再転圧を行うものとする。
ーリング	よる 舗装調査・試験法便 覧[4]-210	15-4		・但し、荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果をはついます。
	JIS A 1215	1	各車線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。	241 V V 462 600 C 448 600
	JIS A 1222 設計図書によ	29°	各車線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。	
	JIS A 1203 記計図書	ادلام. ادلام.	降雨後または含水比の変化が認められたと き。	
舗装調査	舗装調査・試験法便		プルーフローリングでの不良個所について	

試験成績表等 による確認									
摘要			但し、モルタルの必要強度の確認後に実施 すること。	但し、モルタルの必要強度の確認後に実施 すること。	・定着時緊張力確認試験 ・残存引張力確認試験 ・リフトオンテスト 等があり、多サイクル確認試験、1サイク ル確認試験の試験結果をもとに、監督員と 協議し行う必要性の有無を判断する。				
試 験 基 準	改良体500本未満は3本、500本以上は250本増えるごとに1本追加する。試験は1本の改良体について、上、中、下それぞれ1、計3回とする。ただし、1本の改良体で設計強度を変えている場合は、各設計強度毎に3回とする。現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督職員の指示による。	2回(午前1回、午後1回)/日 練りまぜ開始前に試験は2回行い、その平均 値をフロー値とする。	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0、1倍とし、 引き抜き試験に準じた方法で載荷と除荷 を繰り返す。	・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除 但し、モルタルの必要強度の確認後に実施くすべて。 ・ すべて。 ・ 初期荷重は計画最大荷重の約 0 . 1 倍とし、 計画最大荷重まで載荷した後、初期荷重ま		当初及び土質の変化時	同左	同左	設計図書による。
規格値	各供試体の試験結果は改良地盤設計強度 の88%以上。 1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値 の平均値で表したもの	設計図書による。	設計アンカーカに対して十分に安全であること。	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	グラウンドアンカ 所定の緊張力が導入されていること。 一設計・施工基準、 同解説 (JGS4101-2000)	設計図書による。	司左	远	0左
試験方法	JIS A 1216	JIS A 1108 JIS R 5201	グラウンドアンカ 一設計・施工基準、 同解説 (JGS4101-2000)	グラウンドアンカ -設計・施工基準、 同解説 (JGS4101-2000)	グラウンドアンカ - 設計・施工基準、 同解説 (JGS4101-2000)	JIS A 1210	補強土壁工法各設 E-計・施工マニュアル による。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	補強土壁工法各設 同計・施工マニュアルによる。
試験項目	土の一軸圧縮試験	モルタルの圧縮強度試験 JIS A 1108 モルタルのフロー値試験 JIS R 5201	多サイクル確認試験	1サイクル確認試験	その他の確認試験	土の締固め試験	外観検査(ストリップ、 調製壁面材、コンクリー。 ト製壁面材等)	製壁面材の 強度試験	土の粒度試験
別 区分	沙 原	多無			40句	沙 無			40色
工種 権別	回結工 名 名 名 日	アンカート				## 本業			

試験成績表等 による 確認						
猫	左記の規格値を満たしていても、規格値を著している点が存在した場合は、著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再)転圧を行うものとする。	・最大粒径<100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値 を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再) 転圧を行うものとする。				JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材・第1 部: 高炉スラグ骨材) JISA5011-2 (コンクリート用スラグ骨材・第2部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材・第3部: 銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材・第4部: 調気や酸化スラグ細骨材) 部: 電気炉酸化スラグ細骨材)
試験基準	500㎡につき1回 但し、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。	路体・路床とも、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す 100別に対し。500 1000 2000 1000 1000 1000 1000 1000 1	1.盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500㎡を標準とす。2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとす。3.1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとす。4.土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。 合。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地 が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。
規格値	最大乾燥密度の90%以上。 または、設計図書による。	路体・路床とも1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥度密度の90%以上。又は、設計図書による。	施工範囲を小分割した管理プロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。	同左	設計図書による。	絶乾密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッ ケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値 については摘要を参照)
試 縣 方 法	最大粒径 53mm: JIS A 1214 JIS A 1210 A・B法最大粒径 > 53mm: 輔裝調查・試験法便	RI計器を用いた盛度 上の締団め管理を 領(案)	「TS・GNSSを加 用いた磁土の締固人 め情報化施工管理 製織(案)」【TS 編・GNSS編】に よる	「アルカリ骨材反 応抑制対策について」、(平成14年7月 31日付け国官技第 112号、国港環第35号、国空建第78号)」	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021
試験項目	現場密度の測定 右記試験方法(3種類) のいずれかを実施する。			アルカリ骨材反応対策	骨材のふるい分け試験	骨材の密度及び吸水率試験
i 試験 区分				必 熈	その街	
重 種別	掲H			本 菜		
工種	# 2 日 型 日			吹付工		

試験成績表等 による確認		AIT AIL/			m.	m.				
摘要		濃い場合は、JISA 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。			スラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用しない。	/ 6ヶ月以上および 寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用 する。			上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならない。
	: 1.0%以下 : コンクリートの表面がすりへり作用 が変わった場合。 る場合3.0%以下、その他の場合5.0% (山砂の場合は、工事中1回/週以上) 砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合 クリートの表面がすりへり作用を受 合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	工事開始前、工事中1回/年以上および産地 濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含が変わった場合。 が変わった場合。 方法」による。 方法」による。	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地 が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および 産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回7月以上	工事開始前、工事中1回1月以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および、上水道を使用している場合は試験に換え、 上水道を使用していることを示す資料に よる確認を行う。	工事開始前及び工事中1回/年以上および その原水は、上水道水及び上水道水以外の水質が変わった場合。 水の規定に適合しなければならない。
規格値	粗骨材:1.0%以下 細骨材:コンクリートの表面がすりへり作用; を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0% 以下(砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合 はコンクリートの表面がすりへり作用を受 ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 工事開始前、 が90%以上の場合は使用できる。 が変わった場	4	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	細骨材:コンクリートの外観が重要な場合 工事開始前、工事中1回/年以上および産地 スラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用 0.5%以下、その他の場合1.0%以下 が変わった場合。 相骨材:コンクリートの外観が重要な場合 0.5%以下、その他の場合1.0%以下 0.5%以下、その他の場合1.0%以下				懸濁物質の量 : 2g/v以下 溶解性蒸発残留物の量:1g/v以下 塩化物イオン量 : 200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	塩化物イオン量 :200ppm以下セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で
試 験 方 法	JIS A 1103 JIS A 5005	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137	JIS A 1141	JIS A 1122 JIS A 5005	JIS R 5201		上水道水及び上水道水以外の水の場道水以外の水の場合: 11S A 5308附属書3	回収水の場合: JIS A 5308附属書3
		砂の有機不純物試験	モルタルの圧縮強度によ る砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験 118	骨材中の比重1.95の液体 JIS A 1141 に浮く粒子の試験	硫酸ナトリウムによる骨 材の安定性試験	セメントの物理試験	ポルトランドセメントの JIS R 5202 化学分析	練混ぜ水の水質試験	
試験区分	その他									
種別	本 菜									
工種	吹付工									

試験成績表等 による 確認							
	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	・レディーミクストコンクリートの場合、 印字記録により確認を行う。 ・急結剤は適用外	・小規模工種で1工種1回以上の記簿。 未満の場合は1工種1回以上の記簿。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の試験。	・小規模工種で1工種当100総使用量が50 mi 未満の場合は1工種1回以上の記載。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化 物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503) または強計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない、無筋構造物の場合は省 略できる。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の記簿。
試 験 基 準		1回/日以上	設計図書による。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・ 荷卸し時・ 1回 / 日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。
規格値	設計図書による	設計図書による	水 :±1%以内 セメント:±1%以内 骨材 :±3%以内 混和材 :±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤 :±3%以内	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート中のモルタル単位容積質差: 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下 E縮強度平均値からの差:7.5%以下 空気量平均値からの差:10%以下 スランブ平均値からの差:15%以下 コンクリート中のモルタル単位容積質差: コンクリート中のモルタル単位容積質差:10%以下	コンクリート中のモルタル単位容積質差: 0.8%以下コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下圧縮強度差:7.5%以下空気量差:11%以下スランブ差:3cm以下	原則0.3kg/ ㎡以下	スランプ5cm以上8cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下 : 許容差±2.5cm
試 験 方 法	JIS A 1111	JIS A 1125		バッチニキサの場で: 10.8 A 1119 JIS A 8603	連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-1 502	「コンクリートの」耐久性向上」	JIS A 1101
試 験 項 目	細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験	計量設備の計量精度	ミキサの練混ぜ性能試験		塩化物総量規制	スランブ試験(モルタル除く)
別区分区分	必須	9~ 1^ ~	40色			か の毛	
工種 種別	い 数型('' 	<u></u>			福日	

試験成績表等 による 確認	材令 28 日 強度につい ては、公的 機関での試 験とする。									
搬	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の試験	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の試現。				JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1 部: 高炉スラグ骨材) JIS A5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3 部: 銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第3 部: 調スラグ細骨材) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第4 部: 電気炉酸化スラグ細骨材)		濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。		
試器基準	吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事 で使用するのと同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で28日養生し、直径50mmのコアを切取りキャッピングを行う。原則として1回に3本とする。	・荷卸し時 ・1回 / 日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	品質に異常が認められた場合に行う。	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回 / 月以上および産地 が変わった場合。	mIR	工事開始前、工事中1回/月以上および産地が変わった場合。 が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)	濃1.1場合でも圧縮強度 工事開始前、工事中1回/年以上および産地 濃1.1場合は、JISA1142「有機不純物を含用できる。 が変わった場合。 対報音がのモルタル圧縮強度による試験 対流 による。 方法」による。	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	工事開始前、工事中1回 / 月以上および産地が変わった場合。
規格値	3本の強度の平均値が材齢28日で設計強度以降 たとする。 1 1 1 1 1 1	+1.5%(許容差)	設計図書による。	同左 目		絶乾密度 : 2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値 については摘要を参照)	表也~別	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。 	圧縮強度の90%以上 高	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下
試験方法	JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-1999	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 1107	「アルカリ骨材反応抑 制対策について」(平 成14年7月31日付け国 官技第112号、国港環第 35号、国空建第78号)」	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	4 4 4 4	JIS A 1103 JIS A 5005	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137
試験項目	コンクリートの圧縮強度、試験	公公量测定	コアによる強度試験	アルカリ骨材反応対策	骨材のふるい分け試験、	承		砂の有機不純物試験	モルタルの圧縮強度によ、 る砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験 JIS A 1137
就爾区分	必 無	その他		必照	その他					
種別	絕日			本菜						
工	吹付工			現場吹付	法枠工					

試験成績表等 による確認									
摘要	工事中1回/年以上および産地 スラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用合。 合。 しない。 	/ 6ヶ月以上および 寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用 する。 			上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならない。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の場 合に適用する。	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。
		工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および 産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回7月以上	工事開始前、工事中1回7月以上	工事開始前及び工事中1回/年以上およびが質が変わった場合。	工事開始前及び工事中1回/年以上および その原水は、上水道水及び上水道水以外の水質が変わった場合。 水の規定に適合しなければならない。	2回/目以上	1回/日以上	設計図書による。
規格値	1-トの外観が重要な場合 の場合1.0%以下 1-トの外観が重要な場合 の場合1.0%以下	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	パルトランドセメント) 部をセメント) ・リカセメント) ・ロカセメント) フライアッツュセメント	ポルトランドセメント) 高炉セメント) シリカセメント) フライアッシュセメント) エコセメント)	懸濁物質の量 : 2g/0以下 溶解性蒸発残留物の量: 1g/0以下 塩化物イオン量 : 200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	量 : 200ppm以下 結時間の差:始発は30分以内、 内 網強度比:材齢7及び28日で	設計図書による	設計図書による	水 : ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材 : ±3%以内 混和材 : ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤 : ±3%以内
試験方法	JIS A 1141	JIS A 1122 JIS A 5005	JIS R 5201		上水道水及び上水道水以外の水の場道水以外の水の場合: コ1S A 5308附属書3	回収水の場合: JIS A 5308附属書3	JIS A 1111	JIS A 1125	
	骨材中の比重1.95の液体 に浮く粒子の試験	硫酸ナトリウムによる骨 材の安定性試験	セメントの物理試験	ポルトランドセメントの JIS R 5202 化学分析	練混ぜ水の水質試験		細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験	計量設備の計量精度
引 区分	かの句						必派		40色
工種 種別	照	法枠工							

試験成績表等 による確認				材令28日強度 については、 公的機関での 試験とする。	
搬	小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の結功。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の試験。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の試験。	・参考値:18N/mm2以上(材齢28日) 材令28日強度・小規模工種で1工種当100総使用量が50㎡については、未満04場合は1工種1回以上の試験。 公的機関での試験とする。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の結構。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海沙の塩化 物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503) または強計図書の規定により行う。
試験基準	工事開始前及び工事中1回/年以上。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規 様に応じて20~150㎡ごとに1回、お よび荷卸し時に品質変化が認められた時。	1回6本 吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠 に工事で使用するのと同じコンクリート(モ ルタル)を吹付け、現場で7日間および28日間放置後、5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本(7.33本、283本、283本)とする。	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/12以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回)試験の判定は3回の測定値の平均値。
規格値	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート中のモルタル単位容積質差: 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下 空気量平均値からの差:7.5%以下 スランプ平均値からの差:10%以下 スランプ平均値からの差:10%以下 コンクリート中のモルタル単位容積質差: コンクリート中のモルタル単位容積質差:	コンクリート中のモルタル単位容積質差: 0.8%以下コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下圧縮強度差:7.5%以下空気量差:1%以下スランプ差:3cm以下	スランプ5cm以上18cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下 : 許容差±2.5cm	設計図書による	トの原則0.3kg/㎡以下
試験方法	バッチニキサの場合: 合: JIS A 1119 JIS A 8603-1,2	連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-1 502	JIS A 1101	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2005	「コンクリートの耐久性向上」
試験項目	三キサの練混ぜ性能試験、		スランプ試験 (モルタル除く)	コンクリートの圧縮強度、試験	塩化物総量規制
訓 区分	ル 6旬		か の割	必 熈	から 色
重 種別	歌 ჟ				
型	現場吹付法枠工				

試験成績表等 による確認														
	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の試験。													・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。
試 験 基 準	・荷卸し時 ・1回 / 日または構造物の重要度と工事の規 模に応じて 2 0 \sim 1 5 0 $\rm m$ ごとに 1 回、お よび荷卸し時に品質変化が認められた時。	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	必要に応じて。	必要に応じて。	必要に応じて。	多要に応じた。	多要に応じた。	上。又は設計図書に示 築堤は、1,000㎡に1回の割合、または 堤体延長20mに3回の割合の内、測定頻度 の高い方で実施する。
規格値	±1.5%(許容差)	引抜き耐力の80%程度以上。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	最大乾燥密度の85%以上。又は設計図書に示された値。
試験方法	16 18 18	参考資料「ロックボ! ルトの引抜試験」に よる	JIS A 1107	JIS A 1210	JIS A 1204	JIS A 1202	JIS A 1203	JIS A 1205	JIS A 1216	土質試験の方法と 解説	JIS A 1217	土質試験の方法と 解説	IS A 1218	景大粒径 53mm: IS A 1214 IS A 1210 A・B法 長大粒径>53mm: 精装調査・試験法便 覧[4]- 185
試験項目	空気量測定	ロックボルトの引抜き試 験	コアによる強度試験	土の締固め試験	土の粒度試験	土粒子の密度試験	土の含水比試験	土の液性限界・塑性限界 試験	土の一軸圧縮試験	土の三軸圧縮試験	土の圧密試験	土のせん断試験	土の透水試験	現場密度の測定 右記試験方法(3種類) J のいずれかを実施する。 J 簡
訓 区分	その色			沙照	か の€]								必 照
工種 権別	現場吹付 	7.11.1.2.1.1		本業	・焼脈									掲日

試験成績表等 による 確認						
	・最大粒径~100mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。					左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。
計 罄 辑 辑	築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積か2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位めたりの測定点数の目安を下表に示す。 (m) 500mで (m) 500mで (m) 500mで (m) 500m (m) 1000 (m) 500m (m) 500m (m) 1000 (m) 500m (m) 1000 (m) 1000	1.盛土を管理する単位(以下「管理単位」) に分割して管理単位毎に管理を行う。 2.1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3.土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。	含水比の変化が認められたとき。	トラフィカビリティが悪いとき。	当初及び土質の変化時。	築堤は、1,000㎡に1回の割合、または左記の規格値を満たしていても、規格値を堤体延長20mに3回の割合の内、測定頻度 著しく下回っている点が存在した場合は、の高い方で実施する。 監督職員と協議の上で、(再)転圧を行う ものとする。
規格 値	管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾 _{異度} 密度の90%以上。又は、設計図書による。	施工範囲を小分割した管理プロックの全て が規定回数だけ締め固められたことを確認 する。	設計図書による。	設計図書による。		最大乾燥密度の85%以上。又は設計図書に示された値。
試験方法	「RI 計器を用いた1 <u>路</u> 土の締固め管理& 要領(案)」による	「TS・GNSSを 西いた脳上の第回 め情報化第二管理・ 概念(無)」【TS 舗・GNSS編】に よる	JIS A 1203	舗装調査・試験法便 設計図書による。 覧[1]-216	JIS A 1210	最大粒径 53mm: JIS A 1214 JIS A 1210 A・B法 最大粒径>53mm: 舗装調査・試験法便 覧[4]-185
試験項目	現場密度の測定 右記試験方法(3種類) のいずれかを実施する。		土の含水比試験	コーン指数の測定	土の締固め試験	現場密度の測定 右記試験方法(3種類) のいずれかを実施する。
訓 区分			40色		沙 烷	今 熈
重種別					本菜	
工種	河川・頬岸土工				多阳十	1

試験成績表等 による確認											
摘要	・最大粒径~1 0 0 mmの場合に適用する。 ・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。										
	築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とする。管理単位の正面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。 1管理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。 16理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。 16理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。 16理単位あたりの測定点数 500	1・盛土を管理する単位(以下「管理単位」) に分割して管理単位毎に管理を行う。 2・1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3・土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。	当初及び土質の変化した時 (材料が岩砕の場合は除く)。 但し、法面、路肩部の土量は除く。	当初及び土質の変化した時。 (材料が岩砕の場合は除く)	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	・路体:当初及び土質の変化した時。 ・路床:含水比の変化が認められた時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。	当初及び土質の変化した時。
規格値	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾 築堤は、 機度密度の90%以上。又は、設計図書による。とする。 準とし、 の場合、 割するも 点数の目	「TS・GNSSを施工範囲を小分割した管理プロックの全て 1 用いた盛土の締固 が規定回数だけ締め固められたことを確認め情報化施工管理 する。ただし、路肩から1m以内と締固め機 2 要領(案)」【TS 械が近寄れない構造物周辺は除く。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。
試験方法		「TS・GNSSを別 用いた略士の締団た め情報化施工管理 3 関領(案)」【TS 4 舗・GNSS編】に よる	JIS A 1210	JIS A 1211	JIS A 1204	JIS A 1202	JIS A 1203	JIS A 1205	JIS A 1216	土質試験の方法と 解説	JIS A 1217
	現場密度の測定 右記試験方法(3種類) のいずれかを実施する。		土の締固め試験	CBR試験(路床)	土の粒度試験	土粒子の密度試験	土の含水比試験	土の液性限界・塑性限界 NIS A 1205 試験	土の一軸圧縮試験	土の三軸圧縮試験	土の圧密試験
訓 試験 区分	か の割		沙炽		46	包					
種別	福 日		本菜								
工種	沙阳土工		連路 1	НН							

試験 基準	百年終してに延安 + U IIIにプロし I 国の割合で行う。 降雨後又は、含水比の変化が認められたと き。

当初及び上質の協力では一般の協力では、別のでは、別のでは、別にの当りの別にの関係を指揮をして、の別に分割でものの別にの別にの別にの別にの別にの別にの別にの別にの別にの別にの別にの別にの別に	古早縣ここに近女4、 合で行う。 降雨後又は、含水比の き。
は 験 方 法 規 格 値 上質試験の方法と 設計図書による。	取引図書による。 設計図書による。
式 験 方 法 上質試験の方法と JIS A 1218 場大粒径 53mm: JIS A 1214 場大粒径 53mm: JIS A 1214 場大粒径 53mm: 離装調章・試験法便 庭上の締固め管理 度上の締固め管理 を用いた庭上の締固め管理 で T S・G N S Sを 用いた庭上の締固 め情報化施工管理 端・G N S S 論】に よる 11S A 1215	< <
試験 項目 日 上のせん断試験	
In	j
(工) 海路十日 (工) 海路十日 (工) 大菜 (型) 大菜 (工) 大菜 (工)	

試験成績表等による確認									
型 解			 ・500㎡以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・参考値: ・硬石:約2.7~2.5g/cm。 ・準硬石:約2.5~2g/cm。 ・軟石:約2.5~2g/cm。 	・5 0 0 ㎡以下は監督職員承諾を得て省略 できる。 ・参考値: ・硬石 : 5%未満 ・準硬石: 5%以上15%未満	 ・500㎡以下は監督職員承諾を得て省略できる。 ・参考値: ・硬石 : 4903N/c㎡以上・準硬石: 980.66N/c㎡以上4903N/c㎡大当・教石: 980.66N/c㎡未満・教石: 980.66N/c㎡未満 	500㎡以下は監督職員承諾を得て省略できる。		JIS A 5005 (コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材・第1 部: 高炉スラグ骨材) JIS A5011-2(コンクリート用スラグ骨材・第2部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材・第3部: 調スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材・第4 部: 電気炉酸化スラグ細骨材)	
試験基準	トラフィカピリティが悪いとき。	プルーフローリングでの不良個所について 実施	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	5 , 0 0 0 mづつき1回の割合で行う。 但し、5 , 0 0 0 m以下のものは1工事2回 実施する。	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地 大変わった場合。 上標準示方 が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地 が変わった場合。
規格値	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	うすっぺらなもの、細長いものであってはな らない。		絶乾密度:2.5以上 吸水率 :2002年制定コンクリート標準示方 書ダムコンクリート編による。	設計図書による。
試験方法	舗装調査・試験法便 覧[1]-216	舗装調査・試験法便 覧[1]-227 (ペンゲ IR2ど - 4)	JIS A 5006	JIS A 5006	JIS A 5006	JIS A 5006	5 リ骨材反応抑 こついて」(平 7月31日付け国 12号、国港環第 12空建第78号)」	1109 1110 5005 5011-1~4 5021	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5021
品賞官埕金平及ひ場格値(一般エ不) 工種 <mark>種別 区分 試験 試験項目</mark>	コーン指数の測定	たわみ量	岩石の見掛比重	岩石の吸水率	岩石の圧縮強さ	岩石の形状	アルカリ骨材反応対策	骨材の密度及び吸水率試 JIS A JIS	骨材のふるい分け試験
幸年及 試験 区分	ψΘ€	9	必 無			その他	必照	46街	
[百姓] 種別	摇日		烟 日				本菜		
	連路	HH	・捨石工				・ロンクラ	- ナダコ	

試験成績表等 による確認 標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度|工事開始前、工事中1回/年以上および産地|濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含が%20%以上の場合は使用できる。| が変わった場合。 | が変わった場合。 工事開始前及び工事中1回/年以上および

上水道を使用している場合は試験に換え、水質が変わった場合。

上水道を使用していることを示す資料に 工事開始前及び工事中1回/年以上および

その原水は、上水道水及び上水道水以外の水質が変わった場合。

水の規定に適合しなければならない。 L事開始前、工事中1回/年以上および産地|スラゲ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用 胐 霏 よる確認を行う。 方法」による。 くない。 ф 82° 試料となる砂の上部における溶液の色が標 工事開始前、工事中1回/月以上および産地 工事中1回/月以上および産地 工事開始前、工事中1回1月以上および産地 工事開始前、工事中1回/年以上および産地 (山砂の場合は、工事中1回/週以上) 工事開始前、工事中1回/月以上 工事中1回/月以 烘 基 準色液の色より濃い場合。 淵 和骨材:1.0%以下 細骨材:コンクリートの表面がすりへり作用が変わった場合。 が変わった場合。 が変わった場合。 が変わった場合。 が変わった場合 が変わった場合 工事開始前、 工事開始前、 を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0% 以下(砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合 はコンクリートの表面がすりへり作用を受 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で : 材齢7及び28日で セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下) セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) : 200ppm以下 5210(ポルトランドセメント) JIS R 5210 (ポルトランドセメント) : 200ppm以下 : 2g/0以下 JIS R 5212 (シリカセメンド) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) 画 JIS R 5214 (エコセメント) JIS R 5210(ポルトランド・ JIS R 5211(高炉セメント) JIS R 5214 (エコセメント) 松 モルタルの圧縮強度比 圧縮強度の90%以上 粗骨材:0.25%以下 猫 細骨材:1.0%以下 細骨材:0.5%以下 粗骨材:1.0%以下 細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下 飲石量:5%以下 終結は60分以内 塩化物イオン量 終結は60分以内 上水道水及び上水|懸濁物質の量 40%以下 30%以上 90%以上 回収水の場合: JIS A 5308附属書3 JIS A 5308附属書3 法 不 JIS A 1103 JIS A 5005 ポルトランドセメントの JIS R 5202 モルタルの圧縮強度によ JIS A 1142 JIS A 1126 硫酸ナトリウムによる骨 JIS A 1122 JIS A 5005 JIS A 1105 胃材中の粘土塊量の試験 JIS A 1137 骨材中の比重1.95の液体 JIS A 1141 JIS A 1121 JIS R 5201 礟 莊 品質管理基準及び規格値(一般土木) 租骨材中の軟石量試験 粗骨材のすりへり試験 セメントの物理試験 砂の有機不純物試験 骨材の微粒分量試験 練混ぜ水の水質試験 に浮く粒子の試験 漕 材の安定性試験 靈 る砂の試験 七学分析 苹 試 下 小 か その他 種別 林林 工種 ・コンクリートダム

試験成績表等 による 確認						
摘要	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。			レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50 mi 未満の場合は1工種1回以上の試験。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503) または3時1図書の規定により行う。
試 縣 基 準	設計図書による。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	2回7日以上	1回7目以上	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。
規格 値	水 : ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材 : ±3%以内 混和材 : ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤 : ±3%以内	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート中のモルタル単位容積質差: 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下 圧縮強度平均値からの差:7.5%以下 空気量平均値からの差:16%以下 スランプ平均値からの差:16%以下 スランプ平均値からの差:15%以下 2.5%以下 コンクリート中のモルタル単位容積質差: 0.8%以下	コンクリート中のモルタル単位容積質差: 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差:5%以下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3cm以下	設計図書による	設計図書による	- トの原則0.3㎏/㎡以下
試験方法		バッチミキサの場合: 10 × 1119 JIS × 8603-1,2	連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-1 502	JIS A 1111	JIS A 1125	「コンクリートの耐久性向上」
試験項目	計量設備の計量精度	ミキサの練混ぜ性能試験		細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験	塩化物総量規制
訓 区分	か ら割					
工種 種別	・コンクリー トダ〜製造(プラント)					製工

試験成績表等 による 確認												
記録してよ			第3	第			包盤			E	田1	
摘要			工事中1回7月以上および産地 JIS A 5005(コンクリート用砕砂及び砕石) JIS A 5011-1(コンクリート用スラグ骨材・第1 部:高炉スラグ骨材) JISA5011-2(コンクリート用スラグ骨材・第2部: フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3(コンクリート用スラグ骨材・第3形:				工事中1回/年以上および産地 濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含 3台。 方法」による。 方法」による。	Mile		リスラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適しない。	/ 6ヶ月以上および [/] 寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用 する。	
試 験 基 準	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		工事開始前、 が変わった場	7 77 B	工事開始前、工事中1回/年以上および産地 が変わった場合。	工事開始前、が変わった墳(山砂の場合)	工事開始前、 が変わった墳	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	工事開始前、工事中1回/月以上および産地 が変わった場合。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地 スラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用 が変わった場合。 しない。	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上およひ 産地が変わった場合。	工事開始前、工事中1回7月以上
規格値	同左	設計図書による。	以上 6以下 6以下 ラグ骨材、フェロニッ スラグ細骨材の規格値	は適用を参照な事業を	/クリートは35%以下。 1ンクリートの場合は25%以下	表面がすりへり作用を受け bの場合5.0%以下(砕砂お 1た場合はコンクリートの !ける場合5.0%以下その他	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	圧縮強度の90%以上		トの外観が重要な場合0.5%以 %以下 トの外観が重要な場合0.5%以 %以下		JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
試験方法	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平 ・ ・	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	-	JIS A 1121 JIS A 5005	JIS A 1103 JIS A 5005	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137	JIS A 1141	JIS A 1122 JIS A 5005	JIS R 5201
試験項目	アルカリ骨材反応対策		骨材の密度及び吸水率試験		豪			モルタルの圧縮強度による 砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験 JIS A 1137	骨材中の比重1.95の液体 JIS に浮く粒子の試験 	硫酸ナトリウムによる骨 材の安定性試験	記馬
試験 区分	必照	その他										
種別	本業											
工種	・陋工口ンクリート(NATM)											

に 登録 と ない は ない	
摘要上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならない。レディーミクストコンクリートの場合、印字記録により確認を行う。・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の試験。
	工事開始前及び工事中1回7年以上。
規 格 値 JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高かセメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント) JIS R 5214 (エコセメント) JIS R 5214 (エコセメント) 海郷物質の量 : 120 (20以下 海郷物質の量 : 120 (20以下 をはておかりない。 生ルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 経は150分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 に高かくオン量 : 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 に高かくオントの複結時間の差: 始発は30分以内、 に高かくオントの複雑性重 ながでは、ま1%以内 に高かスラケ微粉末の場合は±1%以内) 活和剤 : ±3%以内 に高かスラケ微粉末の場合は±1%以内) に高やスラケが散光をの場合は重量 公称容量の場合: コンケリートの練混ぜ量 こコンケリート中のモルタル単位容積質差: 102 (20以下) (10) (1	
試験方法 JIS R 5202 上水道水及び上水 道水以外の水の場合: JIS A 5308附属書3 JIS A 5308附属書3 バッチミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1,2	連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-1 502
試験項目 ポルトランドセメントの 化学分析 練混ぜ水の水質試験 無混ぜ水の水質試験 三キサの練混ぜ性能試験	
記	
た を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	

試験成績表等 による 確認				材令28日強度 については、 公的機関での 試験とする。							
	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。		・小槻模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50 mi 未満の場合は1工種1回以上の試験。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化 物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502,503) または設計図書の規定により行う。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上の記載。					
試験基準	2回7日以上	1回/目以上	・荷卸し時 ・1回 / 日または構造物の重要度と工事の規 模に応じて 2 0 \sim 1 5 0 m ごとに 1回、お よび荷卸し時に品質変化が認められた時。	 の場合: が、設計基準強度の前、午後)その他コンクリートは打設1日につき2回(午で下回らない。 つき1回行う。 (設計基準強度を1/4 なお、テストピースは打設場所で採取し1回につき6個(73本、283本)とすートの場合: る。 した呼び強度の値の 職務結果の平均値は指 	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	・荷卸し時・1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150㎡ごとに1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時。	品質に異常が認められた場合に行う。 1回 品質に異常が認められた場合に行う,	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。	細骨材は採取箇所または、品質の変更がある ごとに1回。ただし、覆エコンクリートと同 一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇 所または、品質の変更があるごとに1回。		
規格値	設計図書による	設計図書による	容差±1.5cm 容差±2.5cm	現場練りコンクリートの場合: (a) 圧縮強度の試験値が、設計基準強度の 80%を1/20以上の確率で下回らない。 (b) 圧縮強度の試験値が、設計基準強度を1/4 以上の確率で下回らない。 レディミクスコンクリートの場合: 一回の試験結果は指定した呼び強度の値の 85%以上、かつ3回の試験結果の平均値は指定した呼び強度以上。		±1.5%(許容差)	設計図書による。設計図書による。	司左	設計図書による。		
試験方法	JIS A 1111	JIS A 1125	JIS A 1101	JIS A 1108	「コンクリートの耐久性向上」	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 1107 JIS A 1112	「アルカリ骨材反 応抑制対策について」(平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国産選第38号)」	JIS A 1102		
試験項目		粗骨材の表面水率試験	试験	コンクリートの圧縮強度 JIS A 1108 試験	塩化物総量規制	空気量測定	コアによる強度試験 JIS A 1107コンクリートの洗い分析 JIS A 1112試験	カリ骨材反応対策	骨材のふるい分け試験		
就爾区分	₩6:	∌	沙 熈				その他	沙颅	その街		
種別	プラ製造	ソエ	搖工					本菜			
工	・覆	НΠУ	Σ) · 次付コンクリート(Z < F)								

試験成績表等 による 確認										
瀬 瀬 瀬 コ				濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。			スラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用しない。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。		
試器基準	細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。ただし、覆エコンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。	細骨材は採取箇所または、品質の変更がある ごとに1回。ただし、覆エコンクリートと同 一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇 所または、品質の変更があるごとに1回。	細骨材は採取箇所または、品質の変更がある ごとに1回。ただし、覆エコンクリートと同 一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇 所または、品質の変更があるごとに1回。	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度/細骨材は採取箇所または、品質の変更がある/濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含が30%以上の場合は使用できる。	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	細骨材は採取箇所または、品質の変更がある ごとに1回。ただし、覆エコンクリートと同 一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇 所または、品質の変更があるごとに1回。	工事開始前、工事中1回/年以上および産地 スラグ細骨材、高炉スラグ粗骨材には適用が変わった場合 しない。	細骨材は採取箇所または、品質の変更がある 寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用ごとに1回。ただし、覆エコンクリートと同 する。 一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇 所または、品質の変更があるごとに1回。	粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。	工事開始前、工事中1回7月以上
規格 值	設計図書による。	絶乾密度 : 2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下	粗骨材:1.0%以下 細骨材:コンクリートの表面がすりへり作用 を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0% 以下(砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合 はコンクリートの表面がすりへり作用を受 ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	圧縮強度の90%以上	細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	細骨材:コンクリートの外観が重要な場合0.5%以下、その他の場合1.0%以下粗骨材:コンクリートの外観が重要な場合0.5%以下、その他の場合1.0%以下	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	55%以上	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
試験方法	JIS A 1104	JIS A 1109 JIS A 1110	JIS A 1103	JIS A 1105	JIS A 1142	JIS A 1137	JIS A 1141	JIS A 1122	JIS A 5005	JIS R 5201
試験項目	骨材の単位容積質量試験	骨材の密度及び吸水率試験	骨材の微粒分量試験	砂の有機不純物試験	モルタルの圧縮強度によ る砂の試験	骨材中の粘土塊量の試験 JIS A	骨材中の比重1.95の液体 に浮く粒子の試験	硫酸ナトリウムによる骨 材の安定性試験	粗骨材の粒形判定実績率 JIS A 5005 試験	セメントの物理試験
凯 阿 区分	その街									
種別	本菜									
工種	・吹付コン	/クリー 十(Z∢⊢∑)							

試験成績表等 による 確認						
描		上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。よる確認を行う。	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合しなければならない。	・レディーミクストコンクリートの場合、 印字記録により確認を行う。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上。
	工事開始前、工事中1回/月以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	工事開始前及び工事中1回/年以上および その原水は、上水道水及び上水道水以外の水質が変わった場合。 水の規定に適合しなければならない。 	設計図書による。	工事開始前及び工事中1回/年以上。	工事開始前及び工事中1回/年以上。
格值	ポルトランドセメント) 高炉セメント) シリカセメント) フライアッシュセメント) エコセメント)	懸濁物質の量 : 2g/0以下 溶解性蒸発残留物の量:1g/0以下 塩化物イオン量 : 200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	塩化物イオン量 : 200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	水 : ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材 : ±3%以内 混和材 : ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤 : ±3%以内	■ レタル単位容積質差: 田骨材量の差:5%以下 差:7.5%以下 差:15%以下 と:15%以下 とのかずを とのかがで とのかがで とのがががががががががががががががががががががががががががががががががががが	コンクリート中のモルタル単位容積質差: 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差: 5%以下 圧縮強度差: 7.5%以下 空気量差: 1%以下 スランプ差: 3cm以下
計		上水道水及び上水道水及び上水道水以外の水の場合: コIS A 5308附属書3	回収水の場合: JIS A 5308附属書3		バッチ三キサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1,2	連続ミキサの場合: 土木学会規準 JSCE-I 502
試験項目	۲9	練混ぜ水の水質試験		計量設備の計量精度	三キサの練混ぜ性能試験	
訓 試験 区分	 小O 包			40色		
種別	本学			製造(プラント))	

試験成績表等 による確認				材令28日強度については、	なり 次的機関での 試験とする。							
難	レディーミクストコンクリート以外の場 合に適用する。	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化 物イオン含有率試験方法」(JSG-C502,503) またLĞ強性図書の規定により行う。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 材令28日強度 未満の場合は1工種1回以上		・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上。	・小規模工種で1工種当りの総使用量が50㎡ 未満の場合は1工種1回以上。					
試 駿 基 準	2回/日以上	1回/目以上。	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	トンネル施工長40m毎に1回 材命7日、 28日(2×3=6供試体)	直は、指定した呼び強 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリート(モ個の供試体の試験値のルタル)を吹付け、現場で7日間および28日間放置後、 5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本(73本、283本、)とする。	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規 模に応じて20~150 $^{\rm m}$ ごとに1回、お よび荷卸し時に品質変化が認められた時。	・荷卸し時 ・1回/日または構造物の重要度と工事の規 模に応じて $20 \sim 150 \mathrm{m}^3$ ごとに $1回、および荷卸し時に品質変化が認められた時$	品質に異常が認められた場合に行う。	材質は製造会社の試験による。	1)施工開始前に1回2)施工中は、トンネル施工延長50mごとに1回11回3)製造工場または品質の変更があるごとに1回11回	1)施工開始前に1回 2)性状に変化が見られたとき 3)製造工場または品質の変更があるごとに 1回	掘削の初期段階は20mごとに、その後は50mごとにまた、1断面当たり3本均等に行う(ただし、坑口部では両側壁各1本)。
規格値	設計図書による	設計図書による	トの <mark>原則0.3kg/㎡以下</mark>	1回の試験結果は指定した呼び強度の値の 85%以上であること。	₹ 9	スランプ5cm以上8cm末満 :許容差±1.5cmスランプ8cm以上18cm以下:許容差±2.5cm	±1.5%(許容差)	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。	
試験方法	JIS A 1111	JIS A 1125	「コンクリートの耐久性向上」	JIS A 1108 土木学会規準JSCE	F561-2005	JIS A 1101	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 1107	・目視 ・寸法計測	JIS A 1108	JIS R 5201	参考資料「ロックボ ルトの引抜試験」に よる
試験項目	細骨材の表面水率試験	粗骨材の表面水率試験	塩化物総量規制	コンクリートの圧縮強度 試験	₹ Gan-41	スランプ試験		コアによる強度試験	外観検査(ロックボルト)	モルタルの圧縮強度試験 JIS	モルタルのフロー値試験 JIS	ロックボルトの引抜き試 参考資料「ロックボ 験 ルトの引抜試験」に よる よる
凯 区分			多 熈			40色			40色	多 熈		
重 種別			烟日						本菜	掲出		
工	・吹は	ΣΠン1)⊃-	≥)					• □≥ 1	ンボ≒⊤(z∢	⊢≥)	

試験成績表等	による確認																						
H	捕安门																CAEの一軸圧縮試験とは、路上再生アスファルト乳剤安定処理路盤材料の一軸圧縮試験を指す。		十分なデータがある場合や事前調査時の データが利用できる場合にはそれらを用 いてもよい。	十分なデータがある場合や事前調査時の データが利用できる場合にはそれらを用 いてもよい。	十分なデータがある場合や事前調査時の データが利用できる場合にはそれらを用 いてもよい。	十分なデータがある場合や事前調査時の データが利用できる場合にはそれらを用 いてもよい。	十分なデータがある場合や事前調査時の データが利用できる場合にはそれらを用 いてもよい。
#		施工前、材料变更時		当初及び材料の変化時	当初及び材料の変化時	工事開始前、工事中1回/月以上				工事開始前、工事中1回1月以上				1,000㎡に1回	当初及び材料の変化時		当初及び材料の変化時	1~2/日	当初及び材料の変化時	当初及び材料の変化時	当初及び材料の変化時	当初及び材料の変化時	当初及び材料の変化時
4	れ ^合 1個	・試験法便 修正CBR20%以上	舗装再生便覧参照 資表-4.7路上再生路盤用骨材の望ましい粒 度範囲による	設計図書による。	塑性指数PI:9以下	JIS R 5210 (ポルトランドセメント)	JIS R 2211(高炉セメント) IIS B 232(ツニセセメント)	JIS R 5213(フライアッシュセメント)	JIS R 5214 (エコセメント)	JIS R 5210 (ポルトランドセメント)	JIS K 271(画をカメント) IIS R 272(ツニセヤメント)	313 に 3515(ケルン ログハーン JIS R 5213(フライアッシュセメント)	JIS R 5214 (Hコセメント)	基準密度の93%以上	試験法便設計図書による。		・試験法便設計図書による。	設計図書による。					
1	凯 题 力 法	舗装調査・試験法便 覧[4]-5	JIS A 1204	JIS A 1203	JIS A 1205	JIS R 5201								舗装調査・試験法便 覧[4]-191	•	覧[4]-68	舗装調査・試験法便 覧[4]-68	JIS A 1203	JIS K 2207	JIS K 2207	舗装調査・試験法便 覧[3]-91	舗装調査・試験法便 覧[4]-229	舗装調査・試験法便 覧[4]-238
五	記 級 項 目			土の含水比試験	土の液性限界・塑性限界 DIS 試験	セメントの物理試験、、				ポルトランドセメントの JIS R 5202	化字分析			現場密度の測定	土の一軸圧縮試験		CAEの一軸圧縮試験	含水比試験	旧アスファルト針入度	旧アスファルトの軟化点、	既設表層混合物の密度試 舗装調査 験 覧[3]-91	既設表層混合物の最大比 舗装調査 重試験 覧[4]-22	既設表層混合物のアスフ 舗装調査・試験法便アルト量抽出粒度分析試 覧 [4]-238験
	区分	少炽				*	6€	<u>)</u>						沙河					沙熈				
# # 二	上俚 惺	· 器· 本本	二甲生	題日										据日					・ 器 士 本 禁	大層再生			

- 同解説		
精 要 ・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」 鋼橋編17.4.4溶接施工法 図-17.4.3すみ肉溶 接試験(マクロ溶接)溶接方法及び試験片の形状 による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接 施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、 をの時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験 を台略することができる。 なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験 を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告 書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。 (本、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験 を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告 書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。 (本、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験 を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告 書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。 (本、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験 書によって判断し、溶接施工試験をものは、その時の試験報告 事によって判断し、溶接施工試験をものは、その時の試験報告 またって判断し、溶接施工試験をものは、をの時の試験報告 を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告 またって判断し、溶接施工試験をもの工場では、その時の試験報告 またって判断し、溶接施工試験をものは、をの時の試験報告 またって判断し、溶接施工試験をものは、をの時の試験報告 またって対断に、溶接施工試験をものは、をしては、をあいて、なる。(等級に なる、過去を表する。(等級に なる、過去による。(等級に なる))		
試験 基準 準計	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。	
規格値 はならない。 ・同解説による ・日解説による ・日解説による ・日解説による ・日解説による ・・日解説による ・・日解説による ・・ログラない。だだし、 をなってはならない。だだし、 を50mmを除く部分では、溶接長さの で、サイズおよびのど厚ともに-1.0 を50mmを除く部分では、溶接長さの で、サイズおよびのど厚ともに-1.0 を50mmを除く部分では、溶接してして をず1mm以下の場合は、3個を1個として 50。 トの深さは、0.5mm以下でなけ		ビート表面の凹凸は、ピート長さ25mmの範囲で3mm以下。
は 験 方 法	・目視	
試験 項 目 マクロ試験: すみ肉溶接 子クロ試験: オタッド溶接 2000	(オーバーラッ	外観検査(ビート表面の 凹凸)
試 Z 必原		
型 ・		

í	Luty — C			1	
	試験成績表等 による 確認				
	摘要離		・余盛が包囲していないスタッドジベルは、その方向と反対の15。の角度まで曲げるものとする。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		試験対象とする材料は監督職員と協議のうえ選定する。
	試 験 基 準		外観検査の結果が不合格となったスタッド・余盛が包囲していないスタッドジベルジッルについて全数。 は、その方向と反対の15。の角度まで曲外観検査の結果が合格のスタッドジベルの げるものとする。 けんこいて抜取り曲げ検査を行な・15。曲げても欠陥の生じないものは、元うものとする。 たみてもる。	現物とミルシートの整合性が確認できること。規格、品質がミルシートで確認できること。	JISによる
	規 格 値	・余盛り形状の不整:余盛りは全周にわたり 即 包囲していなければならない。なお、余盛 りは高さ1mm、幅0.5mm以上 ・クラックおよびスラグ巻込み:あってはな らない。 ・アンダーカット:するどい切欠状のアンダ ーカットがあってはならない。ただし、グ ラインダー仕上げ量が0.5mm以内に納まる ものは仕上げて合格とする。 ・スタッドジベルの仕上り高さ:(設計値± 2mm)をこえてはならない。	われなどの欠陥を生じないものを合格。		JISIE&&
	試 験 方 法	・ノギス等による計測・ノギス等による計測	ハンマー打撃	現物照合、帳票、確認	2773ISIC
	è 試験項目 分	外観形状検査(アークス タッド)	ハンマー打撃試験	外観・規格 (主部材)	機械試験(JISマーク表示 品以外かつミルシート照 合不可な主部材)
	凯 区分	福 日	かの 色	本本 必従	
	工種 権別	· %撰H			作工(網橋用網材)
	Н	(STD)		. 1+1 acts 4	I/ VID 44 LL VID 14 L

品質管理基準及び規格値(港湾・漁港)

	試験方法 用 規格値	設計図書の値に適合しているこ 製造工場の試験成績表により確	種類 短書による。 施工中適宜 制築	品質 説計図書による。 搬入時、ロット毎 説計図書による。	種類設計図書による。施工中適宜観察	品質 設計図書による。 搬入時、ロット毎 説計図書による。	種類 設計図書による。 施工中適宜 制築		前1-13-1表1-3	験、老化試験等)による材質が共通JISK 6250 	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	プラロップ・ラー 1.2 に 2.2 1.3 に 2.5 1.3 に 6.2 1.3 に 6.3	書)により確認。耐久性については、JISK 6259	ゴム防舷材耐久性証明事業を実施	1)確認。	反力及び吸収エネルギー 設計図書による。 機入前 調計図書による。 は計図書による。 はいまた 10本に 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	7 確認	有害な傷等がないこと。 異常が認められないこと。 搬入時、適宜 観察	長さ、幅、高さ、ボルトの穴径及び中心間隔等 設計図書及び監督職員が承諾した詳細 搬入前、全数 工場の測定表を提出製造工場の測定結果表により確認 図等 図等 図等 とい 様式・品質 1 (例)参考	異常が認められないこと。 搬入時、適宜	ľ	١,	設計図書の形状寸法に適合してい設計図書及ひ監管職員か承諾した詳細 撒入時、適宜ること。 図等 国籍	()		1 設計図書及ひ監管職員が承諾した詳細 職人時、 図等 2 日本 2	1 設計図書及ひ監管職員が承諾した詳細 勝入時、 図等 設計図書及び監督職員が承諾した詳細 搬入前 銀常が認められないこと。 搬入時、 設計図書及び監督職員が承諾した詳細 搬入時、	設計図書及ひ監督職員が承諾した詳細 勝入時、 図等 設計図書及び監督職員が承諾した詳細 搬入前 銀子 銀子 銀子 銀子 銀子 銀子 銀子 銀	1 設計図書及ひ監督職員が承諾した詳細 勝入時、 図等	い 設計図書及ひ監督職員が承諾した詳細 勝入時、 図等 設計図書及び監督職員が承諾した詳細 搬入前 異常が認められないこと。 搬入時、 設計図書及び監督職員が承諾した詳細 搬入時、 図等
験 頃 目 試験 方 法 気の電流効率等設計図書の値に適合していること。 電位、発生電流)製造工場の試験成績表により確認 種類	設計図書の値に適合していること。 製造工場の試験成績表により確認 種類			図書による。		図書による。		品質 設計図書による。	ゴムの物理試験(引張試験、硬さ試)	験、老化試験等)による材質が共通し仕様書7縮1-13-1 末1-3	1991 1991	製造工場の試験成績表(検査証明)	書)により確認。耐久性については、	ゴム防舷材耐久性証明事業を実施			(議長(検査証明書)により確認		長さ、幅、高さ、ボルトの穴径及び中心間隔等 製造工場の測定結果表により確認		設計図書の形状寸法に適合してい		朝祭	25	縣	観祭 設計図書の形状寸法に適合していること。 製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認 有害な傷等がないこと。 観察	観祭 設計図書の形状寸法に適合していること。 製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認 有害な傷等がないこと。 観察 設計図書の形状寸法に適合してい	観祭の形状寸法に適合していること。 製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認 有害な傷等がないこと。 観察 設計図書の形状寸法に適合してい ること。	観祭 設計図書の形状寸法に適合していること。 製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認 有害な傷等がないこと。 観察 設計図書の形状寸法に適合してい ること。	観祭 題計図書の形状寸法に適合していること。 製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認 有害な傷等がないこと。 観察 設計図書の形状寸法に適合してい ること。
話			材質		村質		材質		材質							型器		外観	形状寸法	外観	形状寸法			村置					1	
	$\times_{\mathcal{I}}$	沙原	必無		必辰		必無		×3	凞									•	必無		_								
	工種 区分	1)電気防食陽極 克	艮 2)塗装材 材 料料		3)モルタル被覆		4)保護カバー		1)ゴム防舷材	纺布	(†r	• 61	<u> </u>	Σ						2)取付金具				3)滑り材	3)滑り材	3)滑り材	3)滑り材	3)滑り材	3)滑り材	3)滑り材

品質管理基準及び規格値(港湾・漁港)

試験成績表等 による確認																
摘要													アスファルト舗装適用			
試験基準	1溶解毎	搬入時、全数	搬入時、全数	搬入前	搬入時、全数	5 搬入前、全数	搬入前	搬入時、適宜	搬入前、全数	搬入前	搬入時、適宜	搬入前、全数	1 , 0 0 0 ㎡に1回	搬入時、適宜	20枚に1枚を2箇所	2 0 枚に1枚を1箇所
規格値	共通仕様書7編1-14-1 表1-4	異常が認められないこと。	共通仕様書7編4-17-2 図4-1 ~4 表4-5	共通仕様書7編4-17-3	² 7.	17-3表4-	共通仕様書 7 編 1 - 15 - 1 表 1 - 5	溶接部の不良個 異常が認められないこと。	設計図書による。	設計図書による。	異常が認められないこと。	設計図書による。	設計図書又は共通仕様書7編1-16-11	設計図書による。	設計図書による。	設計図書による。
試験方法	JIS の規定による。 製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	有害な傷、変形等がないこと。 観察	設計図書の形状寸法に適合してい ること。 ~ 4 表4 - 5 製造工場の測定結果表により確認	JIS の規定による。	有害な傷、変形等がないこと。 観察	設計図書の形状寸法に適合してい ること。 製造工場の測定結果表により確認	、付属品 NS の規定による。 機械的性 製造工場の試験成績表(検査証明書)により確認	, Z ,	設計図書の形状寸法に適合してい 設計図書による。 ること。 製造工場の測定結果表により確認	設計図書の形状寸法に適合していること。 製造工場の測定結果表により確認	使用上有害な反り等がないこと。 観察	設計図書の形状寸法に適合してい設計図書による。 ること。 製造工場の測定結果表により確認	合材の配合、合材の強度、アスファルトの針入度、マットの押抜き強度が設計図書に適合していること。 製造工場の試験成績表により確認	補強材の種類は設計図書に適合していること。 観察	厚さ スチールテープ等で測定	- プ等で測定
験 試験項目分	y 本体・付属品の化学成 う、機械的性質	外観	形状寸法	材質		形状寸法	本体、被覆を の化学成分、 質	外観	形状寸法	· 材質	外観	形状寸法	う 材質	外観	形状寸法	
工種 区分 試験 区分 区分	(4) (系部柱 水) (多部柱 水) (多語柱 水) (多	1. 傸	淵品	2)係船環			1)車止め(鋼製) 必 車 (縁金物を含む) 須 止	の・鑁佳	\$\frac{1}{2}	2) 車 止 め (その 必 他) 須 (縁金物を含む)			アスファルトマ マ ット(洗掘防 油 上)			

ļ		試験		1	44	1	Ħ	試験成績表等
型	I 区文	区公	武縣山田	試 鞭 万 法	規格 個	11 颗 皋 準		による確認
\begin{align*} \begin	2)摩擦増大用 マット (アスファルトマット)	沙原	材質		第7編 1-16-1または設計図書による。	1 , 0 0 0㎡に1回	試験成績表及び配合表を提出 アスファルト舗装適用	
_			形状寸法				1)アスファルトマット(洗掘防止)を適用する	
			外観				アスファルトマット(洗掘防止)を 適用する。	
	3)繊維系マット	必無	材質及び規格	伸び、引裂、引張強度等が設計図書 に適合していること。 製造工場の試験成績表により確認	設計図書による。	撒入時、適宜	引張試験 JIS L 1908 引裂試験 JIS L 1096	
	4)合成樹脂系マット	沙 熈	材質及び規格	伸び、引穀、引張強度、比重、耐海 設計図書による。 水引張強度等が設計図書に適合し ていること。 製造工場の試験成績表により確認		搬入時、適宜	引張試験 JIS K 6723 引製試験 JIS K 6252 比重試験 JIS K 7112 耐海水試験 JIS K 6773	
	5)ゴムマット	必無	材質及び規格	硬度、伸び、引裂、引張強度等が設計図書に適合していること。 製造工場の試験成績表により確認	設計図書による。	搬入時、適宜	引張試験 JIS K 6251 引製試験 JIS K 6252	
	6) 摩擦増大用マット	田	材質	設計図書による。 製造工場の試験成績表により確認	設計図書による。	設計図書による。		
	(ゴムマット)		形状寸法	設計図書による。 スチールテープ等で測定	設計図書による。	設計図書による。		
固結工	1)深層混合処理工	三	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。	改良体200本毎に1本、最低2本、最大5本。 試験は、1本の改良体について上、中、下それぞれ1回ずつ、計3回とする。		
	2) C C P I		土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。	改良体400本毎に1本、最低2本、最大5本。 試験は、1本の改良体について上、中、下それぞれ1回ずつ、計3回とする。		

摘					曲線部は設計図書によ	! [
測 定 箇 所	0 0	<u> </u>	<u>-</u>			>		d e							A STATE OF THE STA			*		×,
東 増 辺 戻	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ	1施工箇所につき最低2箇所。 変付は、施工延長20m(測点間隔25	mの場合は25m)につき1箇所、かつ1箱T街所につき8所。		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇	所につき最低3箇所。	枠延延長100mにつき1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所。	1		1施工箇所毎	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇	IJ	1施工箇所毎		施工延長40mにつき1箇所、かつ1施 工箇所につき最低3箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定	が困難な場合は直線法長とする。	200mにつき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所をせん引により削定。			1 施工箇所毎
規格値	± 50	設計値以上	100		- 100	- 200	- 30	- 30	± 100	- 200	- 100	- 200	- 200		- 50	- 100	- 10	- 20	但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上	- 200
測定項目	五 本 宣	根入長	资 位		法 < 10 m	10 m	M ■	高 c	棒中心間隔 a	近 長 L	法 < 10 m	10 m	延長 L		以 3 3 3 8 8	₹ 8 E	t < 5 c m		さ <u>(但し、吹付面に凹</u> た (付厚は、設計厚の (は設計厚以上	延長し
工	矢板工 (指定仮設・任意仮設 は除く)	(鋼矢板) (軽暑細午板)	くな事語へあくしてクリート矢板)	(ロとつ鋼矢板)		(現場吹付法枠工)					法枠工(プレキャスト法枠工)	`			吹付工 (コンクリート) (モルタル)		ı			
枝番					-						2									
巛	4				2						2				9					
颌	د ع	共通	3 교	# <u></u>	Ж	共浬	的工	#			Ж	共浬	的工籍	Ħ.	т	共通的下	種			
脚	3	一般	製円		т	磁	烟工				т	一般	絕工		м	一般施丁	1			
삏	1 ‡	共運	眶		-	共浬	ლ				-	共浬	ლ		~	共運編				

脚																
辑																
刑													w (D)	\		д 1
細													≱			
迅																= +
展															}	RIBINA
测定基準	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所	1 施工箇所每		施工延長40mにつき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。		施工面積200m/につき1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所。			1 施工箇所毎	1箇所 / 1施工箇所		1箇所/1基	基礎1基毎			
規格値	- 200 法長の - 4%	- 200		- 200	法長の - 4%	- 10	- 20	但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上	- 200	- 200		設計値以上	- 30	- 30	設計値以上	
测定项目	次 × 5 m	延 長 L		法 < 5 m	5 m	t < 5 cm		さ 但し、吹付面に凹 t 吹付厚は、設計厚 均厚は設計厚以上	延 長 L	延 長 L		設置高みエ	個w(D)	基高さり	根入れ長	
工	植生工 (種子散布工) (張芝工)	(節之上)(市松芝工)	(植生シートエ) (植生マットエ) (植生筋エ) (人工張芝エ) (植生穴エ)	植生工 (植牛基材吹付下)	(客土吹付工)				•	縁石工(縁石・マンホーゴ)	፲ ½	小型標識工				
枝番	-			2												
巛	7			7						∞		6				
絙	の 共通	的工	基	т	#浬:	的工	型			т	共通的工種	м	#浬:	的工	型	
楖	∞ 一般	烟工		М	磁:	施工				т	一般施工	М	盛:	烟土		
票	- 共團	循		1	共浬:	霥				_	北 州	1	共運	ლ		

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

左 取					
	w/2	T T			8
測定 基準 鋼げた等 トラス・アーチ等 主げた・主構合支点及び各支間中央付近を測定。 株組などた部材につき1個抜き取った部内の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。 生げた合成び各支間中央付近を測定。 ちなんび各支間中央付近を測定。 上版を高(mm)	b:腹枚×はリフの削漏(mm) w:フランジ幅(mm)		原則として仮組立をしない状態の部 材について、主要部材全数を測定。		主要部材全数を測 定。 :部材長(mm)
規格値 ±2 w 0.5 ±3 1.0 < w 1.0 ±4 1.0 < w 2.0 ±(3 + w/2) 2.0 < w	b / 150	w / 200	±3 10 ±4 > 10	±2 10 ±3 > 10	/ 1000
測 定 項 目 フランジ幅w(m) 腹 板 高 h(m) 腹板間隔 b(m) 板 鋼げた及びトラ の 入等の部材の腹 面 面	が を を を の の の の が の の の の の の の の の の の の の	フランジの直角度 (mm)	部 材 長		圧縮材の曲がり(mm)
工 権	品 按	祖 威			
张 4 基 L					
A —					

規格値のw, に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 , フランジの直角度 , 圧縮材の曲り 」の規格値のh,b,w, に 代入する数値はmm単位の数値とする。

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

	無								
} }	一	L1 12 L2 L2	Helphilli H	P P	######################################		A RITE	b A h	
測 定 基 準	鋼げた等 トラス・アーチ等	主げた、主構全数を測定。	各支点及び各支間中央付近を測定。	両端部及び中心部を測定。	最も外側の主げた又は主構について 支点及び支間中央の1点を測定。 L: 測線上(m)	各主げたについて 10~12m間隔 海底。 に主げたの支間長 (m) (m)	どちらか一方の主げた(主構)端を測定。	各主桁の両端部を 支点及び支間中央 測定。 付近を測定。 ト:主げたの高さ ト:主構の高さ (mm)	主げた、主構の全継手数の1/2を測 定。 1、2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナス 側については設計値以上とする。
i	規格値	± (10 + L1/10) ± (10 + L2/10)	±4 B 2 ± (3+B/2)	±5 h 5 ±(2.5+h/2)	5 + L/5 L 100 25 L > 100	-5~+5 -5~+10 20 < L 40 -5~+15 40 < L 80 -5~+25	設計値 ± 10	3+h/1,000	音投音 十
{	測定項目	全長 L1(m) 支間長 L2(m)	主げた、主構の中心 間距離 B(m)	主構の組立高さり(m)	主げた、主構の通り(mm)	主げた、主精のそり(mm)	主げた、主構の橋端 における出入差 (mm)	主げた、主構の鉛直 度 (mm)	現場継手部のすき間 1, 2(mm)
Ĥ		桁製作工(仮組立による検査を実施する場合)(シミュレーション仮組立検金を行う組合)	ı		Ŕ		种		
	松	-							
-	に 米	2							
	篇 —— 神	s 一般施一 s 共通的							
-	電	- 共通編	1						
	ME	学近点							

規格値のL,B,h に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主構の鉛直度 」の規格値のトに代入する数値はmm単位の数値とする。

単位: mm

金												
捕												
所												
題		*****	R			1	-	1		,		
迅		****				>						
展			32			_*						
測定基準	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、 台塗料の必要量を求め、塗布作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗布作業の開始前に使用量(空缶数)を確認し、 各々必要量以上であることを確認する。	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所測定。	1施工箇所每		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施	工箇所につき最低3箇所測定。		1 施工箇所毎		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所測定。	1施工箇所毎	
規格値	調道路橋塗装・防食便覧 -74 を表・5.5名を連邦の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	主以前計60年	名構造物の	規格値による	0€∓	- 30	08 -	- 200		± 30	- 200	
測定項目	本 使 用 電	A + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	·	X	皇	w M	u v 喧	延 長 L		聖 耕	死 長 L	
工	コンクリート面塗装工	一般事頂 (切込砂利) (砕石基礎工)	(計算を表して) (割ぐり石基礎工) (おしいた)	(ユーハヘヘエコピ)	基礎工(護岸)	(5 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7				基礎工(護岸) (プレキャスト)		
枝番					1					2		
朱	16	~			ĸ					m		
郶	s 共通的工種	4 聯	御工		4	基礎	Н			4 瑋鹅	Н	
畑	s 一般施工	m ‡	般 独	1	3	窟:	烟日			∞ 凝	烟日	
삏	- 共通艦	← #!	貝骠		-	北 剰:	循			- 共團	ლ	

翢 単位: mm 龗 吊 圄 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$ $d = \sqrt{x^2 + y^2}$ $d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 띬 誤 壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につい ては各打設ロットごとに測定。 拱 全数について杭中心で測定。 全数について杭中心で測定。 全数について杭中心で測定。 全数について杭中心で測定。 革 汜 戸 設計径(公称径) - 30〕 以上 0/4以内かつ100以内 画 設計值以上 設計值以上 設計值以上 設計值以上 設計值以上 1/100以内 1/100以内 1/100以内 100以内 1/50以内 100以内 150以内 300以内 + 20 + 50 + 50 ± 100 - 100 + 50 - 20 - 50 20 松 猫 粱 岷 σ 岖 σ 椞 Δ 岷 σ 郊 \Box 岷 σ 椞 σ ケーンンの高さり ケーソンの壁厚 t Ш ケーソンの長さ ケーンソの幅 硘 硘 严 欿 往 \prec \prec \prec \prec 띬 Ó Ú 卌 Ó 拱 Ó 卌 卌 Ó 卌 誤 華 根 徸 画 乖 杧 乖 画 華 栕 乖 華 徸 革 根 雷 華 根 杧 軍 既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭) 既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (エ鋼杭) オープンケーソン基礎工 雪 出来形管理基準及び規格値(一般土木) 場所打杭工 深礎工 枝番 巛 4 2 9 4 / 郶 4 基礎工 4 基礎工 4 基礎工 4 基礎工 4 基礎工 ተ 一般施工 一般施工 一般施工 一般施工 $^{\circ}$ Μ 一般施工 $^{\circ}$ - 共通線 - 共運線 - 共通纜 共通編 - 共連編

H	¥														
哲															
进	漁 た B 別	厚さは、個々の測定値が10個に9個以 上の割合で規格値を満足しなければな	らないとともに、10個の測定値の平均値(×・、)について満足しなければな	でない。ただし、厚さデータが、10個未当ではつけ、原文では、10個未当ではのでは、10個米	/#32,% 14,% /#32,% 14,% 14,%	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足したければな	インによった。10個の逆に値の平均では、10個の逆に値の平均に値(X 10)について端にしなければな	で、、「し、「こう」、 いっぱん うない けんぱい しない。 ただし、 厚さデータが 10 個未 選の場合 は当定値の 平均値は適用した	Moval Brace D 1 5 に 2 に 2 に 2 に 3 に 3 に 3 に 3 に 3 に 3 に 3	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければな	らないとともに、10個の測定値の平均値(メーシーについて難を一だけが	でくしっている。 できる ひかい しゅうしゅう しゅうしゅ 大下し、 早か 十一夕 女 10 個未 単の 自今 十 単り 一 かん 10 個 十 単 1 単 1 単 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1 年 1		
押押任	测 化 華 年	基準高は、延長40m毎に1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所とし、	道路中心線および端部で測定。	子にない、このに、「こののに」にしてを採取して測定。	「備IA、処長80m毎に1酉所、かつ1施工箇所につき最低3箇所測定。		基準高は、延長40m毎に1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所とし	「記録しのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	(本になべ、)、このでは、「「「「「」」といって、「」」でを採取して測定。 はは が だっかい できん かい かい かい かい	Maid、双衣80m毎に1gが、かつ1施工箇所につき最低3箇所測定。	基準高は、延長40m毎に1箇所、か つ1施工箇所につき最低3箇所とし、	道路中心線および端部で測定。 同さは、名声線200mに1部形を	A CIPY THM TO THE TO	幅13、姓長80m毎に1g所、かつ1施工箇所につき最低3箇所測定。	
格值	10 個の測定値の平均 (X _{1 o})		٠ ع		高は、基層・中間層で工事完 る場合のみ適用する。			- 2		3mプロ7ルメーター ()2.4mm以下 直読式(足付き) ()1.75mm以 下		- 15			
規	個々の測定値(×)	±20	6 -	- 25	基準高は、基層 成する場合のみ		± 20	2 -	- 25		± 40	- 45	- 50		
当宁居田	侧化坦目	皇載奮	우 首	閆			基準	也	閆	计	基準高	구 首	■		
		アスファルト舗装工 (基層丁・中間層丁)	H				アスファルト舗装工、書廊エ、	(44 1)			コンクリート舗装工(下層路盤工)				
共	(X)	2					9				_				
Ŋ		5					2				9				
語	료	9	報	舗装	Н		9	報	舗装I	-	9	一袋	##\l	H	
如	바	3			33	袋	絕日		т	袋	烟工				
司 %	重	-	共浬:	艦			_	共浬	循		- 共通循				

	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田																		
	掬																		
:	測 定 箇 所	厚さは、個々の測定値が10個に9個以 Lの割合で規格値を満足しなければな	らないとともに、10 個の測定値の平均値(×・、) について 猫足しなければ	でで、「りった」、これでのなった。これで、「これで、「同な」、「同なデータが、10 個未満の場合に当定値の正均値に適田」な	/#JO/% TICAMA CIECA TA CIETA MATA CA (1.)		厚さは、個々の測定値が10個に9個以 トの割合で規格値を満足しなければな	らないとともに、10個の測定値の平均に値(オン・ントラント番号)が中が近く	でくべもプレイン・であるのでです。 らない。ただし、厚さデータが 10 個未 港の提合け当定値の平均値は第日した		コア採取について	・ ボルン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	厚さは、個々の測定値が10個に9個以 トの割会で規格値を満足しなければな	45.5511、2511、25111 では、10回の逆に値の下が、20回の逆に値の平均値の下が、2011と乗り、44を持た	この(~10) について個体の多いではないない。ただし、厚さデータが10 個米単ケ値のでお店に適田。 た	MOV8日 A別A BOTナショネ週五 O.4 「」。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等	に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
	測定基準	基準高は、延長40m毎に1箇所、か ロフ1施工箇所につき最低3箇所とし、	道路中心線および端部で測定。 同さは、名声線200m年に1第66を	みのは、日本家もののはない。 はいはいだいしん 選ぶる はっぱい かにって 選ぶる ままい かんしん	幅14、姓長80m毎に1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所測定。		基準高は、延長40m毎に1箇所、か 01施工箇所につき最低3箇所とし、	道路中心線および端部で測定。 同かは 1000m3111個の割合が	みには、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	幅は、延長80m毎に1固所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。			基準高は、延長40m毎に1箇所、か 01施工箇所にしき最低3箇所とし	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	Jack、I、000m.ic.i向の割可に コアを採取して遡応。 ic. ガロ・	幅は、延長80m毎に1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所測定。			
格値	10 個の測定値の平均 (X ₁₀)		∞,					8 -		スファルト安定処	アスファルト安定	で工事完成する場合のみ適 :る。		- 3		中間層で工事完成する 適用する。			
捐	個々の測定値 (X)	±30	- 25	- 50			±30(±20)	- 25	- 50	()は加熱アスフ理丁に適用する。	基準高は、加熱	処理で工事完5 用する。	±20	6 -	- 25	基準高は、中間層で 場合のみ適用する。			
	測定項目	基準高	也	■			音 東	させ	■				基準高	と	唧				
	工	コンクリート舗装工(粉度調整路盤工)					コンクリート舗装工(カメント(カメント(石加・瀬書)						コンクリート舗装工	単治・エン・マン・					
	枝番	2				 	ĸ						 4						
	朱	9					9						9						
	節	9	窓	籍装工	Η		9	磁	籍装工	Н			 9	磁	維装	Η			
	草	3	一般	烟工			3	- 磁	施工				3	- 磁	海王				
	編	_	共浬	ლ		 	-	共風	循				 - 共風礁						

単位: mm

脚														
舉														
测 定 箇 所		*			-00				Nemental					
测定基準	幅は、施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、か	つ1施工箇所につき最低3箇所。 ラメロ 海上部 第一部 はいかい かいいい はんしゅん かんがん かんがん かんがん かんがん かんかん かんがん かんがん かん	子には、泥土角で1000円で10円で10円で10円で10円で10円で10円で10円で10円に10円に10円に10円に10円に10円に10円に10円に10円に10円に		施工延長40mにつき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。	基準高は、道路中心線及び端部で測定。					n - 1	D:本間の長さ n:10 本程度とする :鉄筋径	工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書(設計編13.2)参照。但し、道路橋仕様書の適用を受ける橋については、道路橋仕様書(コンクリート橋編 6.6)による。	重要構造物かつ主鉄筋について適 用する 橋梁コンクリート床版桁(PC橋 含む)の鉄筋については第1編6-4- 12床版工を適用する。
規格値	- 25	- 50	- 100		± 50	- 100	法長の - 2%	- 100		+1	± かつ 最小かぶり以上			
测定項目	厚 t < 15cm	t t 15cm	M ■		皇 東 賽	法 < 5 m	天 5 m	幅 W ₁ ,W ₂		p 閩 閩 d 本	かぶりュ			
種														
Н	堤防天端工				路体盛土工路床磁十工	1				組立て				
枝番														
巛	9				3	4				4				
郶	4	原三	・煉业	・砂防土工	2	測恕·	НН			7	鉄筋	-		
ተ	4	HH			4	HH				2	無絕、	鉄筋コンは	シンー ヤ	
號	_	- 共運艦 - 共運艦							-	共運品	臣			

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

脚									
審									
#									
所					4		9		
鮰		W.	D			i	T.,	⊥L +	
识					\	<u>.</u>	ji j	1	
展								.i L	
耕	<u>塗装終了時に測定。</u> 1 ロットの大きさは5 0 0 ㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は2 5 点とし、 各点の測定は5 回行い、その平均値をそ の点の測定値とする。	施工延長40m(測点間隔25mの場合 +50m/1-0字1 筬m かつ1 姓工窓	国十部 -).で						
幽	t5 0 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	点間隔 無所	í I.º						
识	選売。 (中は元:00 (100 (100 (100 (100 (100 (100 (100 (m () m ()	(3) 阿月					144	
展	で イトのオン 大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	£長40	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					1 施工箇所毎	
	準 名の 装 ロ ロ 点点 然 ゝ ゝ の の		で に に に に に に に に に に に に に に に に に に に					1施工	
便	3. ロットの塗膜車 平均値は、目標準 膜庫合計値の90% 以上。 3. 測定値の最小値 計値の70%以上。 : " 準準値の分外の 、 一 ・ 強度値の分布の 、 でだし、 回標 を ではがし、 測定値の ではない。 ではない。								
椝	のででトの当時間で、同時に、国際に、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には、国際には	+ 50	- 20	- 50	- 30	- 50	- 100	- 200	
猫	a . ロットの塗膜車 平均値は、田標際 以上。 b . 測記値の最小値 は、田標塗機幅の 正式、田標塗機幅の 正型に値の分外に 連準値を分外に 整膜 原合計値 をだだし、測記値の分布の ではない。 ではない。								
ш	<u></u>		t	łU	W_2	3 m	3 m	_	
定項	趣	準高	łU	込 厚	W ₁ ,	٧		岷	
展	纵	音	世	箑	■	- 中	υ Ч	识	
車									
Н	H	電壁工							
	現場塗装工	場所打擁壁工							
枝番									
硃	1	2							
郶	- 共通関係	1	共浬	腎底	í				
御	6 共通施工	9	共運	揺 -	1				
纜	- 共通編	1	共運	票	-	_	-	-	_

単位: mm

脚																						
報																						
河 定 留 所	▷			1施工箇 1 施工箇 1 施工						Li			- 1-2	200		t ≥ 3 m	East San	S	, H	- ,⊐ *	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
測定基準	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。	1 施工箇所毎		施工延長40m(測点間隔25mの場合はよっの、1つま1等所、かつ1年1年	はっつこうにんの・国が、グン・加上国所にしき最低3箇所。				1 施工箇所毎	施工延長40m(測点間隔25mの場合1+50m)1-134第所 かつ1 242	はっつ…)につの「回か、グン・加工回」 所につき最低3箇所。			1 施工箇所毎			全数(任意仮設は除く)					
規格値	± 50	- 200		≠ 50	- 50	- 100	±0.03hかつ ±300以内	設計値以上	- 200	± 50	- 50	- 100	- 50	- 200			設計値以上	100	±2.5度			
测定項目	皇	延 長 L			高 h < 3 m		部 直 度	控え長さ	7	皇事賽	法 高さh < 3 m	R 高さり 3 m	厚さt,,t2,t3	延 長し1, L2			削孔深み	設置誤差d	せん孔方向			
工	プレキャスト擁壁工			盛士補強工 〈誰≫土〈= ニコニジ〉 跨	(無強工(アールブルタ) 弾 壮)	(多数アンカー式補強土工	/A./ (ジオテキスタイルを用いた ば※ユエ:*、	(14) オープなり		井桁ブロックエ							アンカーエ					
枝番				7	. 1		<u> </u>	•		.15												-
巛	3			3						4							2					
颌						٦	共浬	野夜	ź				- 共通関係									
御	ら 共通施工 ら 共通施工						9	北 煙	搖 -	1				9	共運	組−	1					
霥	- 共通	號		1	共渾	標				- 共運疆							- 共運艦					

幽																						
捅																						
箇 所]]	-			2 =	THE STATE OF THE S	22	7		7	Г	7	ij	= = = = = = = = = = = = = = = = = = =				4				
定					*		-	D			L		W		i							
展					<i>=</i> ±	light.	h,			0.00	1.3	I W	12	ž.			III III					
定 基 準	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。	1箇所 / 1 施工箇所		4 0 m (測点間隔 2 5 m の場合	は 2 0 m) につき 1 箇所、かつ 1 施工箇所につき 最低 3 箇所。			所每		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	14、現場が少める場合				4 0 m (測点間隔 2 5 m の場合	は50m)につき1酉m、かつ1施丄国 所につき最低3箇所。		所每				
∭	施工延長 は50m 所につき	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						1箇所毎	以 祖				施工延長	は~0 m 所につず		1 施工箇所毎						
規格値	+ 30 + 30 - 20 - 30 - 30 - 200 - 30 - 200						± 30	- 20	- 30	- 30		± 30	- 50	- 30	- 200							
測定項目	聖 兼 晋	延 長 L		拱	 事業 事さたれ、た。 をかれ、か。 をを表し、 					基準 画					電 計	幅 W ₁ , W ₂	N N	近長 L				
種	ストリ型側溝)エ)	則溝)		H																		
H	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本					兼 子 子 子 子					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·											
枝番																						
条							- 															
章								北 煙				○ 共通施工一 共通関係										
		- 共通鑑 - 共通 - 共通循 - 共流				り 共通施工							1									
삏	一 共涌	號		_	共	訓集				1	共産	- 共通鑑						- 共通鑑				

数十十)
格値(一
5準及び規
K 形管理基
莊

単位:mm

摘																				
测 定 箇 所	1000	3			3		The second secon					i i								
测定基準	施工延長40m(測点間隔25mの場合 1+50m)につき1筒形 かつ1 始工	ほうでに プログロ・ログ・グラー 派士団所につき 最低3箇所。						延長方向は、設計図書により指定された 湖上を	潮点曲。 横断方向は、5 m毎。	また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じて問ますおう。	エ尚にしばんる。んんの、ロ別な同の十均値の設計基準高以下であること。						延長方向は、設計図書により指定された 測4年	湖京事。 横断方向は、5 m争。	また、鈴面は法尻、法肩とし必要に応じずに、よれ、よれ、は、近の作の形	ー 中間点も加える。 たたし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。
規格値	- 100	- 100	- 200		- 30	- 30		上限下限	+ 200 - 800	+ 200 - 1000	+ 200 - 1200	+ 200 - 800	+ 200 - 1000	+ 200 - 1200	- 200	- 200	上限 +200	- 200	- 200	
測定項目	章 革 章	w M	延 長 L		M ■	高 水			200ps	美 500ps	基 加 1000bs	ĺ٢٢	1 420ps 七 600ps	が 1350ps	쁵	延長	重 集	쁵	延長	
工	捨石工				護岸付属物工			浚渫船運転工	(ホソノ液洋船)								後漢船運転工 (第一点を推動)	(クラノ液洋船)		
枝番								-									2			
巛	7				∞			-									-			
浥			<u></u> 野夜				黙碗		烘业									烘业		
一十			施上	1			選		共運		1							共産		
號	_	共浬	郻		_	共運	(艦	7	共産	號							1	共産	豐	

幽								
辉								
河 定 箇 別			T	u u		A	A (Memority)	
测 定 基 準	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。 印につき最低3箇所。	1 施工箇所毎	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。	1 施工箇所毎	図面の寸法表示箇所で測定。	製品全数を測定。	両端及び中央部付近を測定。	図面の寸法表示箇所で測定。
規格値	+30 - 50 - 30	- 200	±30	- 200	±3 10 ±4 > 10	0 ~ + 30	設計値 ±4 ±2	± 3 10 ± 4 > 10
测定項目	単ります。	近 長 L	L N	延 長 L	部 部材長(m)	Ĭ Ew (n	組合せる伸縮 数置との高さ の差 1 (mm) ロインガーの 時 食い違い	部 部材長 (m)
工	プレキャストカルバートエ (プレキャストボックスエ) (プレキャストパイプエ)		落石防護柵工		検査路製作工	鋼製伸縮継手製作工		落橋防止装置製作工
枝番			100		*	VIA .		100
巛	-		2		е	4		2
浥	4 道路関係	5	4 測路	開係	4 道路関係	4 道路関係	χ <u>σ</u>	4 迴路壓係
御	9 共運施下	1	9 共帰	揺H	ら 共運施工	ら 共通施工	1	9 共通施工
響	- 共通纜		- 共通	[備	- 共運纜	- 共通號		- 共通鑑

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

脚						
樂						
监						
鮰			1	1	~	
识		4		3		
展			123	↓Ш	4	
					rul	
卅		底。	定。	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。	各主げたについて10~12m間隔を測定。 L:主げたの支間長(mm)	
単	完	各支点及び各支間中央付近を測定。	各支点及び各支間中央付近を測定。	い部を	5m間階	定。
	図面の寸法表示箇所で測定。	中央付	中央付	を 逆 記 で う	10~12 長(mm)	図面の寸法表示箇所で測定。
识	表示	各 支 間	名 同	仮組立 全数 で	ついて の支間	表示
展	の寸法	気及び。	気及び	として 要部材:	げたに Eげた(の寸法
		各支点	各支点	原用で	格 J 莊 ·	図
画	10 \	5 v 1.0 v 2.0)		0 0	20 4	10 ^
格		0.5 < w < w v/2)	w / 200	. > 10	+5 +10 20 < L	
猫	# # 5 7	±2w 0.5 ±30.5 < w ±41.0 < w ± (3+ w/2)	>	# # 4 	- 5 ~ +5 - 5 ~ + 10	# # 4 7
			ジ の 関 (m	<u> </u>	1 1	
ш	(m)	フランジ幅 w(m) 腹板高h(m)	ン価 ジ	(m)	07:0	(m)
定項	部材長	ラップを	IV	部材長	主げたのそり	海 技
展	格 中 一	<u></u> フ	部 で 国	細	仮組立時	
	15					
種		Н				
	H 史	行製作				製作工
Н	K管製1	- 厶用				う護棚
	鋼製排水管製作工	プレビーム用桁製作工				橋梁用防護柵製作工
枝番	補	1)				型 型
张	9	7				∞
逅	4 酒路関係	4 酒路関係				4 測鋁壓後
楖	6 共通施工	ら 共通施工				6 共通施工
编	- 共連編	- 共通鑑				- 共通縄

Œ.	瞅																				
単位:mm	輯																				
	測定箇所																				
	测定基準	製品全数を測定。	リカ国間で加工も含む。2)ただし、ソールプレート	接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してC113を適用する。																	
	規 格 値	+2		1以下		1.5以下	+ 3	+ 4 - 2	JIS B 0403-95 CT13	+ 0 1 -	+ 1 - 0	JIS B 0403-95 CT13	7 ∓	1100	+3	H 3	(H/200+3) 小数点以下切り捨て	JIS B 0403-95 CT14	JIS B 0403-95 CT15	JIS B 0405-91 粗級	JIS B 0417-79 B級
-	定 項 目	の直径差	センターボスを基準にした孔位置のずれ	1000mm	センターボスを基準にした孔位置のずれ	> 1000mm	100mm	> 100mm	の 中 心 距離	ス の 直 径	スの高み	N及び直角方向の長さ寸 法	300mm	> 300mm	で面加工仕上げ	Н 300mm	H > 300mm	(し長さ寸法 1)、2)	鋳放し肉厚寸法 1)	削り加工寸法	ガス切断寸法
	戻	7		₽ ⊘	品離		光6	草	孔	*	*	の橋軸			나 나	ロンクラ-	- 卜權造用	鋳放	Via		
	'A	내下器	構造物	との様	合用状:	<u> </u>	レンt	? - 1≒=	がトれ	センタ	ーボス	山	全移制			銀付銀衣庫	値 化工	;	非 鬥	アボ	
	種																				
出来形管理基準及び規格値(一般土木)	Н	鋳造費 (金属支承工)																			
規格値	枝番	-																			
【及び)	偨	6																			
理基準	郶	4 測器	路関係																		
K形管	楖	9 共	関矩工																		
田	삏	← #¾	剽猵																		

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

摘													注)新設のコンクリー	ト構造物(橋梁上・下台上が乗用権法	即十のもの里を伸迫物である内空断面積	25㎡以上のボックスナニバート/工権製作	のプレキャスト学品	は全ての工種におい	て対象外))の鉄筋の	配筋状況及びかぶり コードー・	こうで、は、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	一ト構造物中の配筋	状態及びかぶり測定再経行、十分	安唄(来) 」でげ せて適用する
测定简所	福港村		\					4]:	19 ± 19 ± 19 ± 19 ± 19 ± 19 ± 19 ± 19 ±	₽	- 9 m													
測 定 基 準	製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t)	公展入街对铁角						軸心上全数測定。				図面の寸法表示箇所で測定。	基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で、	1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚みは型枠設署時におおむね1	11.7 11.2 11.3 11.3 11.3 11.3 11.3 11.3 11.3	半作次目でひくこうる。		1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定簡形は断面が1があり当に		1径間当たり3箇所(両端及び中央)測定。	1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を	测定。		
規格値	2+~0	0 ~ + 1%	0~+15	±0.5	±2.5%	+ 4	1	p / 500	h / 500	+ 5		±3 10 ±4 > 10		H 20	0 ~ + 30	- 10 ~ + 20		設計値以上	± 10		± 20		+ 10	
測定項目	幅 w,L,D 500 長	さ 1500mm 1500mm	径 D 1500 < w , L , D	t 20mm	7 ± 20 < t 160	160< t	平 面 度	上面水平("m")	流 鉛 直 度 立 部 直 度 時 2(mm)	唱		部部格長(m)材	4 世	 	w ■	+ 11)	鉄筋のかぶり	鉄筋の有効高さ		新 間 福	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	上記、探影の角型がある	ナスの場合
工種	鋳造費 (大型ゴム支承工)							アンカーフレーム製作工				仮設材製作工	床版工							1				
枝番	2																							
硃	6							10					12											
颌	4 測路	品配係						4 河流	名配多	Ę		1 6 4 編 共施 共関道 通 工 通 路	٧	迴	好點7	<u>E</u>								
御	る共派	関地工						6 共 6	埋施丁	+		9 銀工		共	連施下	1								
编	← 共	票票						1 注	票票			一	-	#;#	票票									

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

摘要																				
测 定 箇 所 寸		の現	施 牧前 22278 2222	1000000]	V X		***		W t WE		4							
河 定 基 準	両端及び中央部付近を測定。			高さについては車道端部、中央部各3点	ョラニ。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の 執った	ョT S 氘。					1径間当たり両端と中央部の3箇所測	Æ,			1径間当たり両端と中央部の3箇所測	Æ,		1プロックを抽出して測定。		
規格値	舗装面に対し 0~-2	3	舗装面に対し 0~-2	+3	3	3	2	±2	+5	舗装面に対し 0~-2	- 10 ~ + 20	- 10 ~ + 20	0 ~ + 30		- 5 ~ + 10	- 20 ~ + 30		+3	± 4	
测定項目	据付け高さ	表面の凹凸	仕上げ高さ		さ 車線方向各点 誤差の相対差	表面の凹凸	歯型板面の歯咬み 合い部の高低差	縱方向間隔11	横方向間隔W2	仕上げ高さ	地覆の幅wィ	地覆の高さり	有効幅員 w 2		w ■	画 小		唧	吧	
基 工	伸縮装置工 (ゴムジョイント)			`	(割歌ノインカーン=イント)						地覆工				橋梁用防護柵工	高米田司徳二		検査路工		
枝番	-			2																
朱	13			13							14				15			16		
短	4 測8				割路						4	迴路	點兩	<u> </u>	4	泗窋	関係	4	泗呂	黙廃
脚	9 共源		H	9	共風	型							祖 王	1		共風				烟口
삁	← # # # # # # # # # # # # # # # # # # #	製厂		-	共運	框					-	共産	號		-	共運	艦	-	共運	循

脚														
辉														
吊														
鮰														
迅														
戸														
测定基準	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)	支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を	深く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定す 3. コギースの ** 問 () - 1. 、 * * * * * * * * * * * * * * * * * *	ー 注7.0 可劉文承の処向(La, Lb)を訂測し、 支承据付時のオフセット量 を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認す	る。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了 後に実施する。	は、道路橋支承便覧参照。		支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 軸面 ひパゴハ ち 蚤 と台 胚 キ ルタ ル との	接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。	らら、文承で名配なリに括1917も場合で 徐く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定す ろ	注5)可勤支承の遊間(La,Lb)を計測し、 支承据付時のオフセット量 を考 度! 7 終計可能量が適略権主命佣		(エク) 叶凱太永ので劉皇(松目)は、本説だ. 後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。	
	女 B	支はなる承、お、	シ(T) (を と) (T) (T) (T) (T) (T) (T) (T) (T) (T) (() () () () () () () () () () () () () (.()()()()()()()()()()()()()()()()()()()	、 注 開 業 		支上触承部面	接支は、繊維をは、繊維をは、	A を を を を を を を を を を を を を かい。	.(2共	í Í	(±3) ⁽ 2) (±4)	
規格値	±5	設計移動量 ±10 以上	±5 (B-2)	7 / 100	22	S	温度変化に伴う移動 量計算値の1/2以上	+ 5	設計移動量 ±10 以上	±5 4+0.5× (B-2)		1 / 300	ഹ	温度変化に伴う移動 量計算値の1/2以上
测定項目	据付け高さ 注1)	可動支承の移動 可能量 注2)	支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	下 橋軸方向の	次 平 橋軸直角方向	可動支承の橋軸方 向のずれ同一支承 線上の相対誤差	可動支承の 移動量 注3)	据付け高さ 注1)	可動支承の移動 可能量 注2)	支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	不 橋 軸 方 向	次 平 橋軸直角方向	可動支承の橋軸方 向のずれ同一支承 線上の相対誤差	可 動 支 承 の 移動量 注3)
種														
Н	支承工 (鋼製支承)							支承工 (ゴム支承)						
枝番	-							2						
朱	17							17						
郶		四點底						1	回路関係					
畑	9 共煙								共通施工					
票	- 共涌	"						- ‡	共風線					

	稇								
単位:mm	捔								
南	測 定 箇 所	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	#15-42 1	9	Interpretation of the second o	€ ±ift	h h	3 1 3	
	東 君 脳	各けた毎に全数測定。 L:主げた・主構の支間長(m)	L: 主げた・主構の支間長(m)	主げた、主構を全数測定。 L:主げた・主構の支間長(m)	各支点及び各支間中央付近を測定。	どちらか一方の主げた(主構)端を測定。	各主げたの両端部を測定。 h:主げた・主構の高さ(mm)	主げた、主構の全継手数の1/2を測 定。 1, 2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナス 側については設計値以上とする。	は仮組立検査を実施しない工事に適用。
	規格値	± (20 + L1/5) ± (20 + L2/5)	± (10 + 2L/5)	± (25 + L/2)	±4 ± (3+B/2) B > 2	ŝ投音+/值 ±10	3 + h/1,000	高投音√值 ±5	
	測定項目	全長 L1(m) 支間長L2(m)	(шш) () 照	€ i) (mm)	主げた、主構の 中 心 間 距 離 B(m)	生げたの橋端に お げ る 出 入 差 (mm)	主げた、主構の 鉛 直 度 (mm)	現場継手部 の す を 間 1, 2(mm)	
(:	種	() ーン雑設) アクション米	レーン架設)						
出来形管理基準及び規格値(一般土木)	I	架設工(鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架	設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)						
)規模	枝番								
隼及7	硃	8							
蓮	嗣	4 海路駅	艇						
形管	神	ら 共通施	Н						
出	编	- 共連編							

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

幽				
播				
所				
锢	1 (F 12)	1 (H 12	W	
识			* *	
戻	,_			
	野山 20	では、	シ 中 24 26 37 37 37 37 37 37 37 37 37 37 37 37 37	記
卅	る。 る。 かし がで かで で で る。	る。 を使用す リエSに ができる	·ストレ 部部、中 (使用す I S に	1寸法
蝉	による ではる にたる した	た で で で で で で で で で で で で か し か し か し か し	、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	(適所で)
识	測 央 I の との ク 発 を 。 智 表 た る	単 年 日 年 日 年 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	測定。 適に 一 の の の の の が が が が が が の の の の の の の の の の の の の	
	し い い い い い い い い い い い い い い い い い は い は し い は し い ま が し い が に が に い が に い に に い に に に に に に に に	ついて りは I I S A 中 に	ついて測定。 ワミの測定に 測定。 活測定箇所に とする。 I S マーク表 品工場の発行 議表に替える (m)	うじて 回の 小
展	析全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する; 合は、製品工場の発行するJISに基く試験成績表に替えることができる。	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製品工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。	析全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 トング後に測定箇所は、両端部、中央部 格断面寸法測定箇所は、両端部、中央部 の3箇所とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場 なお、JISマーク表示品を使用する場 はは、製品工場の発行するJISに基づ く試験成績表に替えることができる。 :支間長(m)	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。 所は、図面の寸法表示箇所で測定。
	作 権 な 何 ◇			
靊	00	^	5 5 0 0 0 0 かつ 30mm以内	
犁	± L/1000 ± 5 ± 8 ± 10	 ± 5 ± 8 ± 10	+10 -5 +10 +10 -5 <15±10 15± (15± (15± (15± (
猫		± L/1000 ± L/1000 ±	21 × 15.	
	m)	(抵口口	w₁ h h 万三	投
通	長L(m) 外形寸法 の そ リ の曲がり 2	L (m) 	(上)w ₁ (下)w ₂ さ h を 情 順 長	長 (mm)
河	析 長 L (m) 断面の外形寸法 橋 桁 の そ リ 横方向の曲がり 2	桁長し(m) 断面の外形寸法 橋 桁 の そ リ 横方向の曲がリ	幅 (上) w 幅 (下) w 高 さ I 桁 長 支 間 長	析 長断面の外形寸法 (mm)
	* * * *	* * *		
	Н	Н	H H	☆
種	ョン拾製作工	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	ョン拾製作工	プレキャストセグメント製作工(購入工)
	m N	₩ (E	(三)	4
Н	プレテンシ (購入工) (けた橋)	レテンシ = 購入工)	ポストテンツ	ナキャン 国 関
	ンが、して、	プ) () () () () () () () () () () () () ()	_ሹ ረ	УН Э)
枝番	-	- 5		
巛	9	0	50	22
育	4 道路壓係	10	10	4 河路関係
曹豐	- 共通編 - 共通施工	→ 共通總○ 共通施工	- 共通偏の 共通施工	- 共通編の 共通施工
然	一 大道統	一 	- 共通總	- 生道緒

脚				
舞				
河 定 箇 所		1 m t m	hi wi	h1 W1
河 市 車 準	析全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 かが後に測定。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 :支間長(m)	析全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3 点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3 点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 :支間長(m) 鉄筋の出来型管理基準については第1編6-4-12床版工に準ずる。	析全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3 点、幅及び高さは1径間当たり両端と中 共部の3箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 :支間長(m) 鉄筋の出来型管理基準については 第1編6-4-12床版工に準ずる。	析全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 :支間長(m) 鉄筋の出来型管理基準については第1編6-4-12床版工に準する。
規格値	<15±10 15± (- 5) かつ ・30mm以内 0.8	± 20 $-5 \sim +30$ $-10 \sim +20$ $<15 \pm 10$ $15 \pm (-5)$ $15 \pm (-5)$ $15 \pm (-5)$	±20 -5~+30 -5~+30 ±5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 -7 -7 -7 -7 -7 -7 -7 -7 -7 -7	$-5 \sim +30$ $-5 \sim +30$ ± 5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5 +10 -5
測定項目	析 長 支 間 長 横方向最大タワミ	世 権 画 価 W1, W2 は t t T T T T T T T T T T T T T T T T T	# # 高	a (上) w ₁ a a (下) w ₂ b b b b b b b b b b b b b b b b b b b
工	ブレキャストセグメント主桁組立工 組立工	P C ホロースラブ製作工	P C 箱桁製作工	P C 押出し箱桁製作工
枝番				
朱	22	23	24	55
郶	4 酒路関係	4 道路緊係	4 汕路監後	4 汕路壓佈
楖	9 共通施工	ら 共通施工	ら 共通施工	9 共通施工
霏	- 共運纜	- 共通線	- 共運線	- 共運艦

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

	脚																		
	題																		
:	測定箇所	/ 厚さは、個々の測定値が10個に9個以 トの割合で相接値を発足したければた	より割って流行信を過伝しないもはあるられていたともに、10個の測定値の平均	値(X,0)について満足しなけたばなしなければなしない。 ヤボー 厚ィデータギ 10 個米	満の場合は測定値の平均値は適用しな い。	コア探取について 橋面舗装等でコア採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で組接値を業品したければた	エジ割って発行して個体のなりもはなっちないとともに、10個の測定値の平均	: 「値(×1°)について適足しなければな」 ふない。 ただし、 厚なデータが 10 個来	満の場合は測定値の平均値は適用しな い。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床筋等	に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	区間長が100m未満の場合は平坦性を省略することができる。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以	エの割可に規格値を満たしなければな らないとともに、10 個の測定値の平均	値(X10)について満足しなければな なない セボー 厚メデータが10個米	満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
	第 定 基 準	基準高は延長40・m毎に1箇所、か D 1 始工第所につき	ノール土面によって東によっ国にいり、道路中心線および端部で測定。	厚さは、1,000m²に1個の割合で コマを控取して測定	ゴン 574450 CMAで、 幅は、延長 8 0 m毎に 1 箇所、かつ 1 施工箇所につき最低 3 箇所測定。		基準高は延長40m毎に1箇所、かつ1粒工第所につき事件3億円と	晒土画別につる取品3回別のつ、回路中心線および端部で測定。	厚さは、1,000m²に1個の割合で コアを控取1,7測定	ゴンニュデュランニュスト: 幅は、延長80m毎に1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。					基準高は延長40m毎に1箇所、かつ	- 1 旭二国アにつみ駅は3国アの)。 路中心線および端部で遡ん。	厚さは各車線200m毎に1箇所を掘しなおに1,7割に	- ひたこりに別た。 幅は、延長 8 0 m毎に1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。	
格) 個の測定値の平均 (X _{1 0})		- 3		高は、基層・中間層で工事完 る場合のみ適用する。			- 2		3m7° D74ll x-9- ()2.4 mm以下 百誌計(尼付き)	真になりたりら) () 1.75 mm以下					- 15			
規	個々の測定値 (X)	± 20	6 -	- 25	基準高は、基層 成する場合のみ		± 20	<i>L</i> -	- 25						± 40	- 45	- 50		
	測定項目	基準高	足量	■			基準高	足量	■			世田			重 車 車 車	也	■		
	工	半たわみ性舗装工、神魔工・中層工・中層工・	(本層二・中间層二)				半たわみ性舗装工、=層エ、	(衣圖上)							排水性舗装工	(
!	枝番	2					9								1				
	朱	27					27								28				
	鄮	4	連路	関係	Ę		4	連路	関系	ź					4	迴路	開門を	<u>r</u>	
	神	9	北 煙	搖 -	4		9	共運	揺	1					9	共澤	紀上	+	
:	豐	_	共運	號			-	共運	票						-	共澤	歌		

	瞅																		
	摘																		
	測 定 箇 所	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で钼終値を満足しなければな	よびにした。これによる。 10年の11年の らないとともに、10個の到定値の平均	値(×1°)について満足しなければなーなない。 ただし、厚ヤデータが 10 個米	満の場合は測定値の平均値は適用しない。		厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割なはません。 せいけいばい	エの割ってぬ行信を高んしなこれはならないにともに、10個の測定値の平均	値(X10)について満足しなければなっない、 ただし、 厚メデータ が10 個米	満の場合は測定値の平均値は適用しない。		コア採収について 橋面舗装等でコア採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	The second secon	厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以下の割ぐが指核値を 港ワー かけかばた	エジョコ こ然行画を高んしない 1.18ならないとともに、10 個の測定値の平均	値(X10)について満足しなければなった!!	海の場合は測定値の平均値は適用しない。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
	測定量準	基準高は延長40m毎に1箇所、かつ 1 施工筒師につき最低3筒師とし、道	には、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起ニルを測定	がにしている。		基準高は延長40m毎に1箇所、かつ ************************************	加工国内につる観点3 国内の、道路中心線および端部で測定。	厚さは、1,000m2に1個の割合で コマを控取して測定	1、8340 C M C C M C C M C C M C C M C C M C C M C C M C C C M C				基準高は延長40m毎に1箇所、かつ1粒工第所につき 単位3億円 71 対	加工国内につる取扱3 国内の0、国路中心線および端部で測定。	厚さば、1,000m ² に1個の割合で コマを校町 7割字	ゴノでチチネメメ、C ヒ / M / C / M / C / M / C / M / M / C / M / M		
格値	の平均		8 '					8 -		スファルト安定処。	高は、加熱アスファルト安定アニョウはオスセクショ	回公公 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)			- 5		高は、加熱アスファルト安定 で工事完成する場合のみ適 る。		
捐	個々の測定値 (X)	± 30	- 25	- 50			±30(±20)	- 25	- 50	()は加熱アスフ 理工に適用する。	基準高は、加熱が加速がある。	をほこしず 開する。 まずる		± 20	- 15	- 50	基準高は、加熱 処理で工事完6 用する。	8	
	測定項目	基準高	也	ം			甲斯	也	■					基準高	せる	■			
	工	排水性舗装工	14-7-1 正 18-3 大 1					(上層路盤上) セメント(石灰・瀝青)安定処	,				11 1 1 1 4 th view view -	排水性舗装工がお替づっているので	(加熱アイノアルト女足処理工) 工)				
	枝番	2				3							4						
	朱	28					28							28					
	鄮	4	迴路	[配夜	<u> </u>		4	河路	盟馬	Ę				4	連路	おまる ないしょう	<u>E</u>		
	埘	9	共運	揺 -	1		9	共運	提	1				9	共産	提	1		
	豐	-	共渾	豐			1	共渾	票					_	共運	票			

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

	嵌																							
	摘																							
	測定質所	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で相较値を選択したければた。	エン当日に発行宣を過たしないものもののないとともに、10個の測定値の平均	値(X 10)について満足しなければなー っない、 ただし、 厚 4 データ だ 10 個 #	1 満の場合は測定値の平均値は適用しなし。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以	エの割言に恐怕間を満たしなければならないとともに、10個の測定値の平均	値(X10)について満足しなければなしない, ただし、 厚メデータ が10 個米	満の場合は測定値の平均値は適用しない。	コア採取について	橋面舗装等でコア採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の古法にエスニアが出来る	のクククムにみることが出へる。 維持工事においては、平坦性の項目を シ酸オスニトが出かる	自略9のことか山米る。 区間長が 100m 未満の場合は平坦性 を省略することができる。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以しの割みませばを詳らしてはない。	エの割言に恐怕間を満たしなりればな らないとともに、10個の測定値の平均	値(X10)について満足しなければなっただ。 キギー 同なデータ 10個米	がある。 イス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・	コア採取について梅田はまでネーマを関していた形等	信用舗教寺 くゴノ 体みにより 体吸き に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。				
:	測定量準	基準高は延長40m毎に1箇所、かつ 1施工箇所につき最低3箇所とし、道 1施工箇所につき最低3箇所とし、道 路中心線および端部で測定。 厚さは、1,00m²に1個の割合で コアを採取して測定。 幅は、延長80m毎に1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。 1						基準高は延長40m毎に1箇所、かつ 1施工箇所につき最低3箇所とし、道 1施工箇所につき最低3箇所とし、道 路中心線および端部で測定。 厚さは、1,00m²に1個の割合で コアを採取して測定。 幅は、延長80m毎に1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。 6							基準高は延長40m毎に1箇所、かつ 1施工箇所につき最低3箇所とし、道 1路中心線および端部で測定。 厚さは、1,00m²に1個の割合で 1コアを採取して測定。 山下を採取して測定。 幅は、延長80m毎に1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。									
格) 個の測定値の平均 (X ₁₀)		- 3		高は、基層・中間層で工事完 る場合のみ適用する。			- 2		3mプ ロフィルメーター ()2.4 mm以下 首詩式(足付き)	() 1.75 mm以	<u> </u>				- 5		高は、加熱アスファルト安定 で工事完成する場合のみ適 る						
捐	個々の測定値 (X)	± 20	6 -	- 25	基準高は、基層 成する場合のみ		± 20	2 -	- 25						± 20	- 15	- 50	基準高は、加熱 処理で工事完別 田する	å E					
	測定項目	基準高	せる	■			基準高	七旦	■			平田中			基準高	七旦	■							
工		排水性舗装工(基層工・中間層工)						排水性舗装工(表層工)								グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)								
	枝番	N					9	<u> </u>									-							
	朱	28						28								29								
	鄮	4 河路関係					4	4 迴路緊係								4 河路関係								
	肿	ら 共通施工						6 共通施工								6 共通施工								
	编	- 共通鑑						- 共通艦									- 共通編							

	揪																							
1	抽																							
\$	測定圖所	原子は、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均で値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さデータが10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。					厚さは、個々の測定値が10個に9個以しの割合で指す。	エの割合に私作値を満たしなりもはなる	値(X 10)について満足しなければなった! 7 4だ 1 恒々データが 10 個米	うるで、パルス・チェング かっぱれ 満の場合は測定値の平均値は適用しなし。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等 に指揮します。	に損傷を与える恐れののる場合は、他の方法によることが出来る。 維持丁事においては、平坦性の項目を	省略することが出来る。 区間長が 100m 未満の場合は平坦性 を省略することができる。											
‡	測 足 奉 準	基準高は延長40m毎に1箇所、かつ 1施工箇所につき最低3箇所とし、道 路中心線および端部で測定。 厚さは、1,00m²に1個の割合で コアを採取して測定。 幅は、延長80m毎に1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。						加工国所につ合販訊3国所60、国民中の線および端部で測定。	厚さは、1,000m ² に1個の割合で コマを	- ゴアで3年以して別た。 幅は、延長80m毎に1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。				基準高は片側延長40m毎に1箇所、 かつ1 粒工第 既 につき 号 低 3 常 昭 到	7.7 に配上回門に入る最高の回門制定。 でんしゅうかんしゅう ままがにしょう サービザー かいかい かいかい かいかい	厚らは、万側延長~0 0 m毎に 1 国門 掘り起こして測定。	- 幅は片側延長80m毎に1箇所、かつ 1施工箇所につき最低3箇所測定。 歩道舗装に適用する。	基準高は片側延長40m毎に1箇所、かつ1粒上筒に1つままでは3	がノー 施工圏別にノき取取り国別 1 国別組定。	厚さは、200m毎に1箇所の割合で コアを採取して測定。	「「元本ので元元元」 幅は、延長80m毎に1箇所、かつ1 施工箇所につき最低3箇所測定。 歩道舗装に適用する。			
格値	10 個の測定値の平均 (X ₁₀)		- 3		高は、基層・中間層で工事完 る場合のみ適用する。			- 2		nプ ロフィルメータ-)2.4 mm以下 読式(足付き)	()1.75 mm以 下				- 10	- 15			- 3					
規	個々の測定値 (×)	± 20	6 -	- 25	基準高は、基層 成する場合のみ		± 20	2 -	- 25					∓ 20	t < -30	t 15cm - 45	- 100	± 20	6 -	- 25				
[{ }	測定項目	基準高	が	■			事準島	也	■		¥ F	Í		軍事	ł	U It	嗶	車無	也	빹				
	工 種 グースアスファルト舗装工 (基層工・中間層工)				グースアスファルト舗装工	グースアスファルト舗装工(表層工)							透水性舗装工(路盤工)				透水性舗装工(表層工)							
1	7 2 2					3	м								-					7				
	伥	29						29								30					30			
ŧ	田	4 汕路壓底						4 測路緊係								4 涸路緊係					4 涸路緊係			
1	마	ら 共通施工						ら 共通施工								ら 共通施工					ら 共通施工			
Ą	軍	- 共通艦						- 共連編								延軍		- 共通編						

単位:mm	摘要																		
· 一	測定箇所	W.	,,T,	11-11		D Z	1	T An	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	(3 3		д	1 1 1	*	
	測 定 基 準	柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷前) に測定する。	図楽寸法は、両端、施工継手箇所及び 図形で+++==================================	凶国の7ヶ/広衣小国門 C.測ル。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇	所で遡応。 1111年日の個人は 1111日	ノアナヤ人ト製品 火用の場合 4、製品 寸法を規格証明書で確認するものと	し、『基準高』と『延長』を測定。				施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。	1 施工箇所毎		図面の寸法表示箇所で測定。					
	規格値	+30	- 20	- 30	- 30	±30	- 200				±30	- 200		± 30	- 20	- 30	± 30	- 50	
•	測定項目	ョ サ サ	厚 みt,~t8	h W ₁ , W ₂	内 配 w ₃	内 高 h,	近 長 L				五	延 長 L		重 東 雷	T to	w ■	sh sh	近 長 L	
出来形管理基準及び規格値(一般土木)	工種	困渠工 (本体工)									函渠工 (ヒューム管) (PC管)	コルゲートパイプ)	(タクタイル鋳쯠官)	翼壁工	Triny				
び規格	枝番	1									2 图 0 0			· 严	7				
準及	巛	9									9			7	∞				
寶理基	郒	3	□ ・!	調師	₩ ₩	H					∞ 顧門	· #	窗室本体工	3	樋門	- 煋	₩₩	∮ ₹ŀ	-
K形 鲁	車	3	□ •!	型							∞ 福門	• 潭	则侧	3	踵門	- 煙	迴		
出	쁿	2 河	二儒							 	2 原三	霊		2	原三	"			

mm	瞅																						
単位:mm	犇																						
ж	所															7	-						43
	鮰														1	J	7			Ŧ		D	7
	迅													3						*			
															_	_	ב				-	ž	-
	戻															4	-						
												L	,					□ S 1	Đ				
	河 定 基 準	図面の寸法表示箇所で測定。					図面の寸法表示箇所で測定。											施工延長40m(測点間隔25mの場	Intaon m) にしず 固所、かつ M 工箇所につき最低 3 箇所。				
	甸																						
	4	± 30	- 20	. 30	+ 30	- 50	+ 30	- 20	- 30	∓ 30	- 50	± 30	- 20	- 30	± 30	- 50	- 100	± 30	- 20	. 30	. 30	200	
	鞙			·	"				·	"							į			·		'	
	测定項目	事 集 皇	厚 r t	w M	u w w	可 登 頭	母集	厚 さ t	w M	画 N	近 長 L	章 集 曾	厚 ch t	w ■	L N	堰 L < 20m	L 20m	章 東 章	厚 さt ₁ , t ₂	w M	高 さh ₁ ,h ₂	延 長 L	
)	種															<u> </u>	-						
出来形管理基準及び規格値(一般土木)	Н	东版工 幅	堰作工 門柱工	ゲート操作台工	一毒風		開門工	工物性工				堰本体工	水叫上 土砂吐工					魚道本体工					
び規格	枝番																						
华及	偨	7	∞ (5 س	Ξ		13	4				8	6	2				3					
章理	郶	4	水門	`₩\$	ŧΗ		4	水門	`₩\$	ŧH		2	判団	埋木	₩	+		9	無酒	lH			
來形象	畑	4	水門	-			4	水門				2	蝌					2	짝				
Ħ	票	2	原Ξ	票			2	原三	票			2	灰三	霥				2	原Ξ	票			

胐 .. E 霏 単位 出 圄 W2 汜 戸 プロック個数40個につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。 基準高、延長は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1 箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。 mの場 いつ1箱 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。 施工延長40m(測点間隔25m合は20m)につき1箇所、か1 工箇所につき最低3箇所。 革 띬 画 - 100 200 + 50 200 200 - 100 200 ± 30 + 50 ± 50 - 50 - 30 - 20 20 - 50 . 20 30 20 30 松 × 猫 ≥ 4 ブロック縦幅w₁ ブロック横幅w₂ Ш t < 100100 < 5m 3m 歐 硘 佪 硘 硘 7 甽 岷 岷 ᄣ ᄣ łU łU + ž Þ 汜 州 卌 卌 卌 싰 戸 硘 岜 基 'n 끯 끯 黑 詉 華 雪 華 基 歐 法長 法長 **酬**₩+ 海岸コンクリートプロックエ 海岸コンクリートプロックエ 重 コンクリート被覆工 出来形管理基準及び規格値(一般土木) 場所打コンクリ 巛 9 2 郶 3 護岸基礎工 3 護岸基礎工 4 謹岸工 4 謹岸工 ተ 堤防・護岸 - 堤防・護岸 堤防・護岸 堤防・護岸 猵 ∞ 反三使泄膿 の 河三焼亜鑑 ∞ 反三棟泄郷 の 河三焼赤礁

胐 .. E 椝 単位 出 圄 띬 戸 3.5mの場合は パフ1施工箇所 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。 幅は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所。 施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 施工延長 40m(測点間隔 50m) につき 1 箇所、か につき最低 3 箇所。 華 汜 画 ± 100 ± 300 - 100 - 10 - 45 + 50 ± 500 ± 300 ± 500 200 300 500 + 50 200 + 50 100 20 30 100 200 格 - 22 猫 ے 라 h < 3m , h₂ , h₃ 3m ≥ ≥ , W₂ ے Ш ≥ 乜 啉 뺄 硘 硘 乜 哲 × h, 岖 岷 岷 띬 屖 łU 刪 椢 łυ 翡 汜 卌 卌 趱 悲 ₩ 表 荒均し 被覆均し 戸 一て て 爬上 華 冒 歐 華 识 華 뺄 凒 洪 Ж Ж 壨 띬 基準高 悝 ト被覆. 出来形管理基準及び規格値(一般土木) 吸出し防止工 コンクリー 波返工 捨石工 巛 $^{\circ}$ 恕 ら 天端被覆工 7 波返工 ス 突堤基礎工 3 突堤基礎工 ተ 堤防・護岸 - 堤防・護岸 ~ 突堤・人工岬 ~ 突堤・人工岬 猵 ∞ 反三使泄膿 の 河三焼亜竈 の 河三焼亜郷 m 河三煉洲號

胐 霏 単位 F-POT 出 A MAL 圄 定 戸 1.図面の寸法表示箇所を測定。
2.上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。
3.長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。 基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 写当所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。 図面の寸法表示箇所で測定。 革 図面の表示箇所で測定。 띬 > 10 19 画 - 100 + 30 - 100 ± 30 - 100 - 30 - 100 ± 30 ± 50 - 30 - 30 松 猫 14 (m) W_2 × a, Massa Massa ≥ Ш 硘 硘 硘 哲 水通しの幅 岷 天端部w₁堤 長し, × 1 łU łU 岷 汜 \Rightarrow 쌮 卌 卌 絽 戸 革 捏 革 뺄 屖 识 革 뾀 畍 部村 重 コンクリートダム本体工 鋼製ダム仮設材製作_ コンクリート側壁工 出来形管理基準及び規格値(一般土木) 巛 ο コンクリー トダムエ o コンクリートダムH ο コンクリー トダムエ 郶 3 工場製作工 ተ 砂防ダム 砂防ダム - 砂防ダム - 砂防ダム 霏 4 多尼礁 4 多尼礁 4 多尼礁 4 多尼礁

ww.	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田																										
単位:mm	舉																										
ALL I	河 定 箇 所			THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NOT THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NAM			3	Ė	7	" "		M 2004年 20	アルトリ			を は「選集 ・ 大人の定義 ・ 大の定義 ・ 大のを ・ 大のを		-	D	4		2.48	tı w tı		ь.		7
	測 定 基 準	1.図面の表示箇所を測定する。	2:タノルンオール備にの3%可は、歩高、幅、袖高は+の規格値は適用し	ない。					(備考) 抜・女子判論制が防グル	TETT TETT TETT TETT TETT TETT TETT TET							1.図面に表示してある箇所で測定。	7.タノルフォール桶這の場には、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用し	ない。				施工延長40m(測点間隔25mの場合はできません。 シェージ・コンティ 第四 かい ない かい	日は30m~にんで18m、ルン1m18mにつき最低3箇所。			
	規格値	±50	± 100	∓ 20	±0.02H1	± 50	∓ 20	±0.02H2	± 50	± 10	±30	± 10	± 5	± 10	±5		± 50	± 100	± 50	±0.02H	- 50	- 100	±30	- 30	- 30	- 20	- 200
	测定項目	堤。高	水運・乗りませる。	い い が が	下流側倒れ	祖	袖 幅 w ₂	下流側倒れ	堤 長 L (m) 格	堤 長 (m) 格·B·L	堤 幅 M(m) 格	提幅 w(m)格·B·C	堤 幅 w(m) A	高 さ H(m) 格・B・L	高 さ H(m) A		施。	N L	帽 W ₁ , W ₂	下流側倒れ	高 h < 3 m	h h 3m	回掛	w ■	≵h₁,	łU	近 長 L
出来形管理基準及び規格値(一般土木)	世	鋼製ダム本体工	(小路周辺)						調製ダム本体工に添過期)	(# 57 77)							鋼製側壁工						魚道工				
規格	枝番	1 錦							2 部	-							祵						俥				
長及び	条	5							2								9						∞				
重	郶	7	ない	ダイ	1H				7	袋 製	ダムト	-					7	な製	ダく	1H			4	根田	₽ I		
形管]	楖	-	沙医	ダイ	1				-	多怎	ダム						_	弘金	<u>デ</u> タ〜	1			2	浜路	4		
出	霥	4	多怎	票					4	多色	艦						4	公公	霥				4	多是	2艦		

mm	幽		
単位:mm	報		
	测定简所	(株)	(本印第) (本印第) (本印第) (本 年) (本
	測 定 基 準	1.図面の寸法表示箇所で測定。 とする。 大端高は、台ジョイントごとに測定。 大端高は、台ジョイントごとに測定。 提幅、リフト高は、台ジョイント について3リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、 上下流面枠と水平打継目の接触 部とする。(堤幅は、中心線又 は、基準線との関係づけも含む) ジョイント間隔は、3リフトごと 上流端、下流端を対象に測定。 提長は、各測点ごとに測定。	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 とする。 とする。 大端高は、天端幅は、各測点、又 はジョイントごとに避定。 リフト高、厚さは、各測点、又は ジョイントについて3リフトご とに測定。 (注)リフト高、厚さの測定は、 前面、背面型枠設置後からとす る。なお、リフト高、厚さの測 に箇所は、前面背面型枠と水平 打離目の接触部とする。 長さは、天端中心線の水平延長又 は、測点に直角な水平延長及 に、測点に直角な水平延長及
	規格値	±20 ±30 -30, +50 ±40	± 20 ± 20 ± 50 ± 100 ± 20
	测定項目	※ ※ ※ 3イント間調 リフト 一 点 点 面 面 面 面	「
出来形管理基準及び規格値(一般土木)	工	ΓダΔΙ	コンクリートダムエ (導流壁)
了規格	枝番		
準及(朱		
理賽	郶	4 ダムロンクラー TH	4 ダムロングリー 七十
形管	畑	- ロンクラートダイ	- ロンケリートダイ
出	豐	ら ダイ艦	ら ダイ籠

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

脚					
犇					
		¥ /		er .	
严		1000年		1 1 1	
鮰				1	
迅		17.4		1000円の 1	
戻		27			
		V	T	al	
	ア ググ				マ る。 。
拱	各測点について 5 層毎に測定。 外側境界線は標準機種(タンピング ローラ)の場合	則定。	遍定。	灣定。	ーリング工毎 配置位置の規定はコンクリート面で 行うカーテングラウトに適用する。
埘	雪毎に 決権権	各測点について 5 層毎に測定。	各測点について 5 層毎に測定。	1.図面の寸法表示箇所で測定。2.1回/1施工箇所	は iv ロウ
迅	1て5月 泉は標 0場合	引 5 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	9521	法	
戻	ミについ 調境界 - フ)の	ころに	乳につい	回 	ボーリング] 配置位置の 行うカー:
	各 一 一	名 三	名 三 三	2 - 2 	ボ 一 配 作
画					
松	設計値以上 - 0, +500	- 0 , +1000 , +1000	- 100	± 20 ± 30 ± 20 ± 40 ± 20 ± 100	設計値以上 100
猫	- 0 -	0 - 0 -	0 -		THE LEGISLATION OF THE PROPERTY OF THE PROPERT
m.	高 联 線		個 既	個	型 課 一 業
定項	本				
戻	基 4	単 女 闥	基 4		
垂					
		₽			
	₽	徴6-	祖	4 ()	ΉI
Н	コアの騒立 で	フィルターの路立	ロックの路立	フィルダム (ボーリング工
枝番	П П	<u>r</u>		N ~	<u>*</u>
条	2	9			
郶	の 窟立工	∞ 強立工	の 強立工		m
御	~ フィルダム	っ フィルダム	∨ レ → → ダ √	っ フィルダム	3 ボーリングエ
號	こを人能	ら ダム艦	ら ダム籠	ら ダム艦	ら ダム籠

_
14
К
+
Ö
4
-
_
4mm
7
2
9
#
~
12
#
盃
平
圕
Į.
솄
井
1

脚																												
罍																												
																												_
监							- Clark																					
鮰							1 6 7 10 1 10																					
田田									7	T	3	Ť																
							£ 100		7	1	-8 -8																	
展						- 1	1	-	7	100																		
	個 換				0 惩	<u> </u>	===	; ИП I		ン排			66	の作	8	≣ Λ	₩	記	-	コ 赤	'n	+	<u></u> ‡∩	た	ł	*		_
崇	かつ1施工箇 断面全本数検				施工401箱上午	1	拳 六 空	を1打設長の終点を図に示す各方が当立。中間がは1、711)	覆工コ	ノンー「について」が改分の当 団(施工総手の位置)において、 図にテオタ 占の共同当庁本行	引 七 分	(八)検測孔による巻厚の測定は図の(1)(4)(4)(4)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)	(1)は4 0 mic 1 回が(2) - (3) は1 0 0 mic 1 箇所の割合で行	, ,	- ` - -	の検測	ļ Ā	ф.	ず気は	0, tri	調の	いされれ	が認識	-	9 L 1		
	か 別 回)基準高、幅、高さは、施のよりを1番形を1つを1番形を1つと	質所。ノ	公前の	1 1 図 1	T 6	設後、ボアーザニ		世句	事の測	画別、	н П <u>х</u>	またが、	デ以上 ト	。 心 い	余外と	IT X X X H	下のも	5 19 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	デトイドが開設	分子が	ቸ 1	<u> </u>		
単	:O計() 部形で				三 田 田	(低3)	1	の終記	三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三	五 五 了 了	· 中 () () ()	S I	20番1	- 1	1	ナジング	30個門	 	適用	(70%) (30%)		に る に に に に に に に に に に に に に に に に に	海上 1977年7月	(H)		Í		
识	0 mに 低3億				高ります。	こうで	7 U –	打設長	窓口て	701	H H H H H	٠ ا	孔によ	000	1	、6 7 も	エカラ 単り	3 3 3 3 3	格値に	ヨイラウ ひんりゅう	3分页	下して	ことに	: 名く ! に ! た	1 9 † n¢	\ ¥		
戻	E長4 0き最				乗りる	デ に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	厚口でス	₩. 1	江	<u> </u>	/画図で流し	<u>X</u> 心	(本)	- Ε Ε Ε Ε	かかり	\$ ₹ ₹	ネ !- ブ '-	けたればれ	り規	すな問ろして	連の	彡 が で 以 に	はなけれ	建2	しる場と	۱ ۱		
	施工延長40mにつき、 所につき最低3箇所で b	, W.			(1)		2 2 2 2						5						{	影 ン	三製	数量	* E) 	. 出		
便				515																								
格				·一ト下面から 10cm以内	+ 50	20	20	設定値以上																				
猫					Ħ	ľ	'	設定																				
				₽																								
ш		K 10	公		(拱頂)	全量)	八兴	, t 2	٦																			
定項	記	账		丑)) 内	t 1	単																			
三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三	位置	用 削 孔	子	胀	基準高	w ■	高 ネ ト	国	延																			
		, ac	1.0	1011	171/1	_	,-c	1																				
種																												
W-					Н																							
	H				1																							
Н	ボルト				ンクリ																							
	ロックボルトエ				覆エコン																							
枝番					In/A																							
偨	4				ж																							
郶	4 K	茶日			2	覆丁	1																					
御	9 4	ンネル	(Z4)	-≥)	9	エン	\+\= <u></u>	` (z	24	⊢⋝)																	
票	9 摦	招艦			9	連路	歌品																					

出来形管理基準及び規格値(一般土木)

幽							
掬							
測定箇所					1	(1) (1) (2)	
測 定 基 準	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、かつ1施	工箇所につき最低3箇所		(1)基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所、かつ1施工箇	所につき最低3箇所	(2)厚さ (イ)コンクリート打設前の巻立空間	を 1 打設 長の終 点 を 2 打設 長 の 終 点 を 2 打設 日 で 過 に
規格値	- 50	- 30		- 50	設定値以上		
測定項目	w m	可 c		幅w(全幅)	厚 さt1 ,t2	延 長 L	
	床版コンクリートエ	,		インバート本体工		1	
枝番							
条	2 2	i i kmii		4		<u></u>	711
頭	5					べー	
神			- <u>-</u> (Z < ⊢ ≥)				(Ζ∢⊢Σ)
삏	9	则鋁 螺		9	迴路	歌	

(一般土木)
出来形管理基準及び規格値

瞅		
雗		
测定断所	I M I M I M I M I M I M I M I M I M I M	
測 定 基 準	図面の主要寸法表示箇所で測定。	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所、かつ1施工箇所につき最低3箇所を測定。なか、厚さについては図に示す各点ない。 において、厚さの測定を行う。
規格値	±50 -30 -50 -100	+ 50 - 50 - 20 - 20
測定項目	基 準 高 M 1 , w 2 合 h <3m h 3m 延 長 L	基準高 (採頂) 幅 w (全幅) 高さh (内法) 厚 さ t 延 辰 L
種		
	坑門本体工	田 U 巻 二
枝番		
朱	4	υ
浥	∞ 坑門工	※ 対だご
脚	で てンネ⇒ (Z < ⊢ Σ)	で トンネラ (S < L ≥)
號	ゅ 連路標	9 測鋁礦

胐 単位:mm 犇 出 圄 띬 戸 両端・施工継手箇所の 底版・側壁・頂 版で測定。 両端・施工継手箇所 及び 図面の寸法 表示箇所で測定。 両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。 図面の寸法表示箇所で測定。 図面の寸法表示箇所で測定。 華 띬 画 設定値以上 設定值以上 - 30 ± 30 - 20 - 20 - 20 + 50 - 20 ± 30 - 20 - 20 - 50 椝 猫 ≥ ≥ ≥ ≥ _ ≥ T Ш 岖 뾀 硘 哲 硘 7 łU łU łU łU łU łU ٧ 띬 拱 {H {H} ブロ 戸 華 图 伀 뺄 展 뺄 뺄 歐 甽 歐 硘 賱 出来形管理基準及び規格値(一般土木) 防水工 (防水保護工) カラー継手工 現場打躯体工 防水工 (防水壁) 防水工 (防水) 枝番 Μ 巛 2 恕 5 現場打構築工 5 現場打構築工 5 現場打構築工 5 現場打構築工 5 現場打構築工 ተ は 共同薫 2 共同講 2 共同遺 2 共同溝 2 共同溝 9 酒路礁 9 酒路礁 9 酒路礁 の 連路標 9 酒路渠

単位:mm	摘要								٠ و	をいこと		
	測 定 箇 所	この表に従い管理図表 の を作成する。 (測定単位10cm)	据 据 经						(自動位置決め装置の作動状況が確認 されていれば不要。)	+:設計値より浅い(高い)ことをい う。:設計値より深い(低い)こと をいう。()は降上。		
	東	音響側深機又はレッドによる未側深幅 未側深幅	6 m未満 3 m未満 1 0 m未満 5 m未満 2 m未満 2 m未満 2 m未満 3 m m m m m m m m m m m m m m m m m m	5未測深幅は			天端幅10㎝	より測定		+ 心を…。ご		
	測定基	音響側深機又はレ 水深による区分 計画水深4mを 割3.2尺は 加を	6 m未満 3 m未満 計画水深 4 m以下 10 m未満 5 m未満 施工区域列に計画水深よりも浅、箇所が1点でもあってはならなし 11	音響測深機又はレッドによる未測深幅は、	3m以下で測定。 測定単位 10cm	施工完了後 測定単位 10cm	測線間隔 20m以下 測点間隔 10m以下 測定単位 天端高1cm 天端	音響測深機又はレッド等により測定 測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下 測定単位 10cm	移動毎及び監督職員の指示により測定 測定単位 1cm	全数測定 測定単位 10cm	全数測定 測定単位 10cm	行所報く
	規格値	+ 0 - 規定しない	+ 0 - 規定しない	±300	外側 2000 (法面に直角) 内側 300 (法面に直角)	+規定しない - 0	天端高 ±500	天端高 ±500	± 10cm	+規定しない - 0	+ 0 - 規定しない	
	测定項目	底面	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	底面	次 		機円品	大端帽子	位置	天端高	先端深度	
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	工種	後漢工	<i></i>	床堀工	7. 1%	置換オン (置換材均し) 延	<u> </u>	К Ж	田歌・排水工 (サンドドレーソ)		光	
及び規格	校番					ui			-			
[基準]	節条	8		5 2 対	广上地盤以艮工	2			2 唯一	北盤 次号	 ∆⊢	
形管理	車	4一般施工		4			般施工			敗施工	• •	
(米)	纜	て港湾・漁港	〕 健	~	だき 浄 港 綿	て港は	湾・漁 港	征	て港は	湾・漁 港	"儒	

Ι.	増発													
‡ -	測 定 圏 所							(自動位置決め装置の作動状況が確認 されていれば不要。)	+:設計値より浅い(高い)ことをい う。:設計値より深い(低い)こと ナハミ (ハーロー)	57.1つ。() は降上。				
1	測 定 暑 準	施工完了後 測定単位 10cm	測線間隔 20m以下 測点間隔 10m以下 測定単位 天端高1cm 天端幅10cm	音響測距機又はレッド等により測定 測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下 測定単位 10cm	施工完了後 測定単位 10cm	測線間隔 20m以下 測点間隔 10m以下 測定単位 天端高1cm 天端幅10cm	音響測距機又はレッド等により測定 測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下 測定単位 10cm	移動及び監督職員の指示により測定 測定単位 1cm	全数測定 測定単位 10cm	全数測定 測定単位 10cm	全数測定 測定単位 10cm	施工完了後 測定単位 10cm	測線間隔 20m以下 測点間隔 10m以下 測定単位 天端高1cm 天端幅10cm	音響測距機又はレッド等により測定 測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下 測定単位 10cm
1	規格値	+ 規定しない - 0	天端高 ±300	天端高 ±300	+規定しない - 0	天端高 ±500	天端高 ±500	± 10cm	+規定しない - 0	+ 0 - 規定しない	+ 規定しない - 0	+ 規定しない - 0	天端高 ±300	天端高 ±300
1	測定項目	延長	陸	大學會	延長	超二品	上 中 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 日 日 日 日 日	位置	天端高	先端深度	ドレーン材の打込長	至長	翻山路	大端編 大 七 七 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日
	工	圧密・排水工(敷砂均し)			圧密・排水工(載荷十砂)			圧略・排水口(ペーパード)				圧密・排水工(グラベルマット)		
1	枝番	m	1		4			5				9		
1	巛	7			7			7				7		
	즲	2 煉-	上地盤改良丁	4	2 煉	上地盤改良	4_	2	出數器	以艮工		2 娘	上地盤改良	-
ŧ								1			_	1		
1 1	肿	4	般施工		4	般施工		4	般 施工	 		4	般施工	

カル															
测定简所	(自動位置決め装置の作動状況が確認 されていれば不要。)	+:設計値より浅い(高い)ことをい う。 : 設計値より深い(低い)こと をいう。()は陸上。				+:設計値より浅い(高い)ことをい う。:設計値より深い(低い)こと	iÚ,		(自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。)	+:設計値より浅い(高い)ことをい う。:設計値より深い(低い)こと	「をいう。()は陸上。				
測 定 基 準	転船毎及び監督職員の指示により測定 測定単位 1cm	全数測定 測定単位 10cm	全数測定 測定単位 10cm	全数測定 測定単位 0.1㎡	転船毎及び監督職員の指示により測定 測定単位 10cm	全数測定 測定単位 10cm	全数測定 測定単位 10cm	全数測定 測定単位 1.0m³	転船毎及び監督職員の指示により測定 測定単位 1cm	砂杭全数測定 測定単位 10cm	砂杭全数測定 測定単位 10cm	転船毎測定。 測定単位 1分又は1cm	砂杭全数測定 測定単位 0.1㎡	音響測距機又はレッドで測定 完了後 測定単位 10cm	レベル、音響測深機又はレッドにより測定 完了後 測定単位 10cm
規格値	± 10cm	+ 規定しない - 0	+ 0 - 規定しない	+ 規定しない - 0	± 10cm	+ 規定しない - 0	+ 0 - 規定しない	+ 規定しない - 0	± 10cm	+規定しない - 0	+ 0 - 規定しない	± 2°	+規定しない - 0		
測定項目	位置	天端高	先端深度	砕石の投入量	位置	天端高	先端深度	充填材の投入量	位置	天端高	先端深度	鉛直度	砂の投入量	曹(1)丁園	撤去量
工種	圧密・排水工(グラベルドレーン)				第国二 (17.5/27.17.7)				総国工 ・ サン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	_					締固工 (盛上土砂撤去)
枝番	7								必						w
朱	7				∞				∞						∞
<u></u>	20 煉	東上型鍵松配工			υŴ	聯保上學	改良工		2 }	東山田部	強び良丁	1			5 海上地盤改良丁
浥		· 一般 施 工 海上地盤改良工									_				I
神	4	港湾・漁港編・一般施工			4	般 施	Н		4	般 祐	H				4 一般

 	摘要											
単位: mm	測定箇所	(自動位置決め装置の作動状況が確認され ていれば不要。)	+:設計値より浅い(高い)ことをい う。 :設計値より深い(低い)こと をいう。()は陸上。									
	測 定 基 準	海上施工は改良杭全数測定 測定単位 1cm	改良杭全数について、深度計、ワイヤー繰 出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により 測定	两元 改良杭全数測定 測定単位 1cm	改良杭全数について、トランシット及び傾斜計等により処理機の鉛直度を測定。深度方向に2~5mごと。引抜きと貫入時改良杭全数測定測定単位 1分又は1cm	改良杭全数について、流量計等により硬化 材のm当たり吐出量を測定。 改良杭全数測定 測定単位 1 又は11	改良前、改良後 音響測距機又はレッドで測定。 測定単位 10cm	施工完了後 測定単位 10cm	測線間隔 20m以下 測点間隔 10m以下 測定単位 天端高 1cm 天端幅 10cm	音響測深機又はレッド等により測定 測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下 測定単位 10cm	施工完了後 測定単位 10cm	測線間隔 20m以下 測点間隔 10m以下 測定単位 天端幅10cm 天端高・厚さ1cm
	規格値		+ 規定しない - 0	+ 0 - 規定しない	± 2°	+ 規定しない - 0		+ 規定しない - 0			+ 規定しない - 0	
	測定項目	位置 大端高 先端深度 鉛直度、接合 固化材吐出量					喜い 子類		型出品	大端幅 大 中 由	至	天端高 天端幅 厚さ
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	工種	固化工(溶磨混合如理柱)	(水)南(比口及沙土(1))					固化工	(幸和)が日日が今年)		固化工 (表層固化処理)	
び規	枝番							2			9	
[準及	巛	6						6			6	
警理 基	郶	7 ∦	錦足上生					τυ ∦	本工地盤的見	-	ら、東土地の	
来形象	楖	4	般 施					4	般施工		4 殷	
1	삁	7 推	湾・漁	港編				て港	一流・漁港:	延匯	て港湾・漁	港編

田										
冶	5									
锤	ī									
{H	إ									
戸										
				C				识		
			°	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mつき1箇所以上測定 測定単位 10cm			過距	音響測深機、レッド又はレベルで測定 測定間隔は10m以下とし、3点以上を測定 但し、マウント厚2m以下の場合は、2点以 上を測定 測定単位 10 cm		
拱			測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下 測定単位 10cm 天端幅、法面勾配は設計図書による。	「毎並で		領	 1 1 1 1 1 1 1 1 1 	音響測深機、レッド又はレベルで測定 測定間隔は10m以下とし、3点以上を消 但し、マウント厚2m以下の場合は、2 上を測定 測定単位 10 cm		法線上又は監督職員の指示による 測定単位 10cm
#	H		、 、 、 、 、 に い い い い い い い い い い い い い い	3 箇所		マットの中心を区間毎及び全長 測定単位 10cm	音響測深機、レッド又はレベ 測線及び測点間隔は10m以下 測定単位 10cm	: XはL ことし、 市以下。		の指元
{H)Cm	20m以下 20m以下 10cm 转面勾配は	逐化す 則定 Jam) 	中心を区間 10cm	アット	態 レット 170m以下 7ント厚21 10 cm	첫 문 구	ナ監督職員 10cm
戸	後	測定単位 10cm	II高 2(II高 2(I位 1(始、終端及び変1 き1箇所以上測定 測定単位 10cm	1枚につき2点 測定単位 1㎝	<u>の中心</u> 位 位	音響測深機 測線及び測点間 測定単位 10cm	※ る る で で で で が が が が が が が が が が が が が が	隔10m 位 10	文 位 (位)
	施工完了後	測定庫	測線間隔 測点間隔 測定単位 天端幅、注	始、終端及び変化 き1箇所以上測定 測定単位 10cm	1枚(二)	マットの中測定単位	音響測深機、レッド又はレベルで測定 測線及び測点間隔は10m以下 測定単位 10cm	音響測測 連定問題 一個	測線間隔10m以下 測定単位 10cm	法線上又! 測定単位
					500以上(アスファルトマ 1枚につき2点測定 ット、繊維系マット、 測定単位 1cm ゴムマット) 300以下(合成樹脂系マッ		0 0	陸上 ±500 割定間隔記水中 ・15m以浅: ±700 上を測定 -15m ~ -25m:+規定しない 割定単位 -25m以深: +規定しない -2000		
松佰			00		スファ. スファ. なるで 次付服!	_	±500 ±700 ±2000	±500 ±700 +規定しない -1000 +規定しない	± 500 ± 700	± 500 ± 700
#	.(-6		事 ±300		500以上(アスファルトマット、繊維系マット、 ゴムマット) 300以下(合成樹脂系マット)	, + 規定しない - 100	陸上 ±500 水中 -15m以浅: ±700 -15m~-25m:±1000	人法: 25m: 人深:		
	+ 規范	- 0	天端高		500以 ゴケ, 300以 7.	+ 規二	陸上 水中 -15m以浅: -15m~-25m -25m以深:	陸上 水中 -15m以浅: -15m~-25m	陸水	型 长
1 日										
{H	Ą									
兩	S.		를 되고 기립근	京富	旧田		and.		10##	
	37. 無	K N	天端高 天端幅 法面勾配	敷設位置	重な幅	延長	光配	光	光編	延長
狸	<u>#</u>			(/ 9	$\widehat{\mathcal{L}}$		旧			
⊢	4	_		7 1 7 2 . 	/ 際 T - 込 ○ ^ シ) うない			
		(騒砂均し)		洗掘防止工 (アスファルトマッ (蝴雑系マット)	(ゴムマット)		基礎捨石工 (基礎捨石) 均しを行わない面			
,12	基礎盛砂工	(縣		洗掘 (ア) (雑)			墓 (
林米		7					-			
 ≰		1.00	£5.1 . 1	ω			4			
華			8 年 日 京 日 日	t 6 - 肆 8			9 華			
現場			湾·漁港編 服施工		·漁港編 施工		て港湾・漁港 本一般施工) 噻		

摘要															
出															
鮰															
끥															
戻															
湖 定 基 準	レベルで測定 測線及び測定間隔10m以下 測定単位 1cm	測線間隔10m以下 測定単位 10cm	法線上又は監督職員の指示による 測定単位 10cm	音響測深機、レッド又はレベルで測定 測線及び測点間隔は10m以下 異形プロックの提付面(整轄)の高さけ	デバノコン・シュニュー・ディンコース ()の規格値とする 測定単位 10cm	音響潮深機、レッド又はレベルで測定 測点間隔は10m以下とし、3点以上を測定 但し、マウンド厚2m以下の場合は、2点以 当た測定	. Muc キロ . 105ml 異形プロックの据付面 (整積) は ()の 規格値とする	測線間隔10m以下 測定単位 10cm	法線上又は監督職員の指示による 測定単位 10cm	型枠取外し後全数 測定単位 1cm				型枠搬入後適宜観察	全数測定 観察
規格値	± 50	+ 規定しない - 100	+ 規定しない - 100	±500 (±300)	± 100	±500 (法面に直角) (±300)	(法面に直角)	+ 規定しない - 100	+ 規定しない - 100	+20 - 10	+20 - 10	+ 20 - 10	±10		
测定項目	天端高	天端幅	登亚	天端高	岸壁前面の天端 及び天端肩から1mの法面	法面		天端幅		閘	と言	長さ	華厚	型枠形状寸法(異形プロック)	型枠外観 (異形プロック)
重										- - -					
Н	基礎捨石工(捨石本均し)			基礎捨石工 (捨石荒均し)						基礎ブロックエノ自体プロック制体ン	ハジロノは来り				
枝番	7			Э						1					
- 张	4			4						9					
一	9 博 穆			- 4							- 29				
神		福工			版施工	ne-				4	報 組				
猵	7 港湾	・焦ま	. 雑	てまる	ぽ・漁 港 は	凝				て張	河湾・油	注続			

単位:mm	摘要												
単位	箇 所												
	定												
	演												
	測 定 基 準	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段) 測定単位 1cm	据付後ブロック 1 個につき 2 箇所 (最下段、最上段) 測定単位 1cm	据付完了後、法線上(最上段のみ) 測定単位 1㎝	レベル等により測定 据付後ブロック 1 個につき 2 箇所 (最上段 のみ) 測定単位 1cm	始・終端及び変化する箇所毎 測定単位 10cm	完成時 四隅測定 測定単位 1cm	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端を測定 調を測定 測定単位 1cm	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端を測定 端を測定 測定単位 1cm	各層完成時、各壁の1箇所を測定 測定単位 1㎝	レベル、スチールテーブ等で測定 底版完成時、各室の中央部1箇所 測定単位 1cm	底版完成時、四隅測定 測定単位 1cm	レベル、レッド等により測定 各室の中央部1箇所を測定 投入量管理 測定単位 1cm
	規格値	∓ 50	ブロック(方塊) 3cm以下			設計図書による	+30	+ 30 - 10	+ 30 - 10	±10	+ 30	+30	砕石・砂 ±100 ン州-ト ±50
	測定項目	法線に対する出入り	隣接ブロックとの間隔	登 亚	天端高	摩擦増大用マット敷設位置	や同	闦	長さ	a	底版厚さ	フーチング高さ	バラスト
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	工種	基礎プロックエ (基礎プロック据付)				ケーソン製作工							
び規格	枝番	2											
準及;	偨	9				2							
[理基	節	6	 H			~ ₩ :	≰ H(ケーン	ンポ)				
K 形管	ተ	4 철	版施工			4	般施工						
田	삏	て港湾	・港 湾・漁 澹				湾・漁法	6 徿					

. mm	摘要								
単位: mm									
	所								
	囲								
	迅								
	戻								
	luit	띺		田					
	兼	所を測		所を選					
	耷) 2 箇月) 2 箇月		記記に		(\dagger{\dagger}{\dagger})	
	识	で 無の で で で で で で で で で で で で で で で で で で		天		レベル等により測定 居付完了後、四隅測 中詰完了後、四隅測 則定単位 1cm	法線上	所(中	
	誤	了後 位 1c		了後 位 1c		等により 了後、四 了後、四 位 1cm	了後、 位 10	7층1億 位 1gm	
		据付完了後 両端の2箇所を測定 測定単位 1cm		据付完了後 天端の2箇所を測定 測定単位 1cm		レベル等により測定 据付完了後、四隅測定 中詰完了後、四隅測定 測定単位 1cm	据付完了後、法線上 測定単位 1cm	1室につき1箇所 (中心) 測定単位 1㎝	
	格値		調 握		闡揮下十下				
	規	ケーソン重量 2,000 t 未満 ± 200 2,000 t 以上 ± 300	ケーソン重量 2,000 t 未満 ±100 2,000 t 以上 ±150	ケーソン重量 2,000 t 未満 200以下 2,000 t 以上 300以下	ケーソン重量 2,000 t 未満 100以下 2,000 t 以上 200以下			+ 50	+ 100
		防波堤	业 翻	防波堤	批 翻			陸上部	火 中 恕
	ш				I				
	頂	~	<						
	测定	± 1	9	10 24	E S				
	"	く 田 マ 土 木 土 一 男子	۲. الا	= = = = = = = = = = = = = = = = = = =	が付い、日よ心間の場	天端高さ	udv.		
		Ħ	75	Ē.	相	天	延長		大 端 画
養)	種	ы							
・漁		(据付)						(
港湾	Η	ン進力						中詰工(砂・石材中詰)	
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)		ケーソン進水据付工						中語工(砂・7	
び規	枝番							-	
準及	偨	ĸ						4	
管理 基	餇		ケーンン式))					(ケーンン!!)
来 形	ተ	4 一般絕日						4 般	
爭	삏	て港湾・漁港	0 ლ					て港湾・漁	港編

mm	摘要								
単位:mm									
,									
	所								
	鮰								
	迅								
	誤								
	東								
	音								
	定	() ()		() ()					
	l Z	の一般を		の一般を		後全数			
	誤	1室につき1箇所 (中心) 測定単位 1cm		1室につき1箇所 (中心) 測定単位 1cm		双外 C/4 単位 1c			
		1種に 逆が		1 歴 選 選 選		型枠取外し後全数 測定単位 1㎝	<u> </u>	1	
	格値								
	規 ;								
		± 30	+ 50	+ 30	+ 50	+ 20	+ 20	+ 20	+ 10
		極土婦	长中部	歴 土 瑞	火 中 將				
	定項								
	测								
			天 骗		K 編 個		łu	łu	
			Ж		Ж	哩	10 恒	型型	藍
		<u></u> 							
(港)	種	話)ンクリ							
等・渡	Н	イク ネーデ		 		工ク製作			
(港)		中話工 (コンクリート中語) (プレパックドコンクリート 中語)		茜コンクリート工		蓋ブロックエ (蓋ブロック製作)			
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	17/m	世 (11) (12) (14) (14) (14)		湘		講(講)			
えび規	枝番	3 2				-			
基準 及] 条	4		rv		9			
管理	手節		ケーンン!!)		ケーンン!()			- ソン式)
米形	编	て港湾·漁港 4 一般施工		て港湾·漁港 4 一般施工			•漁港編		
버	44€		~ 4/E		~ AE	一元则	分污氛		

単位: mm	摘要			し型ブロック 切ラ-ブ ロック	7 四%(万塊) 直立消波7°四												
単位				<u> 4</u>		-6											
	所																
	題																
	定																
	誤																
											禄						
	東										(最)			(t e	(最上		
											52箇所			上段の	52箇所		
	音										につき			上(最)	記につき		
	定	m m		6全数 n				画			7ク1個	1 G		法線_	c い測 , ク1値	Æ	
	演	1室につき1箇所 測定単位 1㎝		型枠取外し後全数 測定単位 1㎝				型枠搬入後適宜 観察			据付後ブロック1個につき2箇所(最下段 最上段)	位		据付完了後、法線上(最上段のみ) 測定単位 1cm	レベル等により測定 据付後ブロック1個につき2箇所(最上段の 2.2	み) 測定単位 1cm	
		1室に		型枠型				型枠棚観察	全数	能	据付後 島上段	測定単位		据付完 測定単	ア が 新 金 を ・	かります。	
	値																
	規 格																
				+ 20 - 10	+ 20 - 10	+ 20 - 10	± 10				+ 50	50以下	30以下				
		歴上語	大日 龍		•	•						70					
												L型ブロック セルラーブロ	波, いり ク (方塊				
	頂										5	L型ブロッ セルラーブ	<u> 直立消波</u> ブロック()				
	定							ボ ググ)	題	シク)	2出入		, I mil				
	展		握					型枠形状寸法(異形プロック	ブロック外観	(異形ブロック)	法線に対する出入り	隣接ブロック	副過			July.	
			K	■	恒	長さ	直	型枠(異	ブロッ	(舞)	法線口	隣接.	との間隔	延長		光端高	
									_	_							
)	種																
漁港	*	付)		作工							TAT.						
测	Τ	クエック指		ック製							ック据						
直(港		蓋ブロックエ (蓋ブロック据付)		本体ブロック製作工							本体ブロック据付工						
規格側	枝番	2 (建		₩ ₩							₩						
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	条枝	9		2							м						
電基準	節		ケーンン!!)		₹ ⊢	l()\	□ ୬	クボ)			₩ # H	(ا پ ت	の計)		
形管理	車	4 一 般		4							4						
出来)	编	7 港湾・漁港線		て港	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	照 港 4	臣				7		点 港 编				

mm : 2	猫																			
単位																				
	刑																			
	鮰																			
	迅																			
	戻																			
	測 定 基 準	レベル等により測定 天端面は、1スパンにつき4箇所以上測定	パラペット頂部は、1スパンにつき2箇所以 上測定 測定単位 1cm	1ス/(ンにつき3箇所測定 測定単位 1cm		法線上 測定単位 1cm	1スパンにつき2箇所測定 測定単位 1cm	1スパンにつき3箇所測定 測定単位 1cm	1スパンにつき3箇所測定 測定単位 1cm	法線上 測定単位 1cm	1スパンにつき2箇所測定 測定単位 1cm	スパン毎測定 測定単位 1cm	型枠取外し後全数 測定単位 1cm				型枠取外し後全数	型枠搬入後適宜 観察	Septime 1 1 (Last) Facel	10個に1個以上測定 観察
	規格値	± 20	+ 50 - 20	± 30	+50 - 30	+ 規定しない - 0	± 50	± 20	± 20	+ 規定しない - 0	+ 30		+20 - 10	+20 -10	+20 -10	± 10				
	定項目	高又は厚 の場合		1713				الارا الالا												
	三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三	米 大 地震			法線に対する出入り	天端高又は厚さ	天端幅	延長	法線に対する出入り	防舷材ベッド	嗶	配	気は	藍厚	対角線	型枠形状寸法(異形プロック	:	型枠外観寸法(異形プロック		
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	口	場所打コンクリート工(防決提)						場所打コンクリート工(岩路)	(++)				おブロックエ、トマゴロ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(おくロンン教下)						
び規格	枝番		4				+7					- **								
準及7	朱	2	4					2					4							
理賽	郶	6 ₩	5 本体工(場所打式)					o *	(≰ ⊦	一(雪	所打	(計)	2 ₩	#	Н(绝	口・独	Ţ □ ○	/式)	
形管	埘	4						4	設	型 円			4	嵌	摇 F	4				
田	號	て独	7港湾・漁港編4一般施工				∠ #	逆渡・	漁港	ლ		7 推	拠	・無	押。	藍				

相																
H	171															
ŧ	<u> </u>															
Ð	Ą															
弄	E V															
		天 環	不與		上段の	新 所 7.	固所以							より		の場
#	 	所(最	所 (最	(<i>MM</i>)	所(最		7 J							プ等に		(次中調)。
‡	Ħ	0孝2儒	7き2篇	最上段	0き2筐	1000年46	<u> </u>		凹				世	- -		(り) 海により 離(原) (層) (層)
Ð	Ą	<u>=</u> こ	71個に	3線上 () (1) (1) (1)	順心 はいい	년		3箇所測				2箇所測	75-	测定。	ルテープ等により測版 ーシング径等により確 (水中の場合は適宜) 位 10cm
兩	/Hi	プロック 7 1cm	プロック Z 1cm	後 注 1cm	デによじ ブロック ブロック ブロ・	新より t 1入 語	ア温	7 1cm	につき(7 1cm			ž 1cm	に ひ 1 1 2	/ デント 7 10cm	計によじ Z 10cm	ルード・ インシング 1 10cm
		据付後ブロック1個につき2箇所(最下段 最上段) 測定単位 1cm	据付後ブロック1個につき2箇所(最下段、最上段) 最上段) 測定単位 1cm	据付完了後、法線上(最上段のみ) 測定単位 1cm	レベル等により測定 据付後ブロック1個につき2箇所(最上段の み) 測定単位 1cm	レベル等により測定 天端面は、1スパンにつき4箇所以上測定によった。 こまだし	ハフヘットJifisia、1人ハンにした2国界以上選定	測定単位 1cm	1スパンにつき3箇所測定 測定単位 1cm			法線上 測定単位 1cm	1スパンにつき2箇所測定 測定単位 1cm	トランシット、スチールテーブ等により測定。 全数 測定単位 10cm	レベル等により測定。 全数 測定単位 10cm	スチールテープ等により測定(水中の場合はケーシング径等により確認)。 全数 (水中の場合は適宜) 測定単位 10cm
		书 叫 		#5 7%	- # 10 K	_ ii\ -		<i>7</i> 72	- m			<i>/// // // // // // // // // // // // //</i>	<u>← ☆</u>	_ 12 VII 72	_ (ii)	1 (\u
44 (古			現)36									175		м М	и 13	и Ю
#			ブロック (方塊)3cm以下									規定しない 0		設計図書による	設計図書による	設計図書による
		+ 20	ブロ			+ 20		- 2	+ 30	+ 50	OS -	+ '	+ 20	高安 計 計	記令計	言及言 计
						以下	天端幅10mを超え		以下	天端幅10mを超え						
F I	I	_	副2回			天端幅10m以下 の場合	帽10m	但	天端幅10m以下 の場合	i幅10m	<u>(II</u>					
1)		法線に対する出入り	隣接ブロックとの間隔			天の場合	出	3場合	天端幅1 〇場合	米	る場合		法線に対する出入り			
京	W)	<u> </u>	プロック		ln/G		lu G			n##			- 		英	νн
		法線に	隣接 7	延長	光高高	i	K 課 帽		ŀ	K 属		延長	法線に	位置	掘削長掘削深度	掘削径
#	煄					H										
F	_	L 7据付〕				-l1										
	'	捨プロックエ (捨プロック据付)				場所打コンクリートエ								岡矢板工 (先行掘削)		
147	B	新 ブ 流 :				場所								鋼矢板工(先行掘		
米井 2		- 7												-		
¥		○ ↑ ★	工(箔石	· 他 \ □	シケボノ	2 5	₩ 4	- (I	場所打ち	פחו	N -)— <u>Τ</u>)		7 本本 2	l (ਹ)
扣			福工	44,1,C	- SID/	4	恐 1					,			阻工	,
ű,			・漁港編			て港								て港湾・		

摘要															
띮															
細															
识															
戻															
	5 %														
卅	レベル等により測定。 取付完了時、両端(継手毎)全数。 測定単位 1cm				不要						一一一				
中	走。 (継手:			数	定数 数 場合は:	数				떈	当数 第二位 第二位	数			
出	より選ぶ 画端 ™	全数	全数	斯 全	より測 端 全 Icm 寸けるJ	調り		1cm		たり選 Icm	より 調 音 Icm オける場	雅 🖺			
戻	レベル等により測定。 取付完了時、両端(# 測定単位 1㎝	取付完了時、全数観測	取付完了時、 観測	タイロッド毎、全数 観測	レベル等により測定 締付け後両端 全数 測定単位 1cm 腹起しに取付ける場合は不要	締付け後両端 全数 測定単位 1cm		単位		レベル等により測定 適宜 測定単位 1cm	レベル等により測定 締付け後両端 全数 測定単位 1cm 腹起しに取付ける場合は不要	締付け後両端 全数 測定単位 1cm			
	対対対が	取付到	取付到觀測	タイ[観測	アベン 締付 測定 腹起!	が発生を対して	会 数 数	全数 観察 測定単位	金额	と適利べ自定	と発測と対け、対対に	を表して	金数	全数 観察	全数観察
							ねじ山が3つ山以上突き 出していること 観察	以上					ねじ山が3つ山以上突き 全数 出していること		
格値							りに受ける	定着ナットの高さ以上					り上以になった。		
猫							ねじ山が3つ山出していること	ナット					ねじ山が3つ山出していること		
						*	お田	定着	,			*	は田		
						矢板法線に対する取付け角度及び m/+l-HBlre		∤U X	クリート			矢板法線に対する取付け角度及び 取付け間隔			+
ш				票	łb k	付け		ターンバックルのねじ込み長さ				付け		†	トランペットシースの取付け
定項			+	との密	が水平原	する取	帝付け	1 <i>c</i> t001	ソアカ	ᆒ		する取	帝付け	の取付	7-7
戻	Ы	elmi)取付	睫しる	高さ及0	対し勝	F P	(グック)	/ 言べ	照代	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	線に対調	7 F O%	崇 称全0	را ا
	取付高さ	継手位置	ボルトの取付け	矢板と腹起しとの密着	取付け高さ及び水平度	矢板法線に 町4H間厚	AYJU I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	ノンー	リングジョイントのコン への悪入み	支保材の天端高	取付け高さ	矢板法線に 取付け間隔	定着ナットの締付け	定着具端部栓の取付け	・ランバ
	皿	ब् रह	17	4/	世	4V E	ᄪᅵᅜ	, <u>«</u> ,	l –, <	J 114	ш ш	女 耳	ᅜ	口口	-
deen															
種					付						取付				
Н) ッド取						-41				
	控工 (腹起)				控工 (タイ材) タイロッド取付						^{控工} (タイ材) タイワイヤー取付				
枝番	4 (腹				5 (立 ((((((()				
朱	3				ĸ						m				
絙	= ₩:	∉ H(§	製矢板	片)		十(駕)	板式)					(鋼矢板	ᆏ)		
ተ	4 출	政施 下	+		4 競類	8日					4 殷権	Н			
쁿	7 港歩	に・漁	党 號		て港湾・	漁港	艦				て港湾・海	黒港編			

	摘																								
	测定简所																								
	测定基準	施工中適宜 打込完了時 測定単位 1㎝	トランシット、スチールテーブ等により測定 打込完了時 20枚につき1枚及び計画法線の変化点 測定単位 1cm	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定 打込完了時 20枚につき1枚及び計画法線の変化点 測定単位 1/1000	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定施工中適宜 打込完了時(両端部) 測定単位 1cm 1/1000	レベルにより測定 打込完了時、20枚につき1枚 測定単位 1cm	全数 観察 (水中部は潜水士)	20本に1本	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数 過点對分 4	现在平位 ICII	レベル等により測定tryとことできた。	3122元 J 味、主致 測定単位 1cm	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込兲了時、全数 測定単位 1。	支持抗は全数、支持杭以外1220本に1本	トランシット、スチールテーブ等により測定	打込完了時、全数	測定単位 1cm	レベル等により測定	打込完了時、全数 測定単位 1㎝	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	測定単位 1。	
	規格値	+ 矢板 1 枚幅 - 0	設計図書による	設計図書による	上下の差が矢板 1 枚幅未満 2/100以下	± 50				100以下		G Li	± 50	直杭2。以下	斜杭3。以下			100以下			+50		直杭2。以下	斜杭3。以下	
	測定項目	失板壁延長	矢板法線に対する出入り	矢板法線に対する傾斜	矢板法線方向の傾斜	矢板天端高	矢板継手部の離脱	打込記錄		杭頭中心位置		排 社 社	小人头而同		元の1頃科	打込記錄		杭頭中心位置			杭天端高			イバしてに見かさ	
	工種	コンクリート矢板工						劉昭杭 工 ✓ △四北 ✓			,						(コンクリート机)								
	枝番								7																
	偨	7						2								2									
	節	2 ₩	₩Н(П	ソクコート	矢板式)			13	∮ ₹	ŧH	(體和	武))		4+	₩ ‡	₹ ⊦	H (П	ンク:	<u></u>	<u>_</u> _	計)
Ī	ተ	4	般施工					4	14	版施	H	-				4	;	設は	選 H	-					\exists
	삁	7 港	ぎ・漁 港	循				/ ‡	拠別	ű·	Ų	押。	匪			7	把!	ぎ・	無	腴	霏				\exists

相	,							
斑								
占	:							
無								
{H								
亓								
	tm		は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、					可
	等で測別		等で測(上を測 1は、2,5 1は、3,5 1は、3,5 1は、1,5 1 1は、1,5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		5. 5.			7) 夜沙
T 無	 ス ス ス ス ス		レベル(3点り、 3点り()()()()()()()()()()()()()()()()()()()		の指示			上段の記
进	ΝĖ		音響測深機、レッド又はレベル等で測定 測点間隔は10m以下とし、3点以上を測定 但し、マウンド厚2m以下の場合は、2点以 上を測定 異形7 ロクの据付面(整積)は()の規格値と する		天端中心上又は監督職員の指示による。 測定単位 10cm		ful	据付完了後、法線上(最上段のみ)を測定測定単位 1cm
河	、 「 点間隔 10cm		、 レッ 10 m以 V ド厚 V ド厚 03据付置 03据付置 10 cm	測線間隔10m以下 測定単位 10cm	又は開 10cm	運車	10個に1個以上測定 観察	、 法線 1cm
典	選済機及び選単位		音響測深機、レ・ 測点間隔は10ml 但し、マウンド 上を測定 異形プロッの据行 する 測定単位 10cm	測線間隔10m以 ⁻ 測定単位 10cm	天端中心上又1点 測定単位 10cm	型枠搬入後適宜観察	に1個に	第二 章 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位
-	世 三 三 三 三 三 三		音測但上異す測響点し宏形る定	測定	K 誤 定	型 翻 禁 際	10個 観察	据
重								
松			(直角)	1 75	- 12			
亞	± 500	± 100	±500 (法面に直角) (±300) (法面に直角)	+ 規定しない - 200	+規定しない - 200			
			# #	+ }	+ '			
回則		の法面						
(H		大 から1mc				法 ヅク)	観 ック)	
兩		岸壁前面の天端 及び天端肩から1mの法面		唖		型枠形状寸法(異形プロック)	ブロック外観(異形ブロック)	
	天端面	平型及び) 注	天端幅	说	型 (類)	ブロミ	迎
垂	!					<u>щ</u>		4)
 -	1 3					7 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		7.T かり指
	五					被覆ブロックエ (被覆ブロック製作)		被覆ブロックエ(被覆ブロック据付)
μVn						被覆(後		被覆(被
を対						<u></u>		7
智格	_	・根固				5 被覆・根	 红丽山	5 被覆・根固工4
加	+	福工	1			4 一 殷 结 — 2 2 2 2 2 2 2		4 一 般 施 工 - 7 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
即	+	·漁港編				て港湾・		フ港湾・漁港編

摘要									(注)本体がケーン//の標金	ケーンン質量	2000t未満	至200	+ 300							
所																				
逦																				
田																				
熏																				
測 定 基 準	型枠取外し後全数測定 到定単位 1~	MAKE # 122 COII				据付完了後、法線上(最上段のみ)を測定 測定単位 1cm		レベルにより測定 天端面は、1スパンにつき4箇所以上測定	パラペットJ真ബは、1スパンにつき2箇所以上測定 判定単位 1cm	1スパンにつき3箇所測定 測定単位 1cm		法線上 測定単位 1cm	トランシット、スチールテーブ等により測定 1スパンにつき2箇所測定 測定単位 1cm	1スパンにつき3箇所測定 測定単位 1cm	1スパンにつき3箇所測定 測定単位 1cm	法線上 測定単位 1cm	トランシット、スチールテーブ等により測定 1スパンにつき2箇所測定 測定単位 1cm	スパン毎測定 測定単位 1cm	上部コンクリート(岸壁)を適用する。	梁(高さ、幅)、床版厚は型枠検査による。
規格 値	+20 -10	+ 20 - 10	+ 20 - 10	± 10				± 20	+50	± 30	+ 50	+ 規定しない - 0	± 50	±20	±20	+ 規定しない - 0	+30			
定項 目								天端幅10m以下 の場合	天端幅10mを超って場合	天端幅10m以下 0場合	天端幅10mを超える場合		より	141			より			
測	闡	高さ	長さ	<u> </u>	対角線		延 長	天端高又は	や動		光漏晶	延長	法線に対する出	天端高又は厚さ	天端幅	延長	法線に対する出	防舷材ベッド		
工種	# 根固プロックエ (根固プロック									上部コンクリート	(桟橋)									
枝番		_				2														
₩	2					2		2												
					Н															
神	4				100			4												
	即 宗 校番	草 即 条 校笛 測 正 頃 目 現 格 値 測 正 昼 準 測 正 箇	章 即 条 校畜 工 権 測 正 頃 目 規 格 値 測 正 基 準 測 正 箇 所 消 4 15 5 根固プロック製作 値 +20 - 10 型枠取外し後全数測定 一 被 湯 1 (根固プロック製作) 高さ +20 - 10 測定単位 10m	章 lin 条 校音 上 種 測 正 頃 目 現 格 値 測 正 基 準 測 正 園 所 消 4 15 5 根因ブロック工 幅 +20 - 10 型枠取外 C後全数測定 第 一 被 覆 1 (根因ブロック製作) 高さ +20 - 10 測定単位 1cm 般 覆 下 +20 - 10 1c 施 · ・ +20 - 10 1c	章 lin 条 校音 上 種 測 正 頃 目 現 格 値 測 正 基 準 測 正 園 所 消 4 15 5 根因ブロック型作) 幅 +20 - 10 型枠取外 C後全数測定 一 被 覆 1 (根因ブロック製作) 高さ +20 - 10 測定単位 1cm 般 覆 (程) +20 - 10 単位 1cm 施 · - +20 - 10 単位 1cm 工 根 - +20 - 10 単位 1cm	章 節 条 校畜 上 種 測 正 量 平 測 正 量 平 測 正 量 平 測 正 量 平 測 正 量 平 測 正 量 平 測 正 量 下 類 4 15 2 2 3 4 15 2 3 4 15 2 3 4 15	4 15 5	4 15 5 (株国プロック工) 利 正 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	4 15 5 根固プロック型 機 相固プロック型 編 日	4 15 5 株園フロック工 福	単	4 15 5 株 松雪 L 種	4 15 5 (報酬 上	# 15	# 15 5 4 相図プロックT	1	## 56 5 Raid To your management of the control	# 5	1	1

強													
严													
細													
一													
戻													
							ואבו						
						手により	77を各基						
#					数	テープ等	中心部				效	数测定	数測定
山	型枠頭外し後全数 測定単位 1cm レベルにより測定 据付完了時、中心部、全数 測定単位 1cm トランシット、スチールテーブ等により測定 電付完了時、全数 調定単位 1cm 据付完了時、各スパン毎、中心部を各基 測定単位 1cm 完了時、全数、天端両端 完了時、全数、天端両端 完了時、全数、天端両端							後面	心点	喪	幾	幾	
三	後全数 cm				に 所 で し 10m 10m	ト、ス ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、各ス. 1cm	数、天i 1cm	数、前 1cm	1)測定 数、中, 1cm	(10m 10m 10m 10m 10m 10m 10m 10m 10m 10m		: 10m 1/2
775	型枠取外し後全数 測定単位 1cm				レベルにより測定 賭付完了時、中心 測定単位 1cm	トランシット、ス: 定 据付完了時、全数 測定単位 1cm	据付完了時、各 測定単位 1cm	完了時、全数、天端両端 測定単位 1cm	完了時、全数、前後面 測定単位 1cm	レベルにより測定 完了時、全数、中心点 測定単位 1cm	取付完了時、中心部、全数 測定単位 1cm	取付完了時、中心部、全数測定測定単位 1cm	取付完了時、中心部、全数測定測定単位 1cm
	型型型型				7 雑覧	十 元 明 明 以 京 成 成	据位测定	光光	完美	スピー	 	到河河	到河河
靊													
規格					± 20 ± 20								
#*	+ 20 - 10	+20 - 10	+20 - 10	+ 10	曲柱 直柱 1								
					<u> </u>								
_						(i)		()	(≱:	i₹)			
定通						√用2-		型) イ-	-ト(長さ	号) 4-			
展						卸に対す	æ	-(1 <i>6</i> 7	-(1 <i>7</i> /	-(ı 47	Rimi	July 1	102
	■	恒	机	薩	光調	岸壁前面に対する出入り	中心間隔	基礎コンクリート(幅)	基礎コンクリー	基礎コンクリート(高さ	取付位置	取付高さ	中心間隔
重	<u> </u>												
l.,	上部プロックエ (上部プロック製作) 系船柱工												
H	上部ブロックエ	ジ コ 合			H						H	H H	
ы⁄т	上部了	Ü			係船柱工						(系船)環工	防舷材工	
条 枝番	~				61							-	
短	16 3	胎			17 2 付 屬								Н
楖	4 殷福工								4 一 級 福 日 4 一 級 福 日				
霏	て港湾・漁港編 て港湾・漁港編								7港湾・漁港編 7港湾・漁港編				

	桐安											
f	듄											
**	Ð											
{	円											
Ā	灵											
‡ {	湖 疋 奉 年	レベルにより測定 取付完了時、中心部、全数 測定単位 1cm	トランシット、スチールテーブ等により測定 定 取付完了後中心部を1点測定 測定単位 1cm	上部エ1スパンにつき2箇所測定 測定単位 1cm	目視による観察	完了時適宜測定	取付完了後、全数 目視(潜水士による)	取付完了後、測定端子取付箇所毎 測定単位 1mV	レベル等により測定 取付完了後、上端高さ 鋼管杭は、全数 矢板は、1打設3箇所以上	レベル等により測定 完了後、上端・下端高さ 鋼管杭は、全数測定。 矢板は、1打設箇所以上。	型枠搬入後適宜 観察	10個に1個以上測定 観察
41	祝 셤 ။		± 30					飽和かんこう電極基準 - 770mV 海水塩化銀電極基準 - 780mV 又は飽和硫酸銅電極基準 - 850mV				
ł	测压填目	天端高	岸壁前面に対する出入り	取付問隔	塗装	警戒色(シマ模様)	取付位置	電位測定	取付高さ	ね	型枠形状寸法(異形プロック)	ブロック外観 (異形ブロック)
	一 煙	車止め・縁金物工					防食工 (電気防食)		防食工 (FRPモルタルライニング)	防食工 (ペトロラタムライニング) (コンクリート被覆) (防食塗装)	消波プロックエ (消波ブロック製作)	
# #	位即						1		2	ж 4 г	3 %	
ŧ	伥	2					9		9	9	3	
¥	田	7寸属	Н				17 付	麗 日	7 节属工	1	8 消 波	Н
: -	마		絕工				4	般施工	4 一	4 一般絕工		摇 H
í	藍	7港湾・漁港編			・港湾·漁港 編			湾・漁港編	フ港湾・漁港編	て港湾・漁港編	て港湾	漁港編

	摘要					マット等を 使用する 場合を含む								
	測 定 箇 所					7 4								
	测定基準	据付完了後、法線上(最上段のみ) 測定単位 1cm	適宜 測定単位 1cm		測定単位 陸上 1cm 水中 10cm	音響測深機 レッド又はレベルで測定 測定間隔は10m以下とし、3点以上を測定 但し、マウンド厚2m以下の場合122点以上 を測定。	測線間隔 10m以下 測定単位 10cm	天端中心上又は監督職員の指示による。 測定単位 10cm	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mつき1箇所以上測定 測定単位 10cm	1枚につき2点測定 測定単位 1cm	マットの中心を区間毎及び全長 測定単位 10cm	測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下 測定単位 1cm	音響測深機又はレッドで測定 測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下 測定単位 10cm	
	規格値			+ 規定しない - ブロック高の1/3	±200 場所打下面 ±50 エプロン(水叩)下面 + 0 - 100	±200 (法面に直角) 均しを行わない面は±500	+ 規定しない - 100	+ 規定しない - 100		500以上(アスファルトマ 1枚につき2点測定ット、繊維系マット、ゴム 測定単位 1cm マット) 300以上(合成樹脂系マッ	+規定しない - 100	+ 100	+ 規定しない - 0	
	測定項目	延長	天端高(層積)	天端高(乱積)	天端面	法面	天端幅	登 亚	敷设位置	重な幅	至長	地盤高(陸上部)	地盤高(水中部)	
	五 本	消波プロックエ (消波プロック据付)			表込工(裏込むし)				裏込工 (吸出し防止材)			裏埋工 (裏埋材)		
H	大	2	I		m				4					
F	张	3	, per : :		C	L mil L .			2			m		
L	三三三		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		+ - 8 色 - 6 黒 込・黒				4 一般施工 6裏込・裏埋工					
H	票		フ港湾・漁港編→ 土 般施工→ 十 般施工							児・漁港編 		∠ 港 添・4 — 銀 ☆		

	摘要					道路舗装	は一般土木の規程	を 適用す る。		道路舗装は一般土	木の規程・第四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	る。の。	道路舗装は一般土	木の規程・第四十	を 画 る。 の。	道路舗装	は一般土 木の規程	を適用する	ð
単位	測 定 箇 所	測 定 箇一般土木の規程を適用する																	
	測 定 基 準	レベルにより測定 法肩、法尻及び中心を延長20mに1箇所以上 測定単位 1cm	延長20mlこ1箇所以上 測定単位 10cm	延長20mlこ1箇所以上 測定単位 10cm	両端及び中心 測定単位 10cm	レベルにより測定 中心及び両端部の3点を延長20m毎に1箇所 測定単位 1cm	レベルにより測定 1000mlに1箇所 測定単位 1mm	延長20m毎に1箇所 測定単位 1cm 雨端 2衛所		レベルにより測定 1000㎡に1箇所 測定単位 1mm	延長20m毎に1箇所 測定単位 1cm	両端 2箇所 測定単位 1cm	レベルにより測定 中心及び両端部の3点を延長20m毎に1箇所 測定単位 1cm	延長20m毎に1箇所 測定単位 1mm	両端 2箇所 測定単位 1cm	レベルにより測定 中心及び両端部の3点を延長20m毎に1箇所 測定単位 1㎝	レベルにより測定 1000㎡に1箇所 測定単位 1mm	延長20m毎に1箇所 測定単位 1cm	西端 2箇所 測定単位 1cm
	規格値					±40	+ 規定しない - 45	+ 規定しない - 50 + 相定しない		+ 規定しない - 25	+ 規定しない - 50	+ 規定しない - 0	+ 規定しない - 10	+ 規定しない - 25	+ 規定しない - 0	∓ 50	+ 規定しない - 45	+ 規定しない - 50	+ 規定しない - 0
	測定項目	10c																	
		地盤高	雪	法長	延長	恒	也	찉	说	世	■	照	10 <u>m</u>	■	近任	他	七 <u></u>	哩	照
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	工種	裏埋土工 (土砂掘削) 〈+奶&+)	(十川八十)			コンクリート舗装工 (下層路盤)				コンクリート舗装工 (上層路盤)			コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版)			アスファルト舗装工 (下層路盤)			
えび規	枝番	- c	٧																
長準 乃	巛	4								ω			CO απιμε			4			
管理	頭	5 電 次		, 型	1	23 電影				23 無款			公 無禁			2 舗装			
米形	4 1 2 4 4 4 3 4 4 4 5 4 6 </th <th></th> <th></th> <th colspan="3">4 殷絕 </th> <th></th> <th>() ()</th> <th></th> <th></th> <th>版施工</th> <th></th> <th></th>					4 殷絕				() ()			版施工						
米田	郻	て港湾				フ港湾・漁港編			7 港湾·漁港編			て港湾・漁港編		て港湾・漁港編					

m.	摘要	道路舗装は一般土	猫	を適用する。	道路舗装は一般土	木の規程	を適用する。	路等米	→	を適用する。		
単位:mm		割 ゼ	K	₩ w°	担 ゼ	*	₩ %		<u> </u>	₩ %		
,	所							区間長が100m未満の場合は平坦性を 略することができる。				
	笛戶							場合は。				
	定(n未浦の バできる				
	演							夏が100 ることな				
								区間長が100m未満の4 省略することができる。				
					温			씚				
	乘				プ等で			プ等で			題 () () () () () () () () () (
	蕡				ルテー			ルデー			により;	
	定	型	箇所		:スチー	箌所		:スチー	勤所		全数をわた図画をおた図画	_
	演	レベルにより測定 1000㎡に1箇所 則定単位 1cm	n毎に1(立 1cm	箇所 立 1cm	<u>)コアを</u> 二(箇所 立 1mm	n毎に1(立 1mm	箇所 立 1cm	<u>7コアを</u> 11箇所 7 1mm	n毎に1(ユ 1mm	2箇所 ∮位 1cm	(後) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	とる観測
		レベルにより測 1000㎡に1箇所 測定単位 1cm	延長20m毎に1箇所 測定単位 1cm	両端 2箇所 測定単位 1cm	抜き取りコアをスチールテープ等で測定 1000miに1箇所 測定単位 1mm	延長20m毎に1箇所 測定単位 1mm	両端 2箇所 測定単位 1cm	抜き取りコアをスチールテープ等で測定 1000m/に1箇所 測定単位 1mm	延長20m毎に1箇所 測定単位 1mm	両端 2箇所 測定単位 1cm	塗装完了後、全数 目視 (承諾された図面により確認)	全数 目視による観測
								.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
	格値	172	172	1 72	1 73	1 12	1 12	1 12	172	172		
	規	規定しない 30	規定しない 50	規定しない 0	規定しない 12	規定しない 25	規定しない 0	規定しない 9	規定しない 25	規定しない 0		
		+ 1	+ 1	+ -	+ 1	+ -	+ -	+ 1	+ 1	+ 1		
	項目											
	览											
	展	1		tub.			tub.	1		tub.	塗装箇所	
		せ	■	延長	せ	■	延長	が一	匷	延長	新	外観
(選集)	種	H			H			H				
源・※	Ι	アト舗といる。			ト無			トキ			工	
製) 連		アスファルト舗装工 (上層路盤)			アスファルト舗装工 (基層)			アスファルト舗装工 (表層)			維持塗装工 (係船柱塗装) (車止塗装) (縁金物塗装)	取壊し工
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	枝番	F ~			F ~			F ~			2 7 2 世 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	台
準及7	条	4			4			4			7	2
新理基	節	23 舗款	H		23 舗款	Н		23 無数 23	— <u>—</u>		2維持補修工	5 構造物徴去工
来形鲁	神		版施			段 福			般 摇		4 一般 絕 工	4 一 般
詽	፨	編っ港湾・漁港編っ港湾・漁港編		港 貒	フ港湾・漁港編			て港湾・漁港編	て港湾・漁港編			

单位:mm	摘要										
声	測 定 箇 所										
	測 定 基 準	トランシット、スチールテーブ等により測定	全数潜水士による観察	全数 測定単位 1mm	全数 目視又は潜水士による観察	全数	全数 目視又は潜水士による観察	トランシット、スチールテープ等により測定	全数 目視による観察	トランシット、スチールテープ等により測定	全数 目視又は潜水士による観察
	規格値										
	測定項目	幅、高さ、延長	外觀	形状寸法	外観	形状寸法	外観	幅、高さ、延長	外観	幅、高さ、延長	外観
出来形管理基準及び規格値(港湾・漁港)	里 工	撤去工 (水中コンクリート撤去)		撤去工 (鋼矢板等U断撤去) (鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去)		撤去工 (腹起・タイ材撤去) (ケーソン撤去)		撤去工 (舗装版撤去)		撤去工 (石材撤去)	
び規	枝番	1		8		1 0 3		4		rv	
[準及	巛	к		ю		m		m		m	
管理基	節 の構造物徴去工 の構造物徴去工		5 構造物徴去工		3 構造物撤去工		3 構造物撤去工				
K形 鲁	章 4 1 般施工 4 1 般施工		摇 H	4 競技			組工	4 一			
#	貒	フ港湾・	漁港編	7港湾	・漁港編	フ港湾・	漁 港 編	て港湾	・漁港編	て港湾	・漁港編

様式・出来形-43

Ш 皿 件 平成 現場代理人 すみ肉溶接出来形管理表

工事名

●2つの脚長a,bの長さが異なる場合、サイズの算定には、短い脚長を基準に45。の線を引き、これをサイズとする。この場合45。の線はすべて溶融金属中にあること。一溶接ビード形状が凹型の場合(左図の右側)、溶接ゲージにより、直接のど厚を計測出来るため、サイズは計測しなくて良い。 溶接長 サイズ σ 뒬えの ပ ٥ 溶接脚長 ※サイズdの算定について σ 設計値 実測値 測定箇所 卌 ٩ 溶接長 溶接金属 サイズ - 45°, 0 뒬えの ပ 0 σ 溶接脚長 7°5°, C a α 溶接金属 設計値 実測値 測定箇所 쌔 ٩

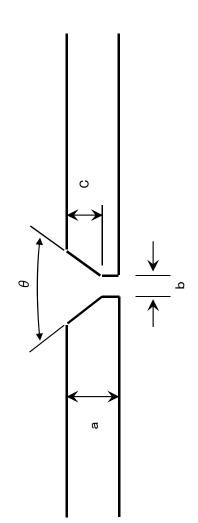
様式 出来形一44 Ш 町 卅 平

工事名:

突合せ溶接出来形管理表

現場代理人

岷 쓮 赕 のど厚 ルート間隔 開先深さ 開先角度 θ ပ ٩ Ø 設計値 実測値 測定箇所 岷 쓮 渙 ルート間隔 開先深さ 開先角度 θ ပ Ф **直**えの a 設計値 実測値 差 測定箇所



様式・出来形-45

Ш

匹

枡

平限

現場代理人

鉄筋フレア溶接出来形管理表

工事名:

崊 搩 渙 - のど厚 - a 鉄筋径 D 設計值 実測値 差 測定箇所 岷 挆 渙 のど厚 a 鉄筋径 D 設計值 実測値 差 測定箇所